

わが国の社会福祉教育，特にソーシャルワークにおける
基本用語の統一・普及に関する研究

報 告 書

2005（平成17）年3月

社団法人 日本社会福祉士養成校協会

目次

あいさつ 1

はじめに 2

I. 研究概要..... 3

 1. 研究目的 3

 2. 研究期間 3

 3. 研究方法 3

 4. 研究の成果と課題..... 3

 5. 研究主体 4

 (1) 委員 4

 (2) 項目抽出協力者（主に大学院生） 5

 (3) 執筆協力者 5

 (4) 事務局 5

II. 本研究の成果 6

 用語定義リスト 6

III. 研究関連資料..... 22

 1. 項目抽出文献リスト 22

 2. 第1次抽出項目..... 25

 3. 第2次抽出項目..... 55

 用語の重要度の決定 55

 定義の抽出作業..... 55

あいさつ

我が国の社会福祉士養成校数は、少子・高齢化の進展などの社会的要因を背景に、近年急激に増加しており、2000年に発足した本協会の会員校も238校に達しています（2005年3月現在）。今後もさらに社会福祉専門職養成～とりわけソーシャルワーカー養成～に対する社会の期待は高まることが予想されています。社会福祉士国家試験も17回を数え、社会福祉士数も7万人に達しようとしています。

しかしながら、養成校や教員ごとに社会福祉士養成教育の内容・水準には大きな格差があると指摘されています。それは、社会福祉学研究自体が依然発展途上にあることにも由来しているといえるでしょう。その典型例が、社会福祉教育における専門用語の定義です。理論や学説とともに訳語や造語などが百家争鳴で、それが研究者・教員間の共通認識となっていないまま用いられているのが現状です。

このような社会福祉・ソーシャルワーク用語に対する共通認識の未確立が、研究者相互の認識共有を妨げているだけでなく、社会福祉教育の混乱、国家試験出題用語の適否、ひいては現場実践や一般国民への社会福祉概念の浸透を妨げているなど、大きな問題・混乱を起こしているといえるでしょう。こうした問題意識にたって、本協会では、専門用語委員会を設置し、社会福祉士の専門援助技術であり実践活動であるソーシャルワークに関連する用語の検証と統一化について検討をして参りました。

本研究に対し、多大な理解と支援を賜りました三菱財団の皆様に厚く御礼申し上げますとともにご多用の中、本研究にご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

社団法人 日本社会福祉士養成校協会

会 長 高 橋 重 宏

はじめに

国家資格・国家試験制度の創設，社会福祉教育の拡大，そして社会福祉学の学問的な深まりに呼応し，社会福祉関係の用語辞典も多く出版されるようになりました。しかしながら，それらは執筆者個人の見解や編集委員の見解は反映しているものの，十分にオーソライズされ学会の定説となっているものとはいえません。社会福祉・ソーシャルワーク用語に対する共通認識の未確立が，社会福祉研究の発展と社会福祉教育の充実を妨げているといえます。

本研究では，社会福祉士の実践活動であるソーシャルワークに関する用語を取り上げ，様々な文献に取り上げられている頻度の高い 151 用語に絞り，その定義の検討を行いました。様々な文献からソーシャルワーク関連用語を抽出した作業初期段階では約 1 万語が挙げられました。しかし，社会福祉分野全般に範囲を広げると，さらにその数倍・数十倍になることが予想されます。このたびの我々の研究では，人的，物的，時間的限界等により，151 用語というきわめて限定的な成果しか示せませんでした，この研究を機に，さらに多くのソーシャルワーク・社会福祉関連用語に関する統一的定義，翻訳，定説づくりが進みますことを祈念いたします。

本研究にあたっては，社会福祉士養成校協会加盟校の先生方，大学院生の皆さんをはじめ，様々な方々の協力をいただきました。また，文献の入手，データベースの構築，委員交通費など，三菱財団からの財政的援助なくしては研究がなりたちませんでした。この場をお借りして助成に対して深くお礼申し上げる次第です。

社団法人 日本社会福祉士養成校協会

専門用語委員会

委員長 山 縣 文 治

I. 研究概要

1. 研究目的

社会福祉・ソーシャルワーク用語に対する統一的認識の未確立によって、研究の積み上げ、社会福祉士養成教育の範囲の明確化、国家試験出題用語の概念規定の明確化などに大きな問題・混乱を起こしているといえる。本研究では、社会福祉士に求められる専門用語、とりわけソーシャルワーク関連用語の収集・比較検討および統一を行い、社会福祉士養成教育水準向上・共通化に資する。

2. 研究期間

2002年4月～2005年3月

期 間	研究作業
2002年4月～2002年6月	研究方針・方法・研究スケジュール等の企画
2002年7月～2002年10月	院生協力者の募集
2002年11月～2003年4月	用語抽出作業
2003年5月～2003年7月	用語絞り込み、暫定定義作成
2003年8月～2003年9月	ホームページへの公開、パブリックコメントの募集
2003年10月～2005年3月	用語定義の校正・修正、まとめ

3. 研究方法

本研究は、社団法人日本社会福祉士養成校協会に専門用語検討委員会を設置し、この委員会が中心となってソーシャルワーク関連用語の収集・比較検討および統一化を試みた。その方法は以下のとおりである。

1. ソーシャルワーク関連文献の収集・検討

抽出元文献は、比較的新しい（概ね過去3年以内の）社会福祉士向け援助技術論・演習のテキスト・参考書を対象とし、さらに影響の大きかった文献や比較的新しい辞典等も加えた。委員会において検討し、文献103冊（Ⅲ－1（P. 22）参照）を採用した。

2. 文献からの用語抽出

項目抽出協力員の協力により11,594語のソーシャルワーク関連専門用語を抽出した。

3. 検討する用語の選定・絞り込み

委員会において11,594語から、頻出用語順に494用語に絞込んだ。

4. 選定された用語の元文献の説明文・解説文引用・入力

選択された494用語について、大学院生の協力により、抽出元文献から説明・定義を引用入力した。

5. 用語の再絞り込み

複数定義・説明を検討し、用語仮定義の作成

委員会において、494用語の説明・定義を検討しながら、領域・ジャンルを代表する151用語にさらに絞り込み、各用語に対する複数の説明・定義を比較検討し、仮定義を作成した。

6. パブリックコメントを募集

インターネット上に専用ホームページを開設し、仮定義を付した用語を掲載し、加盟校教員が自由に閲覧できるようにし、用語仮定義に対する意見を募集した。

7. 意見をふまえ用語定義の再検討・最終調整

委員会においてパブリックコメントを踏まえ、用語仮定義の再検討をおこなった。

8. 報告書の作成および関係行政機関・加盟校等への配布

最終的に用語定義をつけることができた用語については報告書として印刷し、関係行政機関・加盟校等へ配布する。

4. 研究の成果と課題

「研究の背景・目的」においても触れているように、わが国の社会福祉学の領域では、従来から用語辞典の類はいくつか発行されているものの、各用語の定義・解説についてはその分野を専門とする分担執筆者に任されるか、せいぜい編集代表者・監修者によるチェックを経るのみであった。その点では、欧米のような専門用語の定義付けに学会や協会が取り組む、あるいはお墨付きを与えるといった状況に比して、大きく遅れをとっているといわざるを得ず、定義・意味について共通認識を持つという面が弱かったことは否めない。

本研究では、百数十語についてのみではあるが、これまで取り組まれることのなかった百人百様の説明・

意味づけ・解釈が行われていたソーシャルワーク関連用語を一つ一つとりあげ、それぞれの抽出元文献で紹介されている様々な説明や定義を丁寧に比較検討した。これらを踏まえて委員会合議で定義を作成し、かつ社養協会員校教員からも意見を求めたことに大きな意義があるといえる。また、定義づけされたこれらの用語の普及を図ることで、今後さらに、社会福祉研究、社会福祉士養成教育、社会福祉士国家試験、社会福祉現場実践等の向上に資することが期待される。

本研究によって、社会福祉教育や国家試験で頻繁に取り上げられるソーシャルワーク関連用語についての一定の定義を示すことができた。今後は、これらの定義を共通理解とすべく関係諸機関・加盟校への普及・定着に取り組んでいく必要がある。

本研究では、用語定義の比較検討や新たな定義の作成に思いのほか膨大な労力を要したため、結果として専門用語数は百数十語に絞らざるを得なかった。しかしながら、社会福祉学研究、社会福祉士養成教育、国家試験、現場実践の向上発展に対する本研究の持つ意味は大きいと考えられ、さらに今後もソーシャルワーク全般、社会福祉全般へと対象領域を拡大して専門用語の検討を継続していく必要があると考える。また、養成課程において活用できる「学生にもわかる定義」づくりも課題である。これらについて研究を進めていくためには、本研究助成を機に設置された社養協専門用語委員会の役割がますます重要となる。本委員会が中心となり、関係学会との連携も深めつつ、社会福祉専門用語の比較検討・統一化・普及に継続して取り組んでいく必要があろう。

5. 研究主体

(1) 専門用語委員会	①委員会出席 ②用語選定 ③用語定義比較 ④用語定義作成
(2) 項目抽出協力者	①用語抽出 ②用語定義抽出
(3) 執筆協力者	①用語定義比較 ②用語定義作成
(4) 事務局	①予算管理 ②各種依頼・調整・手配等 ③会議等の準備 ④予算執行 ⑤DB管理 ⑥その他の作業

(1) 委員

委員名	所 属
高橋 重宏	日本社会事業大学 専門職大学院
山縣 文治	大阪市立大学 生活科学部
中谷 陽明	日本女子大学 人間福祉学部
渡部 律子	関西学院大学 総合政策学部
北島 英治	東海大学 健康科学部
横山 穰	北星学園大学 社会福祉学部
加藤 純	ルーテル学院大学 文学部
戸塚 法子	淑徳大学 社会学部
澁谷 昌史	日本こども家庭総合研究所
藤林 慶子	東洋大学 社会学部
松山 真	関西国際大学 人間学部
友川 礼	東京聖星社会福祉専門学校 介護福祉学科
高山 由美子	ルーテル学院大学 文学部
森 成樹	臨床福祉専門学校臨床福祉学科
木戸 宣子	日本社会事業大学 専門職大学院
川上 富雄	川崎医療福祉大学 医療福祉学部
有村 大士	日本社会事業大学大学院 博士後期課程

所属は 2005 年 3 月現在

(2) 項目抽出協力者（主に大学院生）

	名 前	所 属
1	小野セレスタ摩耶	関西学院大学大学院 博士課程後期課程
2	服部 律子	川崎医療福祉大学 博士後期課程
3	山口 真里	京都府立大学大学院 博士後期課程
4	田嶋 英行	東京都立大学大学院 博士後期課程
5	板野 美紀	関西学院大学大学院 博士課程後期課程
6	鵜浦 直子	大阪市立大学大学院 博士前期課程
7	梅川 久美子	立命館大学大学院 修士課程
8	中島 健一郎	日本社会事業大学大学院 博士前期課程
9	西梅 幸治	京都府立大学大学院 博士後期課程
10	上野 彰子	日本社会事業大学大学院 博士前期課程
11	我謝 美左子	日本社会事業大学大学院 博士前期課程
12	石井 忍	神奈川県立保健福祉大学 助手
13	小山 菜生子	日本社会事業大学大学院 博士前期課程
14	有村 大士	日本社会事業大学大学院 博士後期課程

所属は 2003 年 3 月現在

(3) 執筆協力者

	名 前	所 属
1	林 浩康	北星学園大学 社会福祉学部
2	池田 雅子	北星学園大学 社会福祉学部
3	石田 慎二	奈良佐保短期大学
4	田中 尚	岩手県立大学 社会福祉学部
5	福田 公教	種智院大学
6	栗田 修司	龍谷大学 社会学部
7	岡田 まり	立命館大学 産業社会学部

所属は 2003 年 3 月現在

(4) 事務局

	事務局担当	所 属
1	古賀 文朗	(社) 日本社会福祉士養成校協会 事務局
2	川上 富雄	川崎医療福祉大学 医療福祉学部
3	有村 大士	日本社会事業大学大学院 博士後期課程
4	中島 健一郎	日本社会事業大学大学院 博士前期課程
5	栗原 拓也*	日本社会事業大学大学院 博士前期課程

所属は 2003 年 3 月現在 (*2005 年 3 月現在)

Ⅱ. 本研究の成果

用語定義リスト

アイデンティティ (IDENTITY)	8	コミュニティ・リレーションズ (COMMUNITY RELATIONS)	14
アウトリーチ (OUTREACH)	8	コミュニティ・ソーシャルワーク (COMMUNITY SOCIAL WORK)	14
アカウントビリティ (ACCOUNTABILITY)	8	コミュニティワーク (COMMUNITY WORK)	14
アクション・システム (ACTION SYSTEM)	8	コンサルテーション (CONSULTATION)	14
アクセシビリティ (ACCESSIBILITY)	8	コンシューマー (CONSUMER)	14
アグレッシブ・ケースワーク (AGGRESSIVE CASEWORK)	8	コンピテンス (COMPETENCE)	14
アセスメント (ASSESSMENT)	8	コンフリクト (葛藤) (CONFLICT)	14
アドボカシー (ADVOCACY)	8	コンプレックス (COMPLEX)	14
医学モデル (MEDICAL MODEL)	8	再保証 (REASSURANCE)	14
意図的介入の原則	9	産業ソーシャルワーク (INDUSTRIAL SOCIAL WORK)	14
イネーブリング (ENABLING)	9	ジェネラリスト・アプローチ (GENERALIST APPROACH)	14
医療ソーシャルワーク (MEDICAL SOCIAL WORK)	9	自己覚知 (SELF-AWARENESS)	15
インターグループワーク (INTERGROUP WORK)	9	自己決定 (SELF-DETERMINATION)	15
インターベンション (INTERVENTION)	9	自己実現 (SELF-ACTUALIZATION)	15
インテーク (INTAKE)	9	支持的技法 (SUPPORTIVE TREATMENT)	15
インテグレーション (INTEGRATION)	9	システム理論 (SYSTEM THEORY)	15
インフォーマル・ネットワーク (INFORMAL NETWORK)	9	実存主義アプローチ (EXISTENTIAL SOCIAL WORK)	15
インフォームド・コンセント (INFORMED CONSENT)	9	社会資源 (SOCIAL RESOURCES)	15
ウェルビーイング (WELL-BEING)	9	社会診断 (SOCIAL DIAGNOSIS)	15
エコマップ (ECOMAP)	10	社会的機能 (SOCIAL FUNCTION)	15
エコシステム (ECOSYSTEM)	10	社会福祉援助技術 (SOCIAL WORK)	15
エコロジカル・ソーシャルワーク (ECOLOGICAL SOCIAL WORK)	10	主訴 (CHIEF COMPLAINT)	15
SST (生活技能訓練) (SOCIAL SKILLS TRAINING)	10	守秘義務 (CONFIDENTIALITY)	15
エバリュエーション (事後評価) (EVALUATION)	10	受容 (ACCEPTANCE)	15
エンカウンターグループ (ENCOUNTER GROUP)	10	終結 (GOALS)	15
エンパワーメント (EMPOWERMENT APPROACH)	10	住民参加 (CITIZEN PARTICIPATION)	16
外傷体験, ト라우マ (TRAUMA)	10	処遇 (TREATMENT)	16
カウンセリング (COUNSELING)	10	焦点化 (FOCUSING)	16
家族システム理論 (FAMILY SYSTEMS THEORY)	10	自立支援	16
家族ソーシャルワーク (FAMILY SOCIAL WORK)	10	スーパービジョン (SUPERVISION)	16
家族療法 (FAMILY THERAPY)	10	ストレングス視点 (STRENGTH PERSPECTIVE)	16
課題中心アプローチ (TASK-CENTERED APPROACH)	10	スペシフィック・ソーシャルワーク (SPECIFIC SOCIAL WORK)	16
カタルシス (CATHARSIS)	10	心理・社会的アプローチ (PSYCHOSOCIAL APPROACH)	16
学校ソーシャルワーク (SCHOOL SOCIAL WORK)	11	診断主義 (DIAGNOSTICISM)	16
感情の反映(反射) (REFLECTION)	11	生活場面面接 (LIFE SPACE INTERVIEW)	16
環境療法 (MILIEU THERAPY)	11	生活歴 (LIFE HISTORY)	16
間接援助技術 (INDIRECT SOCIAL WORK)	11	生態学モデル (ECOLOGICAL MODEL)	16
危機介入 (CRISIS INTERVENTION)	11	精神科ソーシャルワーク (PSYCHIATRIC SOCIAL WORK)	16
危機理論 (CRISIS THEORY)	11	精神分析理論 (PSYCHOANALYSIS)	17
機能的アプローチ (FUNCTIONAL APPROACH)	11	セルフヘルプグループ (SELF-HELP GROUP)	17
共感 (EMPATHY)	11	相互援助モデル (RECIPROCAL MODEL)	17
クライアント (CLIENT)	11	ソーシャルアクション (SOCIAL ACTION)	17
クライアント・システム (CLIENT SYSTEM)	11	ソーシャル・アドミニストレーション (SOCIAL ADMINISTRATION)	17
クライアント中心療法 (CLIENT-CENTERED THERAPY)	11	ソーシャル・インクルージョン (SOCIAL INCLUSION)	17
クリニカル・ソーシャルワーク (CLINICAL SOCIAL WORK)	12	ソーシャル・プランニング (SOCIAL PLANNING)	17
グループ・ダイナミクス (GROUP DYNAMICS)	12	ソーシャルサポート (SOCIAL SUPPORT)	17
グループワーク (GROUP WORK)	12	ソーシャルワーカー (SOCIAL WORKER)	17
ケアマネジメント (ケースマネジメント) (CARE MANAGEMENT (CASE MANAGEMENT))	12	ソーシャルワーク・リサーチ (SOCIAL WORK RESEARCH)	17
ケアワーク (CARE WORK)	12	ソーシャルワークの価値 (SOCIAL WORK VALUES)	17
傾聴	12	ソーシャルワークの統合化	18
契約 (ENGAGEMENT CONTRACT)	12	ソーシャルワーク過程 (SOCIAL WORK PROCESS)	18
ケースカンファレンス (CASE CONFERENCE)	12	ターゲット・システム (TARGET SYSTEM)	18
ケーススタディ (事例研究) (CASE STUDY)	12	多問題家族 (MULTI-PROBLEM FAMILY)	18
ケースワーク (CASE WORK)	12	地域福祉組織化 (COMMUNITY ORGANIZATION)	18
ケース記録 (CASE RECORD)	12	直接援助技術 (DIRECT PRACTICE SKILLS)	18
権利擁護	12	転移, 逆転移 (TRANSFERENCE, COUNTER TRANSFERENCE)	18
言語化 (VERBALIZATION)	13	統合理論 (INTEGRATED THEORY)	18
言語的コミュニケーション (VERBAL COMMUNICATION)	13	ナラティブモデル (NARRATIVE MODEL)	18
交互作用 (TRANSACTION)	13	7つの原則	18
交互作用モデル (TRANSACTIONAL MODEL)	13	ニーズ (ニード) (NEEDS (NEED))	19
効果測定 (EFFECTIVE MEASURE)	13	ネットワーク (NETWORK)	19
構造化面接 (STRUCTURED INTERVIEW)	13	ノーマライゼーション (NORMALIZATION)	19
構造的アプローチ (STRUCTURAL APPROACH)	13	バリアフリー (BARRIER-FREE)	19
行動療法 (BEHAVIOR THERAPY)	13	波長あわせ (TUNING-IN)	19
コーディネート (COORDINATE)	13	非言語コミュニケーション (NON-VERBAL COMMUNICATION)	19
コーピング (COPING)	13	ファシリテート (FACILITATE)	19
コミュニティ・ディベロップメント (COMMUNITY DEVELOPMENT)	14	フェミニスト・ソーシャルワーク (FEMINIST SOCIAL WORK)	19
		フォーマル・ネットワーク (FORMAL NETWORK)	19
		プランニング (PLANNING)	19
		マルチメソッド・アプローチ (MULTI-METHOD APPROACH)	19
		ミクロ・メゾ・マクロ (MICRO, MEZZO, MACRO)	19

明確化 (CLARIFICATION)	20
面接技法 (INTERVIEW SKILLS)	20
モデリング (MODELING)	20
モニタリング (MONITORING)	20
問題解決モデル (PROBLEM-SOLVING APPROACH)	20
ライフモデル (生活モデル) (LIFE MODEL)	20
ラポート (信頼関係) (RAPPORT)	20
リーチングアウト／リーチアウト (REACH(ING)OUT)	20
リスクマネジメント (RISK MANAGEMENT)	20
利用者 (ユーザー) (USER)	20
倫理 (ETHICS)	21
レジデンシャル・ソーシャルワーク (RESIDENTIAL SOCIAL WORK)	21

アイデンティティ (identity)

エリクソン (Erikson, E. H) によって理論化された自我の生涯発達の基本概念。①自分は独自で固有な自分であるとする「自己の斉一性」、②「時間的な連続性と一貫性」、③自他ともに何らかの社会集団への帰属感をもち「帰属性」、の3つの軸によって定義される。アイデンティティの形成は生涯を通して行われるが、思春期の第2次性徴を契機に危機が生じ、それを克服することによって青年期には一応の確立をみる。成人期から老人期に、アイデンティティの問い直しによる再危機が体験される。自己同一性、自我同一性、あるいは主体性などと訳されることもある。

アウトリーチ (outreach)

アウトリーチは、地域基盤のソーシャルワーク活動あるいは福祉サービスの提供が重視されるようになり、ソーシャルワークや福祉サービスの一般的実施方法として広がってきた概念。リーチングアウト／リーチアウトが一般化したもの。リーチングアウト／リーチアウトという用語は、接近困難な人（福祉サービスの利用に不安を感じていたり、否定的あるいは拒否的感情をもっており、ソーシャルワーカーが関わるのが困難な人）に対して、当事者からの要請がない場合でも積極的に出向いていき、信頼関係を構築したり、サービス利用の動機付けを行う、あるいは直接サービスを提供するアプローチを指して使われていた。アグレッシブ・ケースワークは、その具体的方法の一つ。

【参考用語】アグレッシブ・ケースワーク

【関連用語】リーチアウト

アカウンタビリティ (accountability)

本来は会計責任という意味。国民の委託を受けた税金・財政を司る行政が、国民に対して会計的な責任を負うこと。自らの行ってきた会計処理に対して、説明を行う責任を有しているというところから、説明責任ともいわれる。最近では、社会福祉事業者（ソーシャルワーカー自身も含まれる）を含め、社会的活動一般について、議会、住民、利用者などに対して、自らの行動の内容や結果の説明を行う責任と解されるようになっていく。この場合、レスポンスビリティ（応答責任）の対語として用いられる。さらに国民に対して包括的・応答的に社会活動を行っていく責任として位置づけられるようになるなど、その概念は多義的になっている。

【参考用語】アカウンタビリティ（行政の説明責任）

アクション・システム (action system)

ソーシャルワーカーが課題あるいは変革を達成する際に協働する人や機関。このなかには、利用者（クライアント）も含まれる。ピンカス (Pincus, A.) およびミナハン (Minahan, A.) が『ソーシャルワーク実践モデルと方法 (Social Work Practice: Model and Method)』のなかで示した、ソーシャルワーカーが活動を展開する際に関連する4つの基本的なシステムの一つ。

※ 4つの基本的なシステムとは、アクション・システム、チェインジ・エージェント・システム、クライアント・システム、ターゲット・システムである。

【参考用語】クライアント・システム

【関連用語】ターゲット・システム、チェインジ・エー

ジェント・システム

アクセシビリティ (accessibility)

一般的に接近の容易さという意味であるが、社会福祉分野ではサービスの利用のしやすさ (accessibility of service) という意味で用いられることが多い。利用のしやすさの具体的内容には、サービスが提供される場所の位置・距離的な適切さ、利用する建物や施設の物理的障壁の解消、利用者に疎外感を抱かせない建造物といったハードウェアの面だけでなく、サービスに関する情報提供の適切さ、利用しやすい利用時間帯の設定、利用手続きの簡便さ、利用者の立場に立った対応といったソフトウェアの面も含まれる。

アグレッシブ・ケースワーク (aggressive casework)

解決すべき問題やニーズを有しているにもかかわらず、その問題を解決できていない、あるいはニーズが充足されていない人々に対して、アウトリーチなどの手法を用いて、積極的に関わろうとするケースワークのこと。1950年代に欧米で好んで用いられた。

アセスメント (assessment)

一般的には評価や査定と訳されることが多いが、ソーシャルワークでは、援助を展開していくプロセスの一段階を指す。エバリュエーション (evaluation) と区別するために、「事前評価」や「初期評価」の訳語が使われることもあるが、現在ではカタカナの原語表記での使用が多い。ソーシャルワークの黎明期には、リッチモンド (Richmond, M.) の著書のタイトル『社会診断 (Social Diagnosis)』にも示されるように、診断 (diagnosis) と呼んでいた。現在では、収集する情報が身体的 (bio)、心理的 (psycho)、社会環境的 (social) と広範囲にわたり、人とその取り巻く環境との相互作用 (person-in-environment)、あるいはクライアントの長所や強み (strength) に焦点をあてる。

アドボカシー (advocacy)

本来、法律分野の用語であるが、ソーシャルワークにおいては、その重要な機能を説明するために以前から使われており、我が国でも「代弁」という訳語が用いられてきた。しかし、近年では公的・私的に権利擁護関連の新しい仕組みが登場してきたことに伴い「権利擁護」という訳語が使われることも多い。もともとケースワークでは、クライアントの利益を守るために、クライアントの立場に立って、クライアントに代わって主張することを代弁的機能として位置づけてきた。現在ではこういった1つの事例にとどまらず、同様の問題やニーズを有する顕在的・潜在的クライアント・グループの利益を守るために、ソーシャルワーカーが何らかの主張を展開することもある。このようなアドボカシーは、「コーズ (cause)・アドボカシー」あるいは「クラス (class)・アドボカシー」と呼ばれている。また最近では、当事者が自らの権利を主張することをより強調する意味で「セルフ・アドボカシー」という用語も登場してきている。

医学モデル (medical model)

人々の抱える問題や生活上の課題を取り除くこと、あるいは修正することで援助を達成しようとする考え方。

病気の原因を探り、その治療を行おうとする、医学的な思考に近いことから医学モデルと呼ばれる。しかしながら医学モデルでは解決しえない問題も多く、医学モデルでの対応の限界性も明らかになってきた。現在では、医学モデルに代わって生態学的システム理論が重視されるようになってきた。

意図的介入の原則

ソーシャル・グループワークにおいて用いられる原則のひとつ。グループワーカーが、メンバーに望ましい影響を及ぼすように、グループに対して行う専門的な働きかけ（介入）。ワーカーとメンバーとの援助関係や、メンバー間の相互作用関係、グループ内の力動を活用、プログラムを活用すること等がある。グループの特性に応じて、役割分担やリーダーシップ、規範などを活用することなどが含まれる。

イネーブリング（enabling）

ソーシャルワークの機能を説明する際に用いられるが、特に決まった訳語はない。イネーブラー（enabler 力を与える人）としてのソーシャルワーカーには、クライアントやクライアント・グループが、自らの力で、問題やニーズを解決していけるように支援する役割が求められる。支援内容の例としては、心理的な支持を与える、考えや計画を整理するのを手伝う、新たなリソース（資源）を紹介する、代弁する等といったことが挙げられる。

医療ソーシャルワーク（medical social work）

保健・医療機関等で行われる社会福祉実践。ソーシャルワーカーが保健や医療分野の職種と協働し、社会福祉の観点から、疾病や障害および住民の健康問題などから派生する生活問題の解決や緩和、予防を図る援助活動。20 世紀の初頭にアメリカのキャボット（Cabot, R. C.）医師が、医療のみでは人の疾病や障害は克服できず、生活問題として疾病を捉えることが必要であるとし、マサチューセッツ病院にソーシャルワーカーを配置したことには始まるとされる。日本では、1920 年代に生江孝之によって済生会病院に、また浅賀ふさによって聖路加病院に医療ソーシャルワーカーが配置されたのが最初とされる。

インターグループワーク（intergroup work）

1940 年代の米国において、当時のコミュニティ・オーガニゼーションの技法の 1 つとして、ニューステッター（Newstetter, W. I.）によって提唱された概念、地域の様々なグループ（機関、施設、団体など）の代表からなるインターグループを組織し、参加している各グループが相互に満足できるような関係を築き、そこで選択された社会的目的の達成を目指してインターグループを運営していくというもの。ソーシャルワーカーには、イネーブラーとしての役割が期待される。

インターベンション（intervention）

ソーシャルワークのプロセスにおいて、ソーシャルワーカーが実際に援助を展開する段階のことを指し、「介入」と訳されることが多い。初期の頃のソーシャルワークでは、医療と同じ「トリートメント（treatment 治療、処置、処遇）」の用語が使われていたが、医療モデルからの脱却に伴い、インターベンションが使われることが

多くなった。インターベンションの中身は、伝統的に使われてきた技法（ケースワーク、グループワーク、コミュニティ・オーガニゼーション、ソーシャルアクション、ソーシャル・アドミニストレーション、ソーシャル・プランニング、ソーシャル・リサーチなど）に加え、近年では近接領域の様々な技法・技術が含まれている。つまり、ソーシャルワーカーが実際に従事し活用している技法・技術の総体の呼称である。

インテーク（intake）

機関や施設が、利用者と最初に接触することを指し、「受理面接」や「初回面接」と訳されることが多い。ソーシャルワークの最初の段階として位置づけられたり、あるいはアセスメント以降の、より専門的な援助プロセスの前段階として位置づけられるが、明確に定まっているわけではない。いずれにせよインテークでは利用者からの基本的な情報収集と援助者（機関・施設）からの情報提供（提供可能な援助の内容、利用要件、料金など）が主要な作業となる。インテークの終了時には、同じ援助者が援助を継続するのか、他の援助者に紹介するのかがということが決定される。なお欧米では、インテークという用語は使われることが少なくなっており、代わってエンゲージメント（engagement）という用語が用いられている。

インテグレーション（integration）

統合、統合化。ハンディキャップのある者が日常生活の中で支障や差別なく地域社会と密接し生活できるよう援助すること。つまり、多様な人々が、地域社会のなかでともに生活し合う状態を回復するための援助や活動。なお、より発展した理念をインクルージョンと呼ぶ場合がある。ノーマライゼーションの類義に使われることもある。

インフォーマル・ネットワーク（informal network）

福祉サービス提供者は公的資源（フォーマル）、民間資源（市場原理に基づくもの）、非行的資源（インフォーマル）の 3 者に大別され、このうちの非公的資源（家族・親族・近隣・友人・ボランティアなど）によって構成される支援体制のこと。「フォーマル・ネットワーク」の対立概念として用いられる。

インフォームド・コンセント（informed consent）

「説明と同意」「十分に知らされた上での同意」と訳される。ソーシャルワークで用いる場合は、アセスメントを行い、それに基づいて援助方針を出すときに、専門家の持っている知識や技術の卓越性を押し付けるのではなく、十分に理解を得て選択してもらい合意することを意味する。説明する内容は、アセスメントによって明らかになった現状、問題を改善するための援助内容、その場合の利益・不利益、さらには代替方法などで、クライアントが理解できる表現で伝えることが重要である。

ウェルビーイング（well-being）

社会福祉の歴史の中で救済的な意味合いを有するウェルフェア（welfare）に対して、「人権保障」「自己実現の支援」をめざす新たな理念として使われている。日本語では「幸福」「福利」「よりよく暮らすこと」「良好な

状態が続くこと」などと訳されているが、定訳はなく原語でウェルビーイングと用いられることが多い。

エコマップ (ecomap)

ソーシャルワークの記録方法の中の図表式の一つで、生態地図や家族関係地図と呼ばれる。クライアントとその家族との関係や、その他の社会資源との情報を円や関係線で表現する方法である。図式化することで、援助者・関係者（機関）・クライアント自身が問題が起きている状況を把握し、今後の援助に必要な社会資源を検討するうえで利便性が高い。1975年にハートマン（Hartman, A）が一般システム理論と生態学理論を基盤として考案した。

【関連用語】エコシステム、エコロジカル・ソーシャルワーク

エコシステム (ecosystem)

問題の発生要因を個人に焦点化する考え方に対して、個人とそれを取り巻く特定の環境との接触を交互作用、適合性、互酬性などの観点から力学的に把握するという理論的枠組み。1983年にメイヤー（Meyer, C. H.）が、一般システム理論と生態学理論を統合させた。

【関連用語】エコマップ、エコロジカル・ソーシャルワーク

エコロジカル・ソーシャルワーク

(ecological social work)

人間と環境との相互関係を重視し、クライアントを環境と切り離れた個人としてではなく、家族や地域社会の一員として捉え、生活上の諸問題を環境との関係上の所産として把握しようとするソーシャルワーク実践の援助理論のひとつである。このような生活問題の把握の仕方に基づき、介入の焦点はクライアントと環境との間のインターフェイス（接触面）に向ける。ソーシャルワークに生態学の考え方を取り入れようとする動きは1960年代後半から70年代にかけて生まれ、後にジャーメイン（Germain, C. B.）らによりライフモデルとして体系化された。

SST（生活技能訓練）(social skills training)

対人関係の改善や、服薬の継続、症状自己管理など、精神障害者の地域生活を支援するために開発された治療技法、またはその学習パッケージ。行動療法と社会的学習理論に基づき、精神障害者の認知・学習障害に対応した訓練を実施し、生活技能と対処能力を高める。米国UCLAのリバーマンらが開発し、1988年の来日を契機に日本でも本格的普及。現在では、精神障害者に限らず、知的障害者や身体障害者分野などでも応用されている。生活技能訓練、社会生活技能訓練、社会的スキル訓練、社会技術訓練などと訳されることもある。

エバリュエーション（事後評価）(evaluation)

ソーシャルワークの実践過程は問題発見（ニーズキャッチ）から始まり、終結（クローズド）に終わるが、ソーシャルワーク援助が終結する時に、「その援助が何らかの成果をもたらしたか」を評価すること。事後評価には、大きく分けて、「プロセス評価」と「結果評価」がある。

エンカウンターグループ (encounter group)

全人格的な出会いの場として、ある一定期間（数時間から数週間）維持されるグループのこと。職業、年齢、性別などを超えて対等の人間として素直に語り合う。本音と本音の交流を通して、対人関係やコミュニケーションの改善、豊かな感情体験や感情表現、自己覚知の深まりなど、参加者の人間的な成長が期待される。類似のグループとして、組織の成長を主眼としたTグループ（training group の略）や個人の成長に関心を向けた感受性訓練グループ（sensitivity training group）などがある。

エンパワーメント (empowerment approach)

個人、グループ、家族、コミュニティが、自己の真価を発揮する力、人に働きかけ協働する力、社会的・経済的な力、政治的・法的な力を獲得し発展させることを目指すアプローチ。特に、差別や抑圧、搾取の対象とされたり、社会・経済的力や政治的力を奪われたりしている人々を念頭に置いて使われ、力を奪われた人々が自己決定力や主体性、影響力を取り戻すことを重視する。

外傷体験、トラウマ (trauma)

戦争・災害・家族内での暴力・レイプなど、生命の危機や自己存在を圧倒し否定されるような強い刺激や体験に遭遇した場合、その体験が自己意識や認知的枠組みに統合されず、時が経っても精神生活上強い影響を及ぼすことをいう。トラウマは、抑鬱・不眠、フラッシュバック、錯乱・幻覚、動悸・発汗・立ち眩みなどの自律神経調節障害をはじめ、心理・身体・行動上の様々な問題・症状として残ることが多く、これらを「心的外傷後ストレス障害（症候群）」という。

カウンセリング (counseling)

クライアントの心理的な適応や健康、人生の課題の解決、行動や認知の変容、自己理解の深まり、人間としての成長などを目指して行われる言語的・非言語的コミュニケーション。変容や成長が可能となる基盤として援助者とクライアントとの人間関係が重視される。参加する人の関係性によって、個人カウンセリング、家族カウンセリング、グループカウンセリング、ピアカウンセリングなどの名称が使われる。行われる場所や扱う課題などによって学校カウンセリング、産業カウンセリング、結婚カウンセリング、矯正カウンセリング、グリーフカウンセリング等、また寄って立つ価値観によってフェミニスト・カウンセリングや牧会カウンセリング、仏教カウンセリングなどの諸方法がある。

家族システム理論 (family systems theory)

家族を一つのシステムとして捉え、家族システムの構成要素である夫（父親）、妻（母親）、息子（兄・弟）、娘（姉・妹）などの要素を相互関連的に捉えようとする理論。家族の一部の変化が全体の変化を引き起こし、また、家族内部の弱者や犠牲者に加えられる圧力を軽減する効果もあると考えられ、家族療法や家族ソーシャルワークなどに用いられている。

家族ソーシャルワーク (family social work)

クライアントが直面する問題を家族全体の中で捉え、

家族関係のあり方に介入することで問題の解決・緩和を図ろうとするソーシャルワークの一分野。

家族療法 (family therapy)

家族を一つの単位とし、システムとしての家族を治療・援助の対象とする療法。家族は有機体の如く常に均衡を維持しつつ発展している。これを一つのシステムと捉え、このシステムの機能不全が家族構成員の問題行動や症状として顕現すると捉え、治療・援助する方法である。家族療法における援助は、このシステム内の相互作用のパターンに介入し、それに変化を起こさせることによって、特定の問題行動や症状を呈しない新しいシステムを創り出すことが目標とされる。家族療法の焦点としては、夫婦関係の調整を伴う場合が極めて多い。

課題中心アプローチ (task-centered approach)

ソーシャルワーク援助は、問題そのものに対処する方法と、問題をもつ人自身に重点を置き対処する方法とに大別できるが、課題中心アプローチは、問題そのものに対処する方法に分類される。対人関係に問題をかかえるケースに有効であるとされ、問題を特定化し、その中で具体的に解決できそうな課題を明らかにし、課題解決を目標に利用者と援助者の協力により短期的に取り組む点が特徴である。心理社会モデル、問題解決モデル、行動療法、危機介入などのアプローチの知識と実践の成果を統合して、1970年代はじめに形成されたソーシャルワークの実践モデルの一つ。リード (Reid, W. J.) らがこのモデルの構築に寄与したとされている。

カタルシス (catharsis)

心の中に抑圧されている不満や恐れなどの感情や心の傷、思い、過去の重要な出来事、それらにまつわる連想などを言葉やその他の方法で表現すること。結果として不安や緊張などが低減し気持ちがすっきりすることが期待される。ギリシア語で「浄化」を意味する。

学校ソーシャルワーク (school social work)

学校において実践されるソーシャルワークの総称。アメリカでは、不登校、校内暴力、いじめ問題など学校における問題が顕在化し、また家庭内暴力や児童虐待など家庭内の問題が学校に持ち込まれることが多くなったことを背景として、児童・生徒個人や保護者、教師への心理学的側面からのカウンセリングのみならず、学校と家庭・地域社会との調整・連携によって児童・生徒を援助していくソーシャルワーカーが配置されるようになった。わが国では、主に非常勤のスクールカウンセラー、教育相談員が学校や教育委員会に配置されているが、学校ソーシャルワークは教育現場に十分に根づいた実践にまでは至っていない。

感情の反映(反射) (reflection)

クライアントの言葉、動作、表情の裏にある感情を評価や批判を加えることなく、ワーカーが言葉で表現すること。ワーカーがクライアントに共感していることを表現する手段として活用される。

環境療法 (milieu therapy)

クライアントの社会生活への適応性を高め、社会復帰

の実現を促進するために、生活環境の変革を行う治療法である。環境療法の主たる現場は病院や施設であるが、この目的のためには病院や施設全体の環境が治療的雰囲気を持つ治療共同体であることが重要であり、また一方において、この治療法は退院後の実社会での社会復帰活動と連続性を持っており、地域精神医学との結びつきが強い。

間接援助技術 (indirect social work)

援助者と利用者との対面関係に基づく直接援助技術の背景となる社会福祉の基盤作りを行なう技術である。具体的にはコミュニティワーク、ソーシャルワーク・リサーチ、ソーシャル（ワーク）アドミニストレーション、ソーシャル・プランニング、ソーシャルアクションの5つからなり、直接援助技術と併用、または統合されて実践的效果を発揮する。

危機介入 (crisis intervention)

個人、集団、地域社会が危機に直面しているとき、危機理論に基づいて行う一連の援助方法。危機以前と同じか、またはそれ以上のレベルにまで回復して危機を克服するという短期集中的援助方法である。

【関連用語】危機理論

危機理論 (crisis theory)

危機理論は、キャプラン (Caplan, G.) とリンデマン (Lindemann, E.) らによって1940年代から1960年代にかけて構築された理論である。人が危機に陥りそこから回復する過程には一定の法則があり、長期に継続はしない。危機に陥っている人には共通した特徴的な感情や行動がみられ、対処方法によって結果が大きく変化している。

機能的アプローチ (functional approach)

人には自ら成長する自由な意志があるというランク (Rank, O.) の意志心理学の考え方に基づいている。人の問題は自由意志と成長の力が、環境要因により損なわれているために生じると考える。その要因を除去し、本来人が持っている力を発揮できるように支援するアプローチ。

共感 (empathy)

相手の内面的立場に立って、相手が考え、思い、感じていることを、同じように感じとり理解し、それを相手に伝えること。伝える技法として感情の反射や、繰り返しなどが活用される。

クライアント (client)

専門的な社会福祉のサービスを利用する個人、グループ、家族、コミュニティなどのこと。対象者、被援助者、受給者、来談者などと訳されたり、クライアントと表記されたりするが、クライアントと言う表記が定着して来ている。最近では、クライアントに代えて、利用者 (user)、消費者 (consumer) などの用語が用いられることもある。クライアントになるのはサービス提供機関との契約が成立した後であり、受付から契約までの段階では申請者 (アプリアント applicant) として区別できる。

クライアント・システム (client system)

援助の対象となるシステムのこと。個人、家族、グループ、組織であっても、システムとして捉えることによって、それぞれと社会環境との相互作用を含めて援助の対象とすることが明確になる。ソーシャルワークは、援助の焦点を人と環境との相互作用にあてることを特徴としてきた。システム視点に立つと、クライアントは生活上の問題をもつ個人や家族などと単体で把握されるのではなく、それらを含むより大きなシステムのなかで理解される。

【参考用語】アクション・システム

【関連用語】ターゲット・システム、チェインジ・エージェント・システム

クライアント中心療法 (client-centered therapy)

カール・ロジャースにより提唱された心理療法（カウンスeling）のアプローチ。理論的發展にあわせて、呼称は「非指示的カウンスeling」「クライアント中心療法」「人間中心療法」と変わった。しかし、クライアント自身が問題を解決し成長していく力を持っていると考える基本姿勢は変わらなかった。理論的基盤として自己理論を提唱、理想我（ideal self）と現実我（real self）のずれが不適応を招くと考え、思い込みの自己概念にとらわれずに自分のどんな体験や感情にも向き合える「自己一致」の状態を大切な目標とした。クライアントが自分に向き合うために治療者側に求められる条件として「共感的理解、無条件の肯定的関心、純粋さ」を指摘した。

クリニカル・ソーシャルワーク (clinical social work)

個人や家族、小グループに直接関わる専門的ソーシャルワーク実践。具体的な内容については見解が分れ、狭義には病理治療的な援助実践を指して使う人もいるが、広義には種々の対面的なソーシャルワーク援助を包括する用語として使われる。広義の用法では、直接援助（direct practice）やミクロ実践（micro practice）とほぼ同義語と考えられる。用語の変遷の背景には、ソーシャルワークを取り巻く米国社会の変化やそれに伴う旧来のケースワーク等への批判、福祉制度の変化、ソーシャルワーク自体の理論や資格制度の発展がある。

グループ・ダイナミクス (group dynamics)

1940年代にアメリカで成立し、小集団による問題解決過程における複雑な人間関係や、個人に与える小集団の心理的力動性のこと。集団力学または集団力動と訳される。グループ・ダイナミクスは、グループワーク理論に大きな影響を及ぼし、多様な社会福祉活動に応用されている。

【関連用語】グループワーク

グループワーク (group work)

ソーシャルワークの共通基盤に立脚した実践で、そのうちの直接援助技術の一つ。ソーシャル・グループワークが正式名称。社会福祉士及び介護福祉士の国家資格化に伴い、集団援助技術とも呼ばれる。ソーシャルワーカーとしてのグループワーカーは、メンバー間の相互作用を意図的に活用し、グループの持つ力動性とプログラム活動（スポーツ、レクリエーション、等）を媒体にして

実践していく。グループワークの目的は、メンバーの抱える日常生活上の要求充足、社会生活能力の改善、パーソナリティの発達、諸課題の効果的達成に向けられ、さらには民主社会の維持・発展と地域社会の発展も同時に促す。ソーシャルワーク及びケースワークの原則は、グループワークの原則にも適用される。

【関連用語】グループ・ダイナミクス

ケアマネジメント (ケースマネジメント) (care management (case management))

1970年代から欧米で開発された方法で、イギリスではケアマネジメント、アメリカではケースマネジメントと一般に称されている。要支援者のアセスメントを基に、関係者でチームを構成し、保健・医療・福祉サービスの統合的利用と、家族、親戚、近隣住民、友人、同僚、ボランティア、民間サービスといった社会資源を効率的に調整し、要支援者に結びつけて行く手法。ケアマネジメントには、緊急度の見極め、介入のきっかけや諸機会取り込みの判断、介入に伴う予測効果、他職種とのチームワーク等は、十分考慮されなければならない。我が国では高齢者分野のみならず、2003年からは障害者福祉分野でこの手法が導入された。子ども家庭福祉の分野ではケースマネジメントが使われている。

ケアワーク (care work)

心身の発達や障害、その他社会生活上の諸困難により、日常生活の安定や維持・継続を保てない人々に対し、対面的かつ具体的サービスを提供していく生活支援活動の総称。具体的には、社会福祉の援助観や知識を背景にし、身体介護（入浴・食事・排泄）、保育・養護、家事援助（掃除、洗濯、調理等）、心理的サポートなどをさす。

傾聴

ソーシャルワーク面接を行うにあたって、基本となる技法のひとつである。クライアントのペースで話してもらい、それに対して、うなずきや繰り返し、質問、感情を受けとめ表現するなどの方法を通して、クライアントの話しを一生懸命に聴いていることを伝える。相手の話しを正確に受けとめるという姿勢が、効果的なコミュニケーションの基本となる。

契約 (engagement contract)

ソーシャルワーク過程におけるひとつの段階で、クライアントとワーカーが達成目標や取り組みに関する合意のことである。そのとき、互いの権利と義務、責任や期待などについて明らかにする。契約の最大の意図は、クライアントとワーカーが対等な関係で問題解決に取り組むことにある。クライアントを主体的な参画者として位置付け、自己決定を保障するために情報提供や説明責任が生じる。

ケースカンファレンス (case conference)

サービス利用者が抱えるニーズ、問題や課題の把握、それらをふまえた支援計画の立案、支援方法の選択と決定、さらには、その後の支援効果の評価等に関し、多職種（保健・医療・福祉）が一堂に会し、検討を深める集まりの総称。事例（ケース）検討会、あるいは事例（ケース）研究会ともいわれる。社会福祉の援助に固有の用

語ではなく、他領域でも用いられている。

ケーススタディ（事例研究）（case study）

解決すべき問題や課題を抱えるケース（人・集団・地域）への援助を、さまざまな角度から検討し、そこからケースを取り巻く状況や抱える問題の原因、支援のあり方と、必要な社会資源等を明らかにしていく研究手法。手法としては、事例を包括的に提示しそこから総合的に検討を深める「ハーバード方式」と、提示された事例のある断片（インシデント／事件）から、参加者が改善・解決法を模索していく「インシデント・プロセス法」とがある。

ケースワーク（case work）

ソーシャルワークの共通基盤に立脚した実践で、そのうちの直接援助技法の一つ。ソーシャル・ケースワークが正式名称。社会福祉士及び介護福祉士の国家資格化に伴い、個別援助技術とも呼ばれる。生活者としてのクライアントが社会的に機能していく過程で、当面する日常生活上の問題に対し、ソーシャルワーカー（ケースワーカー）が、所属する社会福祉機関・施設の方針、信頼関係（ラポール rapport）や安定した情緒的関係を基盤に、クライアントがより主体的に問題に対処・解決していけるよう、その問題に潜む個別性を重んじながら、協働していくこと。

ケース記録（case record）

クライアントのおかれている状況及びサービス提供の状況について記したもの。ソーシャルワーカーにより記録され、ワーカーないし援助提供機関により保管される。記録の様式及び内容については、援助提供機関やケースの内容によって変わってくるが、一般的にはフェイスシートと過程記録ないし経過記録と呼ばれるものから構成される。

権利擁護

ソーシャルワーカーの機能のひとつで、クライアントの利益を守るために、クライアントの立場に立って支援・代弁・擁護を行うこと。クライアントの主体性に価値をおき、自己の権利やニーズの表明、制度活用を支援すること、さらに、必要な場合に組織や制度の変革を求めることも意味する。

言語化（verbalization）

ソーシャルワーク面接のなかで、クライアントやワーカーが、共感される意味や意図を言語として表現することをいう。言語化によって、クライアントははっきりと意識化できない曖昧な感情や考えを明確化することや、不安や怒りといった情動が生じた理由を自覚し、解決に向けて取り組むべき課題が明らかになる。言語化のためには、ワーカーの意図的なかわりが重要である。

言語的コミュニケーション（verbal communication）

言語によるコミュニケーションを指す。面接や日常的な援助場面においては、援助者の言語的コミュニケーションの的確さが求められる。またクライアントの言語的コミュニケーションに注目し、その内容だけでなく、表現方法や意図するところや、言語化されないことにも関

心をはらう必要がある。

交互作用（transaction）

交互作用とは、社会環境のなかで、個人、家族、小集団、コミュニティは、それぞれ独立して存在するのではなく相互に影響し合っているという考え方。相互作用は一对一の作用であるが、交互作用はシステムの中で要素が他の要素に影響を与え、またその要素が元の要素や他の要素に影響を与えるという複雑な作用である。システム理論やライフモデルの登場以来、ソーシャルワークにおいて交互作用に焦点をあて、この関係性への介入を通して援助効果を上げようとする考え方が強調されるようになった。

交互作用モデル（transactional model）

グループワークをソーシャルワーク理論の中に包みこみ、共生的な相互依存関係にある個人と社会の交互作用に焦点を当て、媒介者としてのワーカーが個人と社会の双方を共に援助しようとする援助のモデル。シュワルツ（Schwartz, W.）によって構築された。

効果測定（effective measure）

社会福祉援助やサービスがクライアントの問題解決にどの程度役だっているかを、科学的方法を用いて測定すること。このことにより援助の質の向上を図り、クライアントや社会全般に対して、専門的援助の重要性を示していく責任がある。効果測定の方法として、当初、統制群実験計画法が行われたが、福祉臨床現場でクライアントを実験群と統制群に分けることの倫理的問題やクライアント個人の変化のプロセスを把握しやすいことから、単一事例実験計画法が注目されている。

構造化面接（structured interview）

構造化面接とは、来談者あるいは被調査者に対して、あらかじめ質問内容や選択肢を準備しておき、それにしたがって、面接や質問を進めること。共通の項目への回答を比較するとか、質的内容を量的に把握する場合などに適している。これに対して、より構造化度が低いものとして、半構造化面接、非構造化面接が挙げられる。構造化度が低くなるにしたがって、非面接者あるいは回答者側の自由度が高くなる。これは、探索的な面接や調査に適している。

【関連用語】半構造化面接、非構造化面接

構造的アプローチ（structural approach）

社会福祉理論における制度政策論・運動論の立場から地域福祉を把握しようとする接近法またはそれによって形成される地域福祉論で、牧里毎治が命名したもの。1．国家独占主義段階における地域政策であること、2．資本主義社会の構造的必然として生みだされる貧困問題およびそこから派生する問題を対象とした政策であること、3．地域における最低生活保障を支える公的施策であること、4．政策形成過程において、住民運動などの社会運動の影響を受けること、5．公的責任のもとに実施されること、などを特徴とする。構造的アプローチの諸定義は、1970年代の公害反対・住民運動・革新自治体誕生という当時の時代背景を地域福祉の概念規定に反映させたものといえる。対概念は、機能的アプローチ。

【参考用語】 機能的アプローチ

行動療法 (behavior therapy)

不適切な行動を学習された行動や習慣と考え、学習理論に基づいて不適応行動を除去し、適応行動を形成・強化する療法である。アルコール依存・食行動異常のグループには、認知行動療法が用いられている。

コーディネート (coordinate)

種々の組織や団体の間で、仕事の量や質、その進み具合あるいは利害関係などを調整していくソーシャルワークの機能。コーディネーションともいう。

コーピング (coping)

問題をはらむ状況に対応したり、それを下げたりすること。問題対処。

コミュニティ・ディベロップメント (community development)

日常生活圏の社会的、経済的、文化的条件を改善するために、住民が主体となって、住民間の社会的絆を強め、自助努力を活性化させ、リーダーシップを発達させ、地方制度を創出するような草の根的活動を重視する方法。地域開発、あるいは地域共同社会開発などと訳される。

コミュニティ・リレーションズ (community relations)

コミュニティ内部の住民組織、企業、福祉施設、団体などがコミュニティの福祉に対して貢献し、協力関係を形成していること。

コミュニティ・ソーシャルワーク (community social work)

1982年の英国『バークレイ報告』で提案された、コミュニティを重視したソーシャルワークの進め方。ただし、コミュニティワークとは異なり、対面的関係に基づく相談（カウンセリング的対応）と、自立生活上必要なサービスを提供する個別援助技術の部分、それらの個別援助を可能ならしめる資源開発やソーシャルサポート・ネットワーク形成から成り立つ。

コミュニティワーク (community work)

地域社会の問題を解決していく専門技術であり、計画立案や運営管理の技法をあわせ持つソーシャルワークの一方法。コミュニティ・ディベロップメントやコミュニティ・オーガニゼーションといったものを包括する概念として使用され、地域援助技術と訳される。その展開における主体としては、地域住民や民間の組織・団体が強調されることが多いが、行政などの公的機関との協働や連携も重視される。

コンサルテーション (consultation)

社会的に専門性を持った組織や個人と、ある特定の問題を解決するための専門性を必要とする個人、集団、コミュニティ等との間に形成される対人関係を通して、問題解決を図ること。ソーシャルワーカーがコンサルテーションを提供する側（コンサルタント）になることもあれば、受ける側になることもある。類似概念としてスーパービジョンがあるが、スーパービジョンが同一職種に

よって行われるのに対し、コンサルテーションは他職種から、特定のことに焦点をあてた助言を受ける。また、そこでなされた助言等を受け容れさせるような管理的機能は発生しない。

コンシューマー (consumer)

一般には消費者と記される。社会福祉では従来のクライアント (client) という表現に替わる用語として使用される場合がある。コンシューマーは、消費者としての権利を有しており、社会福祉の対象者が資本主義社会において一般の人と同等の立場にあることを示す場合などに使用される。しかし消費者という概念には、ソーシャルワークのプロセスに参画するという意味がなく、不適切であるという批判もある。

【関連用語】 ユーザー、クライアント

コンピテンス (competence)

一般には、能力、適性と訳される。ソーシャルワークで使用される場合は、専門職としての力量、能力、適性をさす。専門職意識として使用される。全米ソーシャルワーカー協会等の倫理綱領では、専門職に求められる力量として「専門的価値」「機能」「知識」「技術」が挙げられている。

コンフリクト (葛藤) (conflict)

2つまたは2つ以上の類似した、あるいは対立した欲求が同時に同程度の強さで起こるときに、いずれかを選択することが困難になる緊張状態。多くの場合、心理的緊張状態をさす。

コンプレックス (complex)

ユング (Jung, C. G.) によって提唱された精神分析的概念であり、「感情によって色づけられた観念複合体」または「無意識に抑圧され、自我を脅かすような影響を及ぼす観念複合体」をいう。一般的に「コンプレックス」と呼ばれているものは、劣等感コンプレックスであるが、コンプレックスは劣等感だけを指し示すものではない。

【関連用語】 エディプス・コンプレックス、劣等コンプレックス

再保証 (reassurance)

クライアントが過去に行った問題対処の努力に対して、根拠を持って肯定的に評価し、保証することによってクライアントを受けとめ、サポート・強化していく技法。

産業ソーシャルワーク (industrial social work)

企業において、従業員の福祉向上のために行うソーシャルワークのこと。北米では企業内でのソーシャルワーカーの配置や、外部の契約ソーシャルワーカーにより、従業員の育児・家族問題や諸社会サービス利用に関する相談援助などが一般的だが、わが国では従業員のメンタルヘルス確保のための産業カウンセリングのほうが一般的である。

ジェネラリスト・アプローチ (generalist approach)

ソーシャルワークの総合的アプローチ。さまざまな問題やニーズを包括的・総合的に捉え、その上で専門職と

しての援助技術を包括的・統一的に捉えていくソーシャルワークの共通基盤に立脚したアプローチ。ジェネリック・アプローチと呼ばれることもある。

【関連用語】ジェネリック・アプローチ

自己覚知 (self-awareness)

援助者が自らの感情、性格、価値基準等についてできるだけ理解を深めること。自らの価値観や感情を援助場面に持ち込むと問題の状況を誤って判断したり、受容や非審判的態度を貫けなくなる。そのために援助者は自らを知り、コントロールする自己覚知が必要となる。

自己決定 (self-determination)

クライアントの自主性を尊重し、クライアントが自分で選択していくプロセスを援助するという援助原則。

自己実現 (self-actualization)

自己充足という欲求を達成するために、潜在的な可能性を十分に発達させることを意味する。マズロー (Maslow, A. H.) によれば、自己実現欲求は、生存欲求、安全欲求、所属欲求、自尊欲求等の基本的な欲求が充足された後、追い求める欲求とされる。マズローは後に、人間の最高位の欲求として、自己超越欲求を掲げた。一般的に自己実現欲求を充足している人は、そうでない人と比較して、他者を援助したいという願望があり、自意識が低く、他人に対しては親切で、親密な対人関係を持つとされる。

支持的技法 (supportive treatment)

ワーカーが、クライアントの適応を可能にするために用いる援助介入の技法。主に面接場面において、ワーカーがクライアントに対して、不安を軽減し安心感を与える、適確な助言をする、役に立つ情報を提供する、クライアントが自分のストレングスや資源に気づく、自信を回復させるなど、クライアントが問題解決に向かって動機付けや意欲を高めることをねらいとする。

システム理論 (system theory)

ソーシャルワークでは、問題解決や研究対象としての個人や家族、社会をシステムとして捉え、システムの諸特性に関する諸事情を分析する視点や枠組みをいう。20世紀中頃に、ベルラタンフィ (Bertalanffy, L.) 等によって、機械論と有機体論を総合して「組織化された複雑性」を扱うものとして、一般システム理論が提唱された。社会学においてはパーソンズ (Persons, T.) によって社会システム理論が構築された。

実存主義アプローチ (existential Social Work)

実存主義に基づいたソーシャルワークのアプローチ。このアプローチの基底にあるものは人間の個性を発展させ、その存在を価値づけようとするものである。したがって、問題状況は、単に人間の成長過程にすぎないとみなしている。幻滅感を体験させ、苦悩の意味を発見させながら、真に自由で自立のある人生を獲得させようとするところが特徴的である。

社会資源 (social resources)

社会生活上のニーズの充足や問題解決のために活用さ

れる多様な資源の総称。施設・機関、設備、備品、資金等の物的資源、ソーシャルワーカーなどの各種専門職、家族、ボランティア等の人的資源、制度、政策、法律等の制度的資源のほか、知識、技能、情報などが含まれる。

社会診断 (social diagnosis)

伝統的なソーシャルワークの一過程。インテークや調査によって収集された資料・情報を分析することによって問題の原因や本質を明らかにし、問題解決の方針を立てる過程である。

社会的機能 (social function)

社会から期待された役割に応え、役割を果たす機能。

社会福祉援助技術 (social work)

社会福祉の援助において援助者が意図的・組織的に用いる専門的援助技術の総称。直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術などに分けられる。しかし、最近ではこれらを統合し、共通基盤を確立しようという試みが行われている。

主訴 (Chief Complaint)

クライアント本人がワーカーに対して具体的に表出する主たる訴えのこと。クライアントの主訴が必ずしも本人の真のニーズや解決すべき問題と合致するとは限らない。したがって、ワーカーはクライアントと協働して問題の明確化に取り組むことが求められる。

守秘義務 (confidentiality)

特定の業務において知りえた情報を、正当な理由やクライアント許諾を得ることなく、他の者に提供することを禁ずること。秘密保持ともいう。国家および地方公務員法等で規定されているほか、社会福祉士及び介護福祉士法においても、「社会福祉士及び介護福祉士は、正当な理由なく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならない。社会福祉士または介護福祉士でなくなった後においても、同様とする」という業務上の義務規定及び違反者への罰則が定められている。

受容 (acceptance)

受容とは、ソーシャルワーカーがクライアントの感情と思考の両面において、その肯定的な側面も否定的な側面も、あるがままのクライアントとして受け止めること。それにより、クライアントがソーシャルワーカーとの間で安心感をもって自分自身を眺め、より現実的に対応できるようになり、様々な防衛から自己を解放できるような関係を保てるようになる。

終結 (goals)

終結とは、ソーシャルワークによる援助活動の終わりを示す局面である。援助活動が終結する理由としては①当初の援助目標を達成し援助を終結する場合、②クライアントが援助を必要としなくなって終結する場合、③ソーシャルワークの援助を継続することができなくなって終結する場合、などがあげられる。また、終結場面においては、これまでの援助過程を振り返り、援助のあり方と成果を評価するとともに、クライアントが援助過程を通して得たものを、将来にわたって維持・改善・向上さ

せていけるように強化する機会でもある。

住民参加 (citizen participation)

住民参加とは、住民が自らの地域における社会福祉の向上のために、その活動や行政施策等の計画、実施、評価等に積極的に参加・協力することを言う。具体的な住民参加のあり方としては、大きく直接参加と間接参加に分類されることがあり、前者の代表例としては、住民集会や説明会に直接参加するなどして、住民としての意見を表出することなどがあり、後者の代表例としては、アンケート調査による回答やモニター制度への参加などがあげられる。

処遇 (treatment)

処遇とは、クライアントの問題の解決を図ること、クライアントの変化を促すことなどを目的でなされるソーシャルワーカーの働きかけを言う。処遇は、「トリートメント (treatment)」を翻訳した言葉として用いられ、それには「治療」という医学的な意味合いを備えた言葉として理解されている側面がある。最近では、救済的なイメージを備えた処遇という言葉の使用を避け、サービスないしは援助を使用することが多い。

焦点化 (focusing)

焦点化とは、ソーシャルワークによる援助のなかでクライアントが問題解決において重要と考えられる領域や課題にクライアントの注意、関心を向けるなどして、問題解決に向けての方向づけ等を行う技法を言う。

自立支援

援助を必要とする人が身体的、経済的、社会的に自立し、かつ自己選択・自己決定に基づく自律的な生活が送れるよう支援すること。

スーパービジョン (supervision)

専門的な対人援助を行う場合に、一人のソーシャルワーカーが他のソーシャルワーカーから受ける、専門職としての資質向上のための専門的援助過程である。スーパービジョンには、指導管理的機能、教育的機能、支持的機能等がある。スーパービジョンを受ける人をスーパーバイジー (supervisee) といい、スーパービジョンを行う人をスーパーバイザー (supervisor) という。集団で行うものをグループ・スーパービジョン、同程度の経験年数や能力を有するソーシャルワーカーがスーパーバイザー抜きで自分たちだけで行うものをピア・スーパービジョン、スーパーバイザーが実演してみせるやり方をライブ・スーパービジョンという。査察指導と訳される場合もあるが、この訳は我が国の福祉六法体制において行政組織内での指導監督や管理的機能を強調して採り入れたものであり、本来のスーパービジョンとは若干異なる独自の概念である。

【関連用語】グループ・スーパービジョン、ピア・スーパービジョン

ストレングス視点 (strength perspective)

ストレングス視点は、クライアントの弱点や問題点に視点をあて、その不足や欠点を補うような従来の病理モデルとは異なり、クライアントの本来有する潜在的能力

や強さ等に焦点をあてて、協働的な関係の中で問題を解決していく視点をいう。

スペシフィック・ソーシャルワーク

(specific social work)

ジェネリック・ソーシャルワーク／ジェネラリスト・アプローチの対置概念。児童、障害者、高齢者等の個別分野に専門・特化したソーシャルワーク。スペシフィック・ソーシャルワークを行うにはジェネリック・ソーシャルワークを基盤として持つ必要がある。

心理・社会的アプローチ (psychosocial approach)

心理・社会的アプローチ (psychosocial approach) とは、クライアントの心理的側面とクライアントを取り巻く社会的側面の両者を視野に入れ、その両者が相互に影響し合った複合状況としてクライアントを理解しようとする方法である。また、このアプローチは、『状況のなかの人』という視点をもとにクライアントの環境的な側面への働きかけも含めた援助のあり方を強調したホルリス (Hollis, F.) によって体系化された。

診断主義 (diagnosticism)

ケースワークのアプローチの一つ。リッチモンドが提示した社会調査、社会診断、社会処遇という援助過程を重視する伝統的なアプローチである。フロイト (Freud, S.) による精神分析の知見を治療に取り入れ、ケースワーク理論の体系化に大きく寄与した。しかし、クライアントの心理面への援助に傾斜し、ソーシャルワークの固有性を発揮し得ない傾向について非難を受けるようになった。

生活場面面接 (life space interview)

レドル (Redl, F.) らによって発展した面接の技法。もともと精神病理学的な問題を治療するために発達したものである。さまざまな理由から相談機関に来所が困難な場合、またそれがより適切であるとされる場合、クライアントの自宅や施設におけるベッドサイド、あるいは廊下等の日常生活空間における会話を非構造的な面接として意識し意味づけるもの。

生活歴 (life history)

クライアントの背景を時間的経過に沿って記録したものの。生育歴、学歴、職歴、家族歴、心身の状態、既往歴などを記録するが、生活歴のとらえ方はソーシャルワークのアプローチや相談機関の性格や機能によって異なる。

生態学モデル (ecological model)

有機体と環境の交互作用を体系的に探求する「生態学」を基礎とするソーシャルワークのモデル。1970年代以降に台頭し体系化された。これは人と環境との複雑な交互作用領域 (インターフェイス) に焦点をあて、環境に対する人 (クライアント) の対処能力と人のニーズ充足に向けての環境の応答性を重視し、両者の適合を図ることを意図して進めていくという特質を持っている。

精神科ソーシャルワーク (psychiatric social work)

精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク。精神医学ソーシャルワークともいう。精神病院、診療所、保健

所、作業所等で主に精神障害をもつ人やその家族を対象とする。他領域のソーシャルワークと共通の基盤に立ちつつも、クライアントの社会復帰への支援、人権擁護、家族会や自助グループの育成支援等に特徴がある。なお、1998年に精神保健福祉士法が成立し、精神科ソーシャルワーカーの国家資格が誕生した。

精神分析理論 (psychoanalysis)

フロイト (Freud, S.) によって創始された人間の心の理論体系。この概念的枠組みを用いた精神療法を精神分析治療と呼ぶ。フロイトは、心のはたらきを無意識、前意識、意識に区別し、心の構造としてイド (エス)、自我、超自我を想定した。精神分析は、被分析者の言葉や行為、空想や夢などを用いて、無意識の意味を明らかにする方法を開発した。今日の心理療法の多くは、精神分析を土台とするか、分派するか、もしくはそれを批判して発展してきたといえる。また、フロイトの理論は、人間理解の方法として多方面へ大きな影響を与えている。

セルフヘルプグループ (self-help group)

共通の障害や疾病を持つ患者や障害者またはその家族が、お互いに情報を交換し、助け合い、自己管理や課題の克服、相互の成長を図るために組織化された集団。具体的には、各種の障害者団体やその家族の会、また断酒会などがある。

相互援助モデル (reciprocal model)

シュワルツ (Schwartz, W.) によって構築されたグループワークのモデルの一つ。「相互作用モデル」、「媒介モデル」とも呼ばれる。グループワーカーの役割を媒介者と規定し、個々のメンバーとグループとの媒介、グループとそれを含む施設・団体・地域社会などと媒介することによって、個人と社会の両者間の相互作用を促進させることに特徴がある。また、理想的なクライアント・グループを相互援助システムとして位置づけた。このモデルは、機能主義の流れをくみ、グループワークのみならず、ソーシャルワーク全体に大きな影響を与えた。

ソーシャルアクション (social action)

住民や当事者のニーズに応じて関係者の組織化を図り、既存の社会福祉制度やサービスの維持・改善・拡充、新たなサービスの創設などを求めて国・地方自治体・各種団体等に働きかける方法である。主に、学習・調査、広報・宣伝、住民集会、署名、請願、団体交渉などの方法をとる。

ソーシャル・アドミニストレーション (social administration)

従来、邦訳として「社会福祉政策」や「社会福祉行政」があてられていたように、国や地方自治体の福祉行財政論や組織運営論を指していたが、最近では、社会福祉サービスを提供する各種施設・団体・機関の組織運営・管理方法も指している。ちなみに、前者をソーシャル・アドミニストレーション、後者をソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーションと呼び分けることもある。

ソーシャル・インクルージョン (social inclusion)

インクルージョンは、包括・包摂などと訳されるが、

貧困・障害・逸脱などにより社会から排除されている人々を、特別のニーズを持った人々ととらえ直して必要な支援を行い、社会参加を促進し包摂しようとする理念。

ソーシャル・プランニング (social planning)

効率的な社会資源の配分による社会問題の解決を目標とする方法。計画立案を基本的機能とし、立案過程においてさまざまなニーズや利害の調整を図ることが重視される。

ソーシャルサポート (social support)

教育、所得保障、医療ケアなど社会生活上のニーズを充たすフォーマル・インフォーマルな働きかけや、対人関係を意味する。勇気付けや共感を与え、社会生活のモデルを紹介するなど支援を行う個人やグループによるネットワークを意味する。特に、そのネットワークをソーシャルサポート・ネットワークという。

ソーシャルワーカー (social worker)

ソーシャルワークを用いてクライアントの問題解決にあたる専門家。1980年代後半に、アメリカ合衆国において誕生し、その専門家団体であるソーシャルワーカー協会 (Federation of Social Workers) が世界各国に発足し、広く発展してきた。現在、国際ソーシャルワーカー協会 (International Federation of Social Workers, I.F.S.W.) が設立され、国際ソーシャルワーク学校連盟 (International Association of School of Social Work, I.A.S.S.W.) と共に、合同国際会議が開催されるようになった。その国際交流を通じ、国際基準としてのソーシャルワークの定義や倫理綱領の制定が行われてきた。わが国においては、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士会、日本医療社会事業協会、日本ソーシャルワーカー協会が所属している。「ケースワーカー」「グループワーカー」「コミュニティ・ワーカー」等の呼び方もあるが、現在、ソーシャルワーカーに統一されて呼ばれるようになっている。

ソーシャルワーク・リサーチ (social work research)

ソーシャルワークの発展において、メアリー・リッチモンド (Richmond, M.) 以来、ソーシャルワーク実践 (practice) が伝統的に強調されてきた。しかし、1980年以降、その実践に加え研究 (research) が強調されるようになってきた。ソーシャルワーク・リサーチは、ソーシャルワーク実践の発展とソーシャルワーカーの専門性向上のために必要なものである。研究手法は、ソーシャルワーク特有のものがあるというより、他の科学的実証研究手法を応用したものである。

ソーシャルワークの価値 (Social Work Values)

ソーシャルワーカーが専門技術を発揮する際に依拠する価値。国際ソーシャルワーカー協会は、1982年に「ソーシャルワークはヒューマニタリアンと民主主義の考え方を基本とし、人間の平等 (equality)、価値 (worth)、尊厳 (dignity) を尊重することを、ソーシャルワークの価値とする」と提示し、さらに「ソーシャルワーク活動は、人々の人権と社会正義のために貢献することを、その動機とし、その意義とする」とも明記した。全米ソーシャルワーカー協会は倫理綱領において「サービス

（Service）」「社会正義（Social Justice）」「人の尊厳と価値（Dignity and Worth of the Person）」「人間関係の強調（Importance of Human Relationships）」「インテグリティ（Integrity）」「コンピテンス（Competence）」の6つの価値を提示しており、他の国々も概ねこれに準拠している。

ソーシャルワークの統合化

北米では、20世紀前半にはソーシャルワークの方法・技術の深化と分化に伴い、専門性の乖離が進行し、ソーシャルワーカーのアイデンティティが失われようとした。この反省から、1950年代にソーシャルワーク方法・技術の統合化の考え方が生まれた。ただし、ソーシャルワークの方法・技術を中心としたために、一人のソーシャルワーカーの中に、そのすべての方法・技術を統合化することは現実的に困難であった。そこで、ソーシャルワークの「価値」を要とする共通基盤が求められ、後の「ジェネリック」あるいは「ジェネラル」なソーシャルワークという考え方へと発展してきた。

ソーシャルワーク過程（social work process）

ソーシャルワーク実践における、時間的実践経過段階全体を言う。一般的に、ソーシャルワーク実践の過程を幾つかに分けたものが「アセスメント」「プランニング」「インターベンション」「エバリュエーション」である。その他の代表例として、「エンゲージメント（Engagement）」「情報収集（Information Gathering）」「アセスメント（Assessment）」「計画（Design and Planning）」「実行（Implementation）」「評価（Evaluation）」（Hoffman, K.S. and Sallee, (1990). Social Work Practice. Allyn and Bacon.）と分けたものもある。

ターゲット・システム（target system）

ピンカス（Pincus, A.）とミナハン（Minahan, A.）は、ソーシャルワーク実践モデルの基本システムの一つとして、チェンジエージェントがその変革のために働きかけなければならない対象と定義している。クライアント・システムとターゲット・システムが同じ場合もあるが、一般的には、チェンジ・エージェント（ソーシャルワーカー）は、クライアント・システムと協働してターゲット・システムに働きかける。

多問題家族（multi-problem family）

複数の問題を複雑かつ慢性的にかかえる家族のことである。支援に対して否定的・拒否的である場合が多く、リーチング・アウト（リーチアウト）の対象ともされる。ソーシャルワークの領域で造語された。

地域福祉組織化（community organization）

福祉の問題を抱える当事者や利用者が自ら主体となってプロセスを経ながら同じ感情や気持ちを持ち合わせた福祉のコミュニティを形成できるように支援し、組織化を図るものである。この場合、当事者側に力点を置くか、支援者側に力点を置くかで見解が分かれる。

直接援助技術（direct practice skills）

本来は、利用者に直接対面して行う社会福祉援助技術

のことである。直接介入とか直接処遇ともいう。個人、家族、小集団に対する直接的な支援技術を指すことが多い。

転移、逆転移（transference, counter transference）

利用者とソーシャルワーカーとの間に生じるもので、幼少期の保護者などの重要な人物への葛藤を、利用者がソーシャルワーカーに対して無意識にいだくものを転移という。逆に、同じ無意識がソーシャルワーカーから利用者に向けられる場合を逆転移という。日常生活でも生じるもので、精神分析の分野において、抵抗という概念から発展してきた用語である

統合理論（integrated theory）

従来、ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークなど、支援者側の都合で専門分化し実践されてきた諸理論を、すべての利用者が幅広い支援を受けられるように、利用者の視点からこれらの理論を統合し、ソーシャルワークの基盤となるものをつくる試みから生み出された各種の理論を指す。1970年代に活発な形成がなされ、ソーシャルワークの入門であるジェネリック・ソーシャルワーク（ジェネラル・ソーシャルワークやジェネラリスト・ソーシャルワークともいう）の形成のもとになった。

ナラティブモデル（narrative model）

クライアントが表現する、文化的、かつ社会的に構成された本人自身の物語（ドキュメントストーリー）を尊重しつつ、援助者が新たな視点や見方を促すことで、オルタナティブストーリーに転換していく援助モデル。ナラティブモデルでは、援助者との対等な関係の中で展開され、クライアント自身が新たな物語を見だし、問題解決に向かうことが意図される。

【関連用語】ナラティブセラピー

7つの原則

バイスティック（Biestek, F. P.）が『ケースワーク（における）関係（The Casework Relationship）』の中で示したソーシャル・ケースワークにおけるワーカーとクライアントの関係を示す原則。原則として示されている内容が7項目あるため、一般には「バイスティックの7原則」、「ケースワークの原則」などと呼ばれている。7つの原則は、田代不二男・村越義男訳では、①個別化、②意図的な感情の表出、③統制された情緒的関与、④受容、⑤非審判的態度、⑥クライアントの自己決定、⑦秘密保持、となっている。また、尾崎新・福田俊子訳では、①クライアントを個人としてとらえる、②クライアントの感情表現を大切にする、③援助者は自分の感情を自覚して吟味する、④受けとめる、⑤クライアントを一方的に非難しない、⑥クライアントの自己決定を促して尊重する、⑦秘密を保持して信頼感を醸成する、となっている。この他にも、さまざまな訳語がある。わが国では、7つの原則をそのまま、あるいはいくつかの原則を追加して、ソーシャルワークの一般原則として説明している研究者もいる。

※ 日本語訳は、田代不二男・村越義男訳、尾崎新・福田俊子訳の2種類が、誠信書房から発行されているが、いずれもタイトルは『ケースワークの原則』となって

いる。

ニーズ（ニード）（needs（need））

社会生活を営む上で、精神的、身体的、経済的、社会的に必要とされる基本的要件。また、ニーズは貨幣的ニーズと非貨幣的ニーズ、顕在的ニーズと潜在的ニーズ、物理的ニーズ、情緒的ニーズなど、その性質を多面的に捉えることができる。さらに、ニーズを個別的にとらえるならば、個人的欲求となり、その充足を図るためには個別的援助が必要となる。一方、ニーズを集合的にとらえるならば、社会的問題となり、その充足を図るためには政策的対応が必要となる。

ネットワーク（network）

家族、親族、近隣、知人・友人などの人間関係や公共機能を持つ組織、自治体、商店会の組織・団体などの連携関係によって展開される組織活動全般。上下・主従関係にたとえられる官僚的組織に対し、対等な関係とゆるやかで可変的なつながりによって共に活動することが目標とされる。

【関連用語】インフォーマル・ネットワーク、フォーマル・ネットワーク

ノーマライゼーション（normalization）

1950～1960年代に、デンマークのミケルセン（BankMikkelsen, N. E.）やスウェーデンのニイリエ（Nirje, B.）になどを中心に展開された思想。知的障害児の親による入所施設改善運動が端緒となり、障害があっても可能な限り地域で普通の生活が保障されるべきであると提唱された。これは障害者の地域生活の権利を保障する考え方であり、平等及び機会の均等をも意味している。国連の「障害者の権利に関する宣言」（1975年）では、ノーマライゼーションの思想がその底流をなし、「完全参加と平等」をテーマとした国際障害者年（1981年）においてもその考え方は反映された。さらにその後の世界各国における障害者自立生活運動に大きな影響を与える。今日においては障害者福祉領域のみならず、社会福祉の基本理念かつ実践的理念としてもとらえられている。

【関連用語】インテグレーション

バリアフリー（barrier-free）

高齢者や障害者が利用することに配慮した、公共建築物、道路、個人住宅等における物理的障壁を取り除いた設計。車いす等による通行可能な道路・通路幅の確保、段差の解消、手すり、点字案内の設置等があげられる。障害のある人の生活環境整備を端緒としながら、現在では制度面、心理面、情報面における障壁の除去についてもバリアフリーの概念が適用される。

波長あわせ（tuning-in）

ソーシャルワーカーが、個人やグループと面接するにあたり、事前にクライアントの考えや気持ちなどについて想像することや、情報がある場合はそれらを参考にすることで、面接時にクライアントに共感できるよう準備すること。波長合わせをすることでソーシャルワーカーは、クライアントの反応にどのように対処するか、また面接やグループワークをいかに展開していくかを準備で

きる。スーパービジョンにおいても、スーパーバイザーはスーパーバイジーにむけて波長合せを行う。

非言語コミュニケーション（non-verbal communication）

表情、視線、態度、姿勢、振る舞い、動作の速度、服装、声のトーン、言葉の強弱など言語によらないコミュニケーションのこと。非言語的コミュニケーションは、言語内容を補うこともあれば、言語内容とは別の意味を表現することもある。時には無意識の問題や課題、心理状態を表すこともある。そのため言語内容と同時に非言語的なメッセージを的確に把握することが、人の発言や心境、状態などを理解するために重要である。

ファシリテート（facilitate）

問題解決に向けて、当事者自身の自発的で能動的な行動を促すこと。さらに問題解決に向けた状況や条件を整備すること。

フェミニスト・ソーシャルワーク（feminist social work）

従来は女性個人の心理的問題としてとらえられていたものを、社会的要因を生み出す社会システムと関連させ、ジェンダーの概念とフェミニストの視点を取り入れたソーシャルワーク。

フォーマル・ネットワーク（formal network）

福祉サービス提供者は公的資源（フォーマル）、民間資源（市場原理に基づくもの）、非行資源（インフォーマル）の3者に大別され、このうちの公的福祉サービス提供者で構成されるネットワークを指す。福祉サービスの供給体制は福祉ミックスあるいは福祉複合主義と呼ばれるように複雑化しており、それぞれの特徴を活かしながら効率的で公正なサービス供給システムの構築が課題となっている。

※ 社会福祉法人は民間組織であるが、従来、公的性格が強く、公的責任を代替するものであると考えられてきた。

プランニング（planning）

ソーシャルワークにおける援助過程の構成要素の一つで、援助計画を作成すること。情報収集及びアセスメントの段階を経て、このプランニングの段階にいたる。具体的な援助活動は、この内容に基づいて行われる。通常、プランニングには、クライアントの参加を得ながら、アセスメントに基づいて援助計画を立案することと、援助計画の内容についてクライアントの合意を得ることを含む。援助計画のためには、解決すべき問題の見極めと優先順位の決定、長期・短期の援助目標の設定等が必要となる。

マルチメソッド・アプローチ（multi-method approach）

ソーシャルワークに共通する原理や原則に基づくジェネリック・ソーシャルワークに依拠し、必要に応じてそれぞれの方法を組み合わせて援助しようとするアプローチである。

ミクロ・メゾ・マクロ（micro, mezzo, macro）

社会集団にはマクロ、メゾ、ミクロの三段階がある。

それぞれの段階の境界は必ずしも定まっていらないが、国あるいは国際比較研究などの幅広い社会の中で共有される文化などをマクロ水準、そして、地域あるいは地方自治体などからある種のグループなどをメゾ水準、さらには、個々の事例（個人、夫婦、家族、グループ）などをミクロ水準と分けることが多い。三段階にはそれぞれ相互関係があり、ソーシャルワーカーはこれらのいずれかに焦点を置くことはあっても、何らかの形で他の水準との交互関係を持つ。

明確化（clarification）

ソーシャルワークの直接援助技法や心理カウンセリングなどで用いられる面接技法のひとつ。クライエントが表現したいことを思うように言葉にできない場合や自分の考えや気持ちを整理できていない場合に、ソーシャルワーカーが質問したり、適切な言葉を捜して言語化あるいは言い換えたり、クライエントのまとまらない話を要約することによって、面接の焦点となっていることについて明らかにすることである。明確化には、クライエントの話の中から思いや感情を受け取って返す「感情の反映（反射）」と、クライエントの思考内容を汲み取って返す「内容の反映」がある。明確化は、クライエントが自らの問題状況を整理することや、自分の要求を具体化することを促進する。同時にソーシャルワーカーもクライエントの言説や方向性をよりよく理解し、援助にむけて具体的に組み込んでいくことができる。

面接技法（interview skills）

対人援助における面接において、援助関係の確立、情報収集、問題解決、エンパワメントなどを効果的に行うための様々な技法のことである。たとえば、非言語的コミュニケーションへの配慮、傾聴、質問、明確化、内容・感情の反映（反射）、要約、対決（コンフロンテーション）などがある。

モデリング（modeling）

社会的学習理論のひとつで、模倣することによって学習することを技法として用いること。モデリング理論を提唱するバンデューラ（Bandura, A.）によれば、これは人間独特の学習過程であり、事例を観察することから行動についての一般的なルールや原則を引き出し、それによって実際に見たり聞いたりした以上のことができるようになる。

モニタリング（monitoring）

ソーシャルワークにおける援助過程の構成要素の一つで、サービスの点検をすること。サービスが開始された後、一定の期間が経過した時点で計画通りサービスが提供されているか、新たなニーズが発生していないか点検するためのチェック機能であり、サービス提供と再アセスメントの間に位置づけられている。また、援助が実践されると、その結果についての点検もモニタリングと呼ばれる。もし成果が得られていないのであれば、必要な段階に立ち戻って援助を見直すことが必要である。また、事前に設定された目標が達成されれば、援助は終結する。

問題解決モデル（problem-solving approach）

パールマン（Perlman, H.）が提唱したソーシャルワークのアプローチ。診断主義派と機能主義派を統合した

折衷派とも呼ばれ、プラグマティズムや役割理論を取り入れて体系化された。このアプローチでは、人は日々何らかの問題を解決しながら生活を送っているとの認識から、ソーシャルワークも問題解決の過程だと捉える。そしてワーカーは、クライアントとの関わりの中で問題解決に向けての動機付けをし、その能力の向上を支援し、さまざまな機会を積極的に活用して、クライアントが主体的に自らの問題を解決できるよう援助する。

ライフモデル（生活モデル）（life model）

生態学を背景理論としたエコロジカル・ソーシャルワークの代表的モデル。1980年にジャーメイン（Germain, C. B.）らによって体系化された。「適応」や「良好な適応状態」といった生態学の概念を用いながら、クライアントを治療の対象とするのではなく、環境との交互作用関係のなかに生きる生活主体者として捉え、さらにワーカーは個人と環境との接触面に介入するという点に特徴がある。人間がまさに「生活」をする状況、つまり、人と状況が交互作用を行なう「場」そのものを問題とし、その生活のひろがりや長期的な見通しのなかで問題を捉え、生活それ自体がもっている成長と発達および問題解決の力をすべて動員し、援助していこうとする理論である。

※ 交互作用関係＝相互作用（interaction）の古典的理解、すなわち一方は変化せず他方のみが影響を受けるという視点と異なり、互いが影響を受け互いが変化する。

ラポート（信頼関係）（rapport）

援助者とサービス利用者が問題への対応に向けて共同作業するための信頼関係。フランス語で「ラポール」、英語で「ラポート」と呼ばれる。個別面接などの対人援助場面においては、親近感や信頼感にあふれた深い感情的接触を含む信頼関係を築くことが基本的なこととなる。

リーチングアウト／リーチアウト（reach(ing)out）

接触困難な利用者に対し、援助者の責任において行われる積極的な介入。当事者に問題意識が低く援助を求めない場合や、さまざまな理由から援助を拒否している場合などで、緊急的な対応を必要とされる場合にとられる介入活動。児童虐待や生命の危機に及ぶ問題など、リーチアウトとして対応すべき範囲は広がっている。

【関連用語】アウトリーチ

リスクマネジメント（risk management）

問題の予防や、問題が起こった場合の対処の体制を備え、社会福祉実践におけるリスクを軽減、回避させること。スタッフ間の連絡や報告および会議の体制、苦情処理制度やオンブズマン制度、スーパービジョンやコンサルテーションおよび研修制度など様々な側面での体制づくりが求められる。

利用者（ユーザー）（user）

社会福祉サービスを利用する個人、グループ、家族、コミュニティなどのこと。従来は、福祉サービスの利用者はクライアント（client）と呼ばれる場合が多かったが、クライアントという言葉に、被援助者というソーシャルワーカーと対等でない関係や受動的な立場のイメージが強くなったことなどにより、言い換えられるように

なっている。他にも、消費者（consumer）、要求者（claimant）などの言い換えがある。利用者という場合、主体的にサービスを選択・利用して自ら生活の質を維持する権利を遂行する状況、あるいは援助者と被援助者が対等な関係であることなどが強く意識されている場合が多い。

倫理（ethics）

倫理（ethics）とは、人として守り行ふべき道。善悪・正邪の判断において普遍的な基準となるもの。倫理は、専門職（profession）一般、とりわけ、医師、弁護士、教師、社会福祉援助職など、対人専門職と呼ばれる職業には強く求められる。社会福祉の倫理とは、社会福祉の援助において守られるべき共通の原則あるいは利用者に向かう態度のこと。このような専門職の倫理を体系化したものを倫理綱領（ethical code / code of ethics）という。倫理綱領は、専門職の能力、役割、責任あるいは地位を明らかにし、行動基準を導くとともに、それに準拠しないものに対して規制、統制するという機能を果たす。

レジデンシャル・ソーシャルワーク（residential social work）

居住とともに社会的なケアを提供する社会福祉施設において、入所者に対して行われる生活支援の総称。社会福祉施設という固有の生活形態に応じた総合的なソーシャルワークが必要とされるという観点から用いられる用語である。入所者の自立支援を目指し、日常生活の援助、人間関係の調整、社会参加の促進など幅広い援助が含まれる。

Ⅲ. 研究関連資料

1. 項目抽出文献リスト

編著者・訳者	書名	出版社	発行	分類	抽出
川田誉音・水野信義・山口みほ・杉山章子編	改訂・社会福祉援助技術演習	みらい	2002	演習テキスト	有村
北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編	社会福祉基礎シリーズ④ ソーシャルワーク演習（上）	有斐閣	2002	演習テキスト	梅川
北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編	社会福祉基礎シリーズ⑤ ソーシャルワーク演習（下）	有斐閣	2002	演習テキスト	中島
尾崎新著	社会福祉援助技術演習	誠信書房	1996	演習テキスト	田嶋
尾崎新著	対人援助の技法	誠信書房	1998	演習テキスト	小野
白石大介	対人援助技術の実際	創元社	1988	演習テキスト	小野
岡本民夫・小林良二・高田眞治編著	社会福祉士養成テキストブック 社会福祉原論	ミネルヴァ書房	2002	原論テキスト	板野
杉本敏夫監修	障害者ソーシャルワーク	KUMI	2002	参考	板野
A・H・カツツ著 久保紘章（訳）	セルフヘルプ・グループ	岩崎学術出版社	1997	参考	田嶋
相澤譲治編著	ソーシャルワークを学ぶ	学文社	2001	参考	西梅
河野貴代美・杉本貴代栄編	新しいソーシャルワーク入門 -ジェンダー、人権、グローバル-	学陽書房	2001	参考	有村
高橋重宏・宮崎俊策・定藤丈弘編著	ソーシャル・ワークを考える -社会福祉の方法と実践-	川島書店	1981	参考	石井
加茂 陽編	ソーシャルワーク理論を学ぶ人のために	世界思想社	2000	参考	鶴浦
狭間香代子	社会福祉の援助観 ー스트レングス視点・社会構成主義・エンパワメントー	筒井書房	2001	参考	梅川
硯川眞旬	新・社会福祉方法原論ー改訂版ー	ミネルヴァ書房	2001	参考	梅川
平山尚 他	社会福祉実践の新潮流 -エコロジカル・システム・アプローチ-	ミネルヴァ書房	1998	参考	鶴浦
大塚達雄, 井垣章二, 沢田健次郎, 山辺朗子	ソーシャル・ケースワーク論 社会福祉実践の基礎	ミネルヴァ書房	1998	参考	鶴浦
秋山智久	社会福祉実践論 ー方法原理・専門職・価値観ー	ミネルヴァ書房	2000	参考	板野
山縣文治編	社会福祉法の成立と21世紀の社会福祉	ミネルヴァ書房	2001	参考	板野
柏女霊峰・山縣文治編著	新しい子ども家庭福祉 増補版	ミネルヴァ書房	2001	参考	板野
山縣文治編	ソーシャルウェルビーイング事始め	有斐閣	2000	参考	板野
カレル・ジャーメイン他著 小島蓉子編訳・著	エコロジカルソーシャルワーク ーカレル・ジャーメイン名論文集ー	学苑社	1992	参考	中島
イギリス保健省, 社会サービス監査庁, スコットランド庁, ソーシャルワークサーピスグループ: 共著 小田兼三, 青木佳之, 杉本敏夫: 訳	ケアマネジメント ー実践者とマネジャーの指針(第2版)	学苑社	1999	参考	小野
児島美都子・成清美治編著	現代医療福祉概論	学文社	2002	参考	山口
ダナ・N・クリスチャンセン, ジェフリー・トダーン, ウィリアム・C・パレット 曾我昌祺, 杉本敏夫, 得津慎子監訳	解決志向ケースワーク	金剛出版	2002	参考	板野
黒川昭登	臨床ケースワークの基礎理論	誠信書房	1985	参考	中島
藤本昇著	児童福祉ケースワーク	誠信書房	1990	参考	田嶋
中島さつき著	医療ソーシャルワーク	誠信書房	1996	参考	田嶋
F.P.バイスティック著 尾崎新 福田俊子 原田和幸訳	ケースワークの原則 援助関係を形成する技法	誠信書房	1996	参考	小野
黒川昭登著	臨床ケースワークの基礎理論	誠信書房	1996	参考	田嶋
黒川昭登著	臨床ケースワークの診断と治療	誠信書房	1996	参考	田嶋
山川哲也著	臨床医療ソーシャルワーク・マニュアル	誠信書房	1997	参考	山口
尾崎新著	ケースワークの臨床技法 「援助関係」と「逆転移」の活用	誠信書房	1998	参考	小野
山川哲也著	臨床医療ソーシャルワーク	誠信書房	1998	参考	山口
太田義弘著	ソーシャルワーク実践とエコシステム	誠信書房	1999	参考	小野
古川孝順著	社会福祉 21世紀のパラダイム I [理論と政策]	誠信書房	1999	参考	小野

編著者・訳者	書名	出版社	発行	分類	抽出
尾崎新編	「ゆらぐ」ことのできる力	誠信書房	2000	参考	田嶋
山川哲也著	臨床医療ソーシャルワーク、第2版	誠信書房	2000	参考	服部
ジョナサン・モフェット著 杉本一義・松本英孝訳	ケースワーク入門	川島書店	1984	参考	田嶋
ゾフィア・T・ブトゥリム著 川田篤音訳	ソーシャルワークとは何か ーその本質と機能ー	川島書店	1993	参考	板野
小松源助	ソーシャルワーク理論の歴史と展開	川島書店	1993	参考	山口
L.マグワイア（小松源助・稲沢公一訳）	ソーシャルサポートシステム	川島書店	1994	参考	中島
久保紘章著	自立のための援助論	川島書店	1995	参考	田嶋
杉本照子・森野郁子監修 大本和子・笹岡真弓・高山恵理子編著	ソーシャルワークの業務マニュアル	川島書店	1996	参考	山口
ハドレイ.R, クーパー.M, デール.P, ステイシー.G, 共著 小田兼三・清水隆則監訳	コミュニティソーシャルワーク	川島書店	1997	参考	鶴浦
平野かよ子著	セルフ・ヘルプ グループによる回復	川島書店	1997	参考	田嶋
久保紘章・高橋重宏・佐藤豊道（編著）	ケースワーク	川島書店	1998	参考	田嶋
スーザン・ケンプ, ジェームス・ウィ タカー, エリザベス・トレーシー：著 横山穰, 北島英治, 久保美紀, 湯浅典 人, 石河久美子：訳	人ー環境のソーシャルワーク実践	川島書店	2000	参考	鶴浦
佐藤豊道	ジェネラリスト・ソーシャルワーク研究	川島書店	2001	参考	中島
マーガレット・ジベルマン, フィリッ プ・H・シェルピッシュ著 岩崎浩三, 山手茂訳	ソーシャルワーカーとは	相川書房	1997	参考	梅川
マーガレット・ジベルマン著 仲村優一監訳	ソーシャルワーカーの機能と役割 ーアメリカのソーシャルワーカーの現状	相川書房	1999	参考	山口
マーク・ドエル, ピーター・マーシュ 著（小松源助・伊藤富士江共訳）	課題中心ソーシャルワーク	中央法規出版	1995	参考	鶴浦
Mary E Richmond 著 小松源助訳	WHAT IS SOCIAL CASE WORK? （ソーシャルケース・ワークとは何か）	中央法規出版	1997	参考	山口
小関康之・西尾祐吾編著	臨床ソーシャルワーク論	中央法規出版	1997	参考	梅川
多田羅浩三・小田兼三編	医療福祉の理論と展開	中央法規出版	1998	参考	山口
京極高宣著	日本の福祉士制度: 日本ソーシャルワーク史序説, 新版	中央法規出版	1998	参考	服部
小田兼三, 杉本敏夫, 久田則夫	エンパワーメント 実践の理論と技法	中央法規出版	1999	参考	板野
フランシス・J・ターナー編 米本秀仁（監訳）	ソーシャルワーク・トリートメント（上）	中央法規出版	1999	参考	中島
フランシス・J・ターナー編 米本秀仁（監訳）	ソーシャルワーク・トリートメント（下）	中央法規出版	1999	参考	中島
太田義弘編	ソーシャルワーク実践と支援過程の展開	中央法規出版	1999	参考	板野
黒木・横山・水野・岩間著	グループワークの専門技術	中央法規出版	2001	参考	中島
フレデリック・G・リーマン著 秋山智久監訳	ソーシャルワークの価値と倫理	中央法規出版	2001	参考	小野
佐藤俊一	対人援助グループからの発見	中央法規出版	2001	参考	板野
足立勲, 佐藤俊一, 平岡蕃編	ソーシャル・ケースワーク	中央法規出版		参考	中島
塩村公子著	ソーシャルワーク・スーパービジョンの 諸相	中央法規出版		参考	梅川
N・ベイトマン 西尾祐吾監訳	アドボカシーの理論と実際	八千代出版	1998	参考	中島
宮川数君著	ケースワークにおける新機軸: ソーシャルワークの援助構造と技法	八千代出版	2000	参考	服部
大橋謙策(他):編	コミュニティソーシャルワークと自己実 現サービス	万葉舎	2000	参考	梅川
一番ヶ瀬康子他監修	社会福祉辞典	大月書店	2002	辞典	西梅
成瀬美治・加納光子編	第3版現代社会福祉用語の基礎知識	学文社	2003	辞典	石井
	新版・社会福祉用語辞典	中央法規出版	2001	辞典	有村
	社会福祉基本用語集（四訂版）	ミネルヴァ書房	2002	辞典	上野
山縣文治・柏女霊峰編	社会福祉用語辞典 第2版	ミネルヴァ書房	2001	辞典	山口
平岡公一・平野隆之・副田あけみ編	有斐閣双書・社会福祉キーワード（補訂 版）	有斐閣	2002	辞典	小山

編著者・訳者	書名	出版社	発行	分類	抽出
日本社会福祉実践理論学会編	社会福祉基本用語辞典	川島書店	1996	辞典	田嶋
黒木保博・山辺朗子・倉石哲也編著	福祉キーワードシリーズ ソーシャルワーク	中央法規出版	2002	辞典	鶴浦
一番ヶ瀬康子, 井岡勉, 遠藤興一編集	社会福祉辞典	日本図書センター	2000	辞典	梅川
深澤里子・スーザンヴォーゲル監修西田知佳子・仲野真由美編著	社会福祉援助技術演習	光生館	2002	演テキスト	我謝
平岡蕃・宮川数君・黒木保博・松本恵美子著	対人援助 ーソーシャルワークの基礎と演習ー	ミネルヴァ書房	1988	演テキスト	鶴浦
太田義弘・佐藤豊道著	ソーシャルワーク／過程とその展開	海声社	1995	論テキスト	田嶋
西谷裕監修芝拓哉・近藤達也・横山潤・前島弘・早瀬あき著	やさしい医療福祉シリーズ⑤社会福祉援助技術	嵯峨野書院	1995	論テキスト	小山
同編集委員会編	新版社会福祉学双書 2003 社会福祉援助技術論	全社協	2003	論テキスト	西梅
P. テイ, H. メイシー, E. ジャクソン著 菱川愛・北島英治・松本栄二訳	社会福祉援助技術総論 ー基礎と演習ー	筒井書房	1995	論テキスト	鶴浦
武井麻子・春見静子・深澤里子著	ケースワーク・グループワーク -社会福祉援助技術各論Ⅰ-	光生館	1994	論テキスト	我謝
深澤里子・春見静子編著	社会福祉援助技術論	光生館	2002	論テキスト	我謝
大塚達雄・硯川眞旬・黒木保博編著	グループワーク論 ーソーシャルワーク実践のためにー	ミネルヴァ書房	1986	論テキスト	鶴浦
大島侑・佐々木政人	はじめてまなぶ社会福祉② 社会福祉援助技術論	ミネルヴァ書房	1999	論テキスト	上野
北島英治・白澤政和・米本秀仁編著	社会福祉士養成テキストブック② 社会福祉援助技術論(上)	ミネルヴァ書房	2002	論テキスト	上野
黒木保博・福山和女・牧里枚治編著	社会福祉士養成テキストブック③ 社会福祉援助技術論(下)	ミネルヴァ書房	2002	論テキスト	上野
岡本民夫・小田兼三編著	社会福祉援助技術総論	ミネルヴァ書房	1990	論テキスト	中島
後藤卓郎・水谷俊夫編	最新・社会福祉援助技術	みらい	2000	論テキスト	有村
白澤政和・尾崎新・芝野松次郎編	これからの社会福祉⑨社会福祉援助方法	有斐閣	1999	論テキスト	小野
野村豊子・北島英治・田中尚・福島慶子著	ソーシャルワーク・入門	有斐閣	2000	論テキスト	我謝
北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編	社会福祉基礎シリーズ② ソーシャルワーク実践の基礎理論	有斐閣	2002	論テキスト	梅川
黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編	社会福祉基礎シリーズ③ ソーシャルワーク実践とシステム	有斐閣	2002	論テキスト	小野
森井利夫編著	社会福祉援助技術	学文社		論テキスト	小野
岡本民夫, 成清美治, 小山隆編	社会福祉援助技術論	学文社		論テキスト	梅川
太田義弘・秋山薊二編著	ジェネラル・ソーシャルワーク ー社会福祉援助技術総論ー	光生館	1999	論テキスト	山口
岡本民夫編	社会福祉援助技術総論	川島書店	1990	論テキスト	鶴浦
杉本敏夫・住友雄資編	新しいソーシャルワーク ー社会福祉援助技術入門ー	中央法規出版	1998	論テキスト	服部
養成講座編集委員会編	新版社会福祉士養成講座 「援助技術各論Ⅰ, Ⅱ」	中央法規出版	2001	論テキスト	梅川
右田紀久恵, 小寺全世, 白澤政和: 編著	社会福祉援助と連携	中央法規出版	2000	参考	山口

2. 第1次抽出項目

作業は次の順序で行われた。

1. 項目抽出協力者14名に、それぞれが担当する本を送付した。
2. ソーシャルワーク、あるいは社会福祉に関連して、重要だと思い、かつ定義や説明の記述が近くにある用語を抽出することを依頼した。抽出の際に、記述のあった箇所（ページ・行）も併せて記述した。
3. ヨミでまとめ、抽出回数を集計した。

集計結果は以下ようになった。なお、集計作業の過程では、ヨミでまとめていったため、違う言葉でもヨミが同じ場合など、きちんと分類されていない場合もある。

ケースワーク、ケースワーク（個別援助技術）…64 アセスメント、アセスメント（査定・事前評価）、アセスメント（事前評価）、アセスメント（初期評価）…60 ソーシャル・ワーク、ソーシャルワーク、ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）…60 グループ・ワーク、グループワーク、グループワーク（集団援助技術）…53 ケアマネージメント、ケアマネージメント…52 「エンパワーメント」、empowerment、エンパワーメント…48 受容…45 カウンセリング…43 社会資源…40 インテグレーション…39 評価…36 ソーシャルワーカー、ソーシャルワーカー（援助者）…34 「個別化」、個別化…32 「自己決定」、自己決定…32 「社会福祉」、社会福祉、社会福祉基礎構造改革…32 クライアント…31 「契約」、契約…31 「生活モデル」、生活モデル…31 モニタリング…31 コミュニティ・オーガニゼーション、コミュニティ・オーガニゼーション、コミュニティ・オーガニゼーション、コミュニティ・オーガニゼーション…30 「自己覚知」、自己覚知…30 ノーマライゼーション…30 advocacy、アドボカシー…29 コンサルテーション…29 レポート、レポート（ル）、ラポール、ラポール（信頼関係）…29 エコ・マップ、エコマップ…28 ソーシャル・アクション、ソーシャルアクション、ソーシャルアクション（社会活動法）…28 アドボカシー、アドボカシー、アドボカシー…27 コミュニティワーク、	コミュニティワーク、コミュニティワーク（地域援助技術）…27 「医学モデル」、医学モデル…26 「非審判的態度」、非審判的態度、非審判的態度…26 医療ソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー…25 セルフヘルプ・グループ、セルフヘルプ・グループ、セルフヘルプグループ…25 秘密保持…25 インフォームド・コンセント、インフォームドコンセント…24 傾聴…24 介入、逆説的介入…23 家族療法…23 ケース・マネージメント、ケース・マネージメント、ケース・マネージメント、ケース・マネージメント、ケース・マネージメント、ケース・マネージメント…23 ケースワーカー、ケースワーカー…23 ジェネラリスト・アプローチ、ジェネラリスト・アプローチ…22 社会福祉協議会…22 転移…22 面接…22 「問題解決アプローチ」、問題解決アプローチ…22 「危機介入」、危機介入…21 「共感」、共感…21 「システム理論」、システム理論、システム論、システム理論…21 終結…21 「倫理綱領」、倫理綱領…21 クライアント・システム、クライアント・システム、クライアントシステム…20 「コミュニケーション」、コミュニケーション…20 『社会診断』、社会診断…20 社会福祉法、社会福祉法（2000年6月制定）、社会福祉法…20 「逆転移」、逆転移…19 自己実現…19 スーパーバイザー…19 ライフ・モデル、ライフモデル…19 ワーカビリティ…19 スティグマ、スティグマ（烙印）…18	地域援助技術、地域援助技術（コミュニティ・オーガニゼーションあるいはコミュニティワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）…18 福祉事務所…18 アカウンタビリティ、アカウンタビリティ（行政の説明責任）…17 「慈善組織協会」、慈善組織協会、慈善組織協会運動…17 社会福祉士、社会福祉士…17 ソーシャル・ケース・ワーク、ソーシャル・ケース・ワーク、ソーシャル・ケース・ワークとは何か、『ソーシャル・ケースワークとは何か』…17 コミュニティ・ケア、コミュニティケア…16 生活保護法…16 セトルメント運動…16 フェイス・シート、フェイスシート…16 友愛訪問…16 介護福祉、介護福祉士…15 価値…15 間接援助技術、間接的援助技術、間接援助技術…15 グループ・スーパービジョン、グループスーパービジョン…15 行動療法…15 個別援助技術、個別援助技術（ケースワーク）、個別援助技術（ソーシャル・ケースワーク）…15 在宅介護支援センター…15 児童福祉、児童福祉法…15 生活場面面接…15 防衛機制、防衛規制…15 アイデンティティ…14 行動変容アプローチ…14 児童虐待…14 社会調査、社会調査（ソーシャル・サーベイ）、社会調査…14 社会福祉援助技術…14 社会福祉調査法、社会福祉調査法（ソーシャルワーク・リサーチ）、社会福祉調査法…14 自律、自立…14 チーム・アプローチ、チーム・アプローチ…14 直接援助技術…14 ニーズ…14 援助関係…13 「過程」、家庭、過程…13 QOL、QOL、QOL（生活の質）…13	ケア・ワーク、ケアワーク…13 権利擁護…13 公的扶助…13 社会福祉基礎構造改革…13 社会福祉調査、社会福祉調査（ソーシャルワーク・リサーチ）、社会福祉調査…13 処遇…13 自立生活運動…13 「心理療法」、心理療法…13 成年後見制度…13 ソーシャル・グループ・ワーク、ソーシャル・グループワーク…13 ソーシャル・ワーク実践、ソーシャルワーク実践…13 チームワーク…13 ネットワーク…13 ハル・ハウス、ハルハウス…13 クライアントの自己決定…12 グループ・ダイナミクス、グループダイナミクス…12 ケースワーク関係、ケースワークカンケイ、ケースワーク関係…12 在宅福祉サービス…12 自我、自我（エゴ）…12 自我心理学…12 社会福祉運営管理、社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）…12 社会福祉政策…12 集団援助技術、集団援助技術（グループワーク）、集団援助技術（ソーシャル・グループワーク）…12 ストレス…12 相互援助モデル、相互作用（媒介）モデル、相互作用モデル…12 「相互扶助」、相互扶助…12 タスク・ゴール、タスク・ゴール…12 「多問題家族」、多問題家族…12 地域福祉計画…12 地域福祉権利擁護事業…12 パーソナリティ…12 「フィードバック」、フィードバック…12 プロセス・ゴール、プロセス・ゴール…12 「問題解決モデル」、問題解決モデル…12 4つのP、4つのP、4つのP、4つのP、4つのP、	4つのP…12 リハビリ、リハビリテーション…12 医療福祉…11 援助過程…11 学校ソーシャルワーク…11 機能主義、機能主義（リンク派）、機能主義…11 記録…11 ケアプラン…11 ケース・カンファレンス、ケースカンファレンス、ケースカンファレンス（case conference）…11 ケース記録…11 コミュニティ・ワーカー、コミュニティワーカー…11 児童養護施設…11 社会福祉計画、社会福祉計画（ソーシャル・プランニング）…11 社会福祉実践…11 社会保障…11 自律支援、自立支援…11 「心理社会的アプローチ」、心理・社会的アプローチ、心理社会的アプローチ…11 スーパーバイザー、スーパーバイザー…11 「生活の質」、生活の質、生活の質（QOL）、生活の質…11 精神保健福祉士…11 相互作用…11 ソーシャル・アドミニストレーション、ソーシャル・アドミニストレーション…11 トインビー・ホール、トインビーホール…11 ネットワークング…11 バークレイ報告…11 ピア・カウンセリング、ピア・カウセンシング、ピア・カウンセリング…11 「非言語的コミュニケーション」、非言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション…11 民生委員…11 医療ソーシャルワーク…10 医療扶助…10 インター・グループ・ワーク、インターグループ・ワーク、インターグループワーク（集団間調整）…10 ウェル・ビーイング、ウェルビーイング…10 エリザベス教養法…10 エンカウンター・グルー	プ、エンカウンターグループ…10 援助計画、援助計画（ケース・プランニング）、援助計画…10 グループ・ワーカー、グループワーカー…10 交互作用…10 コミュニティ・ソーシャルワーク、コミュニティソーシャルワーク…10 主訴…10 身体障害者福祉法…10 診断主義、診断主義（精神分析的）、診断主義…10 精神分析…10 全米ソーシャルワーカー協会…10 ターミナル・ケア、ターミナルケア…10 「単一事例実験計画法」、単一事例実験計画法…10 地域組織化…10 ニーズ・資源調整説、ニーズ・資源調整説…10 プランニング…10 ホームヘルパー、ホームヘルパー（訪問介護員）…10 ミルフォード会議…10 役割理論…10 「友愛訪問員」、友愛訪問員…10 ライフ・サイクル、ライフサイクル…10 老人福祉法…10 ロールプレイ…10 ワーカー…10 アドミニストレーション…9 「アンビバレンス」、アンビバレンス…9 『一般システム理論』、一般システム理論…9 意図的な感情表現、意図的な感情表出…9 インター・グループ・ワーク説、インター・グループワーク説…9 エコロジカル・アプローチ、エコロジカル・アプローチ、エコロジカルアプローチ…9 「技術」、技術…9 グループホーム…9 ケア…9 ケアマネージャー、ケアマネジャー…9 ケースワークの原則…9 言語的コミュニケーション…9 「行動化」、行動化…9 個人スーパービジョン…9 コミュニティ…9 コミュニティ・ディベロ
--	--	--	--	---	---

アップメント…9	一エゴ) …8	精神科ソーシャルワーカー…7	グループ・カウンセリング、グループカウンセリング…6	…6	技法…5
コンピテンス…9	特別養護老人ホーム…8	生態学…7	グループワークの原則、グループワークの原則…6	バリア・フリー、バリアフリー…6	救貧院…5
ジェノグラム…9	ナショナル・ミニマム、ナショナル・ミニマム、ナショナルミニマム…8	説明体…7	ケアハウス…6	ひとり親家庭…6	教育的機能…5
児童指導員…9	パターナリズム…8	セツメント…7	ケース・ヒストリー、ケースヒストリー…6	標本調査…6	ぐ(虞)犯少年、虞犯少年…5
児童福祉司…9	福祉教育…8	セラピスト…7	効果測定…6	「貧困戦争」、貧困戦争…6	グループ…5
シーボーム報告…9	保育士…8	「セルフ・ヘルプ」、セルフ・ヘルプ、セルフヘルプ…7	高齢社会…6	フェミニズム…6	ケアマネジメントシステム…5
社会活動法、社会活動法(ソーシャル・アクション) …9	ホームレス…8	ソーシャル・プランニング、ソーシャルプランニング、ソーシャルプランニング(社会計画) …7	コーディネーター…6	福祉活動専門員…6	ケースワーカーの役割…5
社会福祉援助活動…9	ホメオスターシス、ホメオスタシス…8	Social Policy、ソーシャル・ポリシー、ソーシャル・ポリシー、ソーシャルポリシー…7	個別化の原則…6	福祉公社…6	ケースワークの構成要素…5
社会保険…9	モデリング…8	知識…7	コンプレックス…6	福祉サービス…6	ケースワークの定義…5
情報収集…9	利用者…8	知的障害者福祉法…7	在宅ケア…6	福祉社会…6	現任訓練…5
診断…9	アクション・システム…7	直接処遇…7	参加観察…6	福祉組織化…6	交渉…5
生活指導員…9	アダルト・チルドレン、アダルトチルドレン…7	「洞察」、洞察…7	ジェンダー…6	福祉のまちづくり…6	更正施設、更生施設…5
生活歴、生活歴…9	一般システム論…7	「洞察」、洞察…7	自助…6	婦人相談所…6	行動変容モデル…5
「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律…9	インテグレーション…7	日本社会福祉士会…7	事前評価、事前評価(アセスメント) …6	婦人保護施設…6	広報活動…5
ソーシャル・サービス、ソーシャルサービス…9	インフォーマル・ケア、インフォーマルケア…7	Personal Social Service、パーソナル・ソーシャル・サービス、パーソナル・ソーシャル・サービス、パーソナル・ソーシャルサービス…7	児童相談所…6	ふれあいのまちづくり事業、ふれあいのまちづくり事業…6	高齢者虐待…5
措置制度、措置費制度…9	エコ・システム、エコシステム…7	「洞察」、洞察…7	シビル・ミニマム、シビル・ミニマム、シビルミニム…6	方法…6	国際家族年…5
地域診断…9	ADL…7	「洞察」、洞察…7	自閉症…6	保護司…6	国際児童年…5
治療モデル…9	エンパワメント・アプローチ、エンパワメント・アプローチ、エンパワメント・アプローチ…7	「洞察」、洞察…7	社会化…6	保護施設…6	国際障害者年…5
統合された情緒的関与…9	「関係療法」、関係療法…7	「洞察」、洞察…7	社会改良…6	母子相談員…6	コーディネーション…5
ピア・スーパービジョン、ピアスーパービジョン…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	社会関係…6	ボランティア・センター、ボランティアセンター…6	コーディネート…5
ヒューマン・サービス、ヒューマンサービス…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	社会計画…6	無意識…6	コーピング…5
プログラム活動…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	社会政策…6	名称独占…6	ゴールドプラン…5
母子及び寡婦福祉法…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	社会治療…6	燃えつき症候群、燃えつき症候群(バーンアウト)、燃えつき症候群(バーンアウト・シンドローム) …6	コニー…5
母子生活支援施設…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	社会的不利…6	「役割」、役割…6	コンビネーション・アプローチ、コンビネーション・アプローチ…5
ボランティア…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	社会福祉事業…6	有償ボランティア…6	作業療法、作業療法士…5
「問題」、問題…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	社会問題…6	「要介護認定」、要介護認定…6	里親制度…5
リーダーシップ…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	集団療法…6	療養型病床群…6	generic approach、ジェネリック・アプローチ…5
リレーションシップ・ゴール、リレーションシップ・ゴール…9	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	受容の原則…6	臨床ソーシャルワーク…6	支援費給付制度、支援費支給制度…5
アウトリーチ、アウトリーチ …8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	「障害者プラン」、障害者プラン…6	老人福祉施設…6	自己開示…5
インクルージョン…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	情緒障害…6	「われわれ感情」、われわれ感情…6	自己概念…5
インテーク面接…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	シヨーステイ…6	アクション・リサーチ…5	自己責任…5
エバリュエーション…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	事例調査…6	アクセシビリティ…5	自己同一性…5
援助者、援助者(ソーシャルワーカー) …8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	新救貧法…6	アグレッシブ・ケースワーク…5	支持…5
エンゼルプラン…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	新・ゴールドプラン、新・ゴールドプラン…6	イネブラー、イネブラー…5	自助具…5
介護保険…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	身体障害者福祉司…6	医療保護施設…5	システム論…5
介護保険制度…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	診断主義派…6	アルコール依存症…5	質問…5
学習理論…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	生活技能訓練…6	逸脱行動…5	児童…5
感情転移…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	生活障害…6	イネブラー、イネブラー…5	児童委員…5
危機介入アプローチ…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	生活扶助…6	医療保護施設…5	児童福祉施設最低基準、児童福祉司、児童福祉施設最低基準…5
軽費老人ホーム、経費老人ホーム、軽費老人ホーム…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	生活問題…6	医療保護入院…5	司法福祉…5
ケース・スタディ、ケーススタディ…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	精神科ソーシャルワーク…6	陰性転移…5	社会諸目標モデル…5
公民権運動…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	精神障害者…6	エコロジカル・パースペクティブ、エコロジカル・パースペクティブ(生態学的視座) …5	社会福祉事業法…5
参加の原則…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	精神分析理論…6	MSW、MSW、MSW…5	社会福祉主事、社会福祉士…5
自己決定の原則…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	精神療法…6	エルバーフェルト制度…5	社会福祉の対象…5
実践…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	ソシオメトリ…6	置き換え、置換え…5	社会保障制度審議会…5
児童自立支援施設…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	ソーシャルサポート・ネットワーク、ソーシャルサポート・ネットワーク…6	オペラント条件づけ、オペラント条件づけ…5	集団…5
児童福祉施設…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	ソーシャルワーク・リサーチ、ソーシャルワーク・リサーチ(社会福祉調査) …6	介護扶助…5	12ステップ・グループ…5
社会福祉サービス…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	措置費…6	介護報酬…5	授産施設…5
社会福祉法人…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	対処能力…6	介護保険法…5	受理面接…5
「心身症」、心身症…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	ターゲット・システム…6	外傷体験…5	生涯学習…5
信頼関係…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	地域社会…6	開放システム…5	障害者基本法…5
精神障害…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	敵応、適応…6	核家族…5	「浄化法」、浄化法…5
生存権…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	乳児院…6	家族…5	状況のなかの人、状況のなかの人…5
セルフ・アドボカシー、セルフアドボカシー…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	バースティックの7原則、バースティックの7原則、バースティックの7原則、バースティックの7原則…6	家族診断…5	少年法…5
ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション、ソーシャルウェルフェア・アドミニストレーション…8	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	地域福祉活動計画…6	課題グループ…5	助言…5
超自我、超自我(スーパー	「解釈」、解釈…7	「洞察」、洞察…7	敵応、適応…6	観察…5	所得保障…5

心理劇，心理劇（サイコドラマ）…5	ブライバシー…5	課題中心モデル…4	事業型社協…4	精神障害者社会復帰施設…4	保育の実施…4
スクール・カウンセラー， スクールカウンセラー…5	プログラム…5	カタルシス…4	資源…4	精神障害者地域生活支援 センター…4	方策…4
ストレッサー…5	プロセス評価…5	価値観…4	支持的技法…4	精神障害者福祉ホーム…4	方法論…4
生活施設…5	保育所…5	価値の総体…4	市場原理…4	「精神薄弱者福祉法」，精 神薄弱者福祉法…4	訪問看護…4
生業扶助…5	保健士，保健師…5	活動…4	自助グループ…4	精神分析学…4	保護…4
精神医学ソーシャルワー ク…5	保護監察官，保護観察官 …5	活動の評価…4	慈善…4	精神保健…4	保護観察…4
精神衛生運動…5	母子保健法…5	「家庭訪問」，家庭訪問… 4	慈善事業…4	精神保健福祉士法…4	保護者…4
精神障害者福祉工場…5	ホスピス…5	観察法…4	肢体不自由児施設…4	摂食障害…4	保護処分…4
精神分裂病…5	ホスピタリズム…5	感情移入…4	じっ救規則，恤救規則…4	「全体性」，全体性…4	保護請求権…4
精神保健福祉相談員…5	ボランティア活動…5	感情の反射…4	実践方法…4	そううつ病，躁うつ病…4	ボランティアコーディネ ーター，ボランティアコー ディネーター…4
生態学的アプローチ…5	ボランティア基金…5	間接処遇…4	「指導」，指導…4	葬祭扶助…4	マッピング技法…4
折衷主義…5	マクロ…5	「間接療法」，間接療法… 4	児童憲章…4	組織化説…4	ミクロ…4
全数調査…5	マーケット・バスケット 方式，マーケットバスケ ット方式…5	機関委任事務…4	児童権利宣言…4	ソーシャル・ニーズ，ソ ーシャルニーズ…4	メインストリーミング…4
選別主義…5	マネージメント，マネジ メント…5	危機…4	児童厚生施設…4	ソーシャルワーク過程…4	面接の目的…4
専門職，専門職化…5	multi-method approach， マルチメソッド・アプロ ーチ，マルチメソッドア プローチ…5	機能主義アプローチ…4	自閉症児施設…4	措置入院…4	盲児施設…4
「ソーシャルアクション」モデル，ソーシャル・ アクション・モデル，ソ ーシャル・アクションモ デル，ソーシャルアクシ ョンモデル…5	無作為抽出法…5	技能の総体…4	社会計画モデル…4	第三者評価…4	モデル…4
ソーシャル・サポート， ソーシャルサポート…5	無差別平等の原理…5	キャリア・オーバー効果， キャリアオーバー効果…4	社会システム…4	対人援助サービス…4	夜間保育…4
ソーシャルネットワーク …5	メディケア…5	教育扶助…4	社会正義，社会正義志向 …4	対人福祉サービス…4	ユニバーサル・デザイン， ユニバーサルデザイン…4
ソーシャルワークの価値 …5	メディケイド…5	緊急通報システム…4	社会的機能…4	第二次分野…4	「要約記録」，要約記録… 4
送致，措置…5	面接技法…5	クライエント中心療法…4	社会的処遇…4	代弁…4	抑圧…4
尊厳死…5	問題解決…5	クライエント中心理論…4	社会的諸目標モデル…4	地域援助技術（コミュニテ ィワーク），地域援助技術 （コミュニティワーク） …4	予防給付…4
対象（ないし対人）関係， 対象関係…5	問題行動…5	クリニカル・ソーシャル ワーク，クリニカルソー シャルワーク…4	社会的リハビリテーショ ン…4	地域子育て支援センター …4	労働的診断…4
対話…5	養護老人ホーム…5	グループ・ワークの過程， グループワークの過程…4	社会福祉・医療事業団…4	地域福祉…4	リーチアウト…4
地域ケア…5	養子（縁組），養子縁組… 5	ケアカンファレンス，ケ アカンファレンス（care conference）…4	社会福祉協議会基本要項 …4	地域保健…4	リハビリテーション・イン ターナショナル，リハ ビリテーションインター ナショナル…4
地域組織化活動…5	陽性転移…5	経過記録…4	社会福祉資源…4	地域福祉…4	リビドー…4
知的障害児施設…5	理学療法士…5	ゲシュタルト療法…4	社会保障制度…4	地域保健…4	リビングケア…4
知的障害者援護施設…5	臨床ソーシャルワーカー …5	ゲマインシャフト…4	住宅扶助…4	地域保健法…4	療育手帳…4
知的障害者福祉司…5	隣保館…5	原因論的診断…4	集団援助技術（グループ ワーク），集団援助技術（グ ループワーク）…4	地域リハビリテーション …4	利用者本位…4
知能検査…5	ろうあ児施設…5	現実論的診断…4	住民参加型在宅福祉サー ビス…4	チェンジ・エージェント・ システム…4	寮母…4
痴呆…5	YMCA，YMCA，YMCA（キリ スト教青年会）…5	現業員，現業員（ケース ワーカー）…4	自由面接法…4	知識の総体…4	老人憩いの家…4
仲介者…5	YWCA，YWCA（キリスト教 女子青年会）…5	健康保険…4	出産扶助…4	知的障害者生活支援事業 …4	老人クラブ…4
「調査」，調査…5	ワークハウス…5	言語化…4	守秘義務…4	知的障害者福祉工場…4	老人福祉センター…4
直接的指示，直接的支持 …5	朝日訴訟…4	言語コミュニケーション …4	受理…4	知的障害者福祉ホーム…4	老人保健施設…4
治療のモデル，治療モデル …5	アタッチメント…4	言語障害…4	障害基礎年金…4	治療的機能…4	ワーカーズ・コレクティ ブ…4
沈黙…5	アフターケア…4	言語聴覚士…4	障害者福祉…4	デルファイ法…4	「21世紀福祉ビジョン」， 21世紀福祉ビジョン，21 世紀福祉ビジョン—少 子・高齢化社会に向けて —…3
動機づけ…5	アプリカント…4	検定…4	障害者福祉…4	投影法…4	アート…3
統制させた情緒関与，統 制された情緒関与…5	アメリカ・ソーシャルワ ーカー協会，アメリカソ ーシャルワーカー協会…4	現物給付…4	障害の受容…4	統計調査…4	アパシー…3
ドメスティック・バイオ レンス，ドメスティック・ バイオレンス（d.v.），ド メスティックバイオレン ス…5	アルツハイマー病…4	原理…4	小地域福祉活動…4	当事者運動…4	アプローチ…3
認知療法…5	アルマナー…4	後見人…4	情緒障害児短期治療施設 …4	統制的観察法…4	アメニティ…3
認知理論…5	アルモナー…4	口唇期…4	少年鑑別所…4	トリートメント…4	アメリカ病院ソーシャル ワーカー協会…3
売春防止法…5	育成医療…4	更生医療，更正医療…4	情報公開…4	日本医療社会事業協会…4	アンビバレント…3
パートナーシップ…5	一時保護…4	肛門期…4	処遇計画…4	日本型福祉社会…4	生きがい就労…3
「場面構成」，場面構成… 5	医療ソーシャルワーカー 業務指針…4	高齢者福祉…4	職業リハビリテーション …4	任意入院…4	育児休業制度…3
PSW…5	医療保険制度…4	国際高齢者年…4	触法少年…4	認知行動理論…4	育児不安…3
引きこもり，ひきこもり， 引きこもり…5	「医療」モデル，医療モ デル…4	国際障害分類…4	助産施設…4	能力障害…4	意志，医師，医師・患者 関係…3
非行少年…5	インフォーマル・ネット ワーク，インフォーマル ネットワーク…4	「国民保健サービス及び コミュニティケア法」，国 民保健サービス及びコミ ュニティケア法…4	新エンゼルプラン…4	博愛事業…4	意識…3
非12ステップ・グループ …5	英国ソーシャルワーカー 協会…4	互助…4	神経症…4	箱庭療法…4	意識化…3
貧困調査…5	SST，SST…4	個人の尊重，個別性の尊 重…4	親権…4	場所…4	意識障害…3
ファシリテーター…5	NASW…4	個別援助…4	申請主義…4	犯罪少年…4	意識調査…3
ファミリーマップ…5	NPO…4	個別援助技術（ケースワ ーク），個別援助技術（ケ ースワーク）…4	「身体化」，身体化…4	非貨幣的ニーズ…4	移送サービス…3
フェース・シート，フェ ースシート…5	エンゲル方式…4	雇用保険…4	身体障害者更生相談所， 身体障害者更正相談所， 身体障害者授産施設…4	非言語コミュニケーション …4	逸脱…3
フォーマル・ケア，フォ ーマルケア…5	援助活動…4	コンサルタント…4	身体障害者相談員…4	必要即応の原則…4	一般化…3
福祉人材センター…5	岡村理論…4	コンシューマー…4	身体障害者手帳…4	「人」，人…4	イネイブリング…3
福祉多元主義…5	開始期…4	psw，サイキアトリック・ ソーシャルワーカー…4	診断主義ケースワーク…4	開かれた質問…4	医療券，医療圏…3
福祉の就労…5	介助…4	サイコドラマ…4	心理・社会モデル，心理 社会モデル…4	フィランソロピー…4	医療保険…3
福祉ニーズ…5	ガイドヘルパー…4	在宅福祉…4	生活…4	フェミニスト・カウンセ リング…4	医療保障…3
普遍主義…5	拡大家族…4	最低生活費…4	生活支援員…4	福祉NP0…4	インターフェイス…3
	家族周期…4	再保証…4	生活保護…4	福祉情報…4	インフォーマル・グルー プ…3
	家族力動…4	サポート・グループ，サ ポートグループ…4	制限…4	福祉文化…4	エイズ…3
	家族療法アプローチ…4	参加…4	精神医学ソーシャルワー カー…4	福祉六法，福祉六法体制 …4	エイズ…3
	「課題中心ケースワー ク」，課題中心ケースワ ーク…4	ジェネラリスト， generalist approach…4	「精神衛生法」，精神衛生 法…4	婦人相談員…4	ADL…3
		ジェノグラム…4		プライマリ・ケア，ブラ イマリーケア…4	A・A，A A，AA…3
				フラストレーション…4	エコシステム理論…3
				ブレイセラビー…4	エコロジー…3
				ブレインストーミング…4	
				ペバリッジ報告…4	
				弁護者…4	

エディブス・コンプレックス, エディブスコンプレックス…3 NGO…3 エンジェル係数…3 援助技術…3 援助計画作成…3 援助計画実行…3 援助契約…3 援助的コミュニケーション…3 援助方法…3 援助目的…3 大橋理論…3 OJT, OJT …3 「お世話」…3 音楽療法…3 介護サービス…3 介護認定審査会…3 介護保険施設…3 介護保険審査会…3 介護予防・生活支援事業…3 改正救済法…3 疥癬…3 「外的資源」, 外的資源…3 家事援助…3 家事援助サービス…3 家族関係図…3 家族ケースワーク…3 家族構造…3 家族システム…3 家族システム理論…3 家族造型法, 家族造形法…3 家族中心ケースワーク…3 家族病理…3 家族問題…3 課題, 課題(タスク)…3 課題中心ソーシャルワーク…3 葛藤解決の原則…3 家庭学校…3 家庭相談員…3 寡婦…3 寡婦年金…3 寛解…3 感化救済事業…3 喚起, 喚気…3 環境…3 環境アセスメント…3 感受性訓練…3 完全参加と平等…3 官僚制…3 記憶障害…3 危機介入モデル…3 企業内福祉…3 基礎年金…3 機能的アプローチ…3 規範…3 基本的欲求…3 休業補償給付…3 救世軍…3 救貧事業…3 教育的リハビリテーション…3 「共依存」, 共依存…3 強化, 教化…3 共同組合, 協同組合…3 脅迫神経症…3 居住福祉…3 居宅保護…3 記録, 記録の目的…3 緊急保育対策5か年事業, 緊急保育対策等 5 か年事業…3 クオリティ・オブ・ライフ…3 クラス・アドボカシー…3 グリフィス報告…3 グループ・ダイナミクス,	グループ・ダイナミクス…3 グループホーム(高齢者)…3 グループホーム(児童)…3 グループホーム(障害者)…3 グローバリゼーション…3 ケア・コーディネーション, ケアコーディネーション…3 ケアプランの作成…3 ケアマネジメントの過程…3 計画策定…3 KJ法…3 ゲシュタルト心理学…3 ケースワークの原理…3 ケースワークの面接…3 ゲゼルシャフト…3 結核予防法…3 欠損家庭…3 現金給付…3 健康保険法…3 権利擁護事業…3 公害…3 公共の福祉…3 交互作用モデル…3 公助…3 更正, 更生…3 厚生事業…3 「構造的家族療法」, 構造的家族療法…3 行動ケースワーク…3 合理化…3 交流分析…3 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業…3 国際ソーシャルワーカー連盟…3 国民医療費…3 国民健康保険団体連合会…3 個人的自己覚知…3 個性化…3 子育て支援…3 子育て支援短期利用事業…3 固着…3 古典的条件づけ, 古典的条件付け…3 子どもの権利条約…3 五人組制度…3 個別化の原理…3 個別面接…3 コミュニケーション理論…3 コミュニティ・グループ, コミュニティグループ…3 ゴールドプラン21…3 在宅介護…3 在宅サービス…3 最低生活保障…3 里親…3 サービス・ニーズ, サービス・ニーズ, サービスニーズ…3 サービスの質…3 サービス評価…3 サービスマネジメント…3 サブ・グループ, サブグループ…3 サポート・ネットワーク, サポートネットワーク…3 ジェネラリスト・ソーシャルワーク…3 ジェネラル・ソーシャルワーク…3 ジェネリック・ケースワーク…3 支援, 支援 …3	資源システム…3 自己効力感…3 「自己中心性」, 自己中心性…3 自己調整, 自己調整(セルフレギュレーション)…3 事後評価…3 自己理解…3 支持的機能…3 システム思考…3 施設福祉…3 慈善組織(化)協会, 慈善組織化協会, 慈善組織(化)協会…3 慈善組織協会…3 持続的指示, 持続的支持…3 肢体不自由児療護施設…3 視聴覚障害者情報提供施設…3 実施計画…3 実証主義…3 実践モデル…3 実存主義…3 実存主義アプローチ…3 指定居宅介護支援事業者…3 指定居宅サービス事業者…3 児童虐待の防止等に関する法律…3 児童居宅介護等事業…3 児童ケースワーク…3 児童相談所運営指針…3 児童手当…3 児童手当法…3 児童デイサービス事業…3 児童の権利に関する条約…3 児童扶養手当法…3 社会運動…3 社会活動…3 社会活動法(ソーシャル・アクション), 社会活動法(ソーシャルアクション)…3 社会サービス…3 社会生活機能…3 社会生活技能訓練…3 社会制度…3 社会手当…3 社会的スキル訓練…3 社会的ニーズ…3 社会的入院, 社会的入院患者…3 社会的ヒューマニズム…3 社会的目標モデル…3 社会踏査…3 社会福祉運動…3 社会福祉関係八法改正…3 社会福祉従事者…3 社会福祉社, 社会福祉審議会…3 社会福祉の権利…3 社会福祉の方法…3 社会福祉の倫理…3 社会保障関係費…3 集合調査法…3 重症心身障害児…3 就職促進給付…3 住宅改造…3 集団援助…3 集団規範…3 集団精神療法…3 自由連想法…3 就労部門…3 宿所提供施設…3 主体性尊重の原理…3 「主体性の保障」…3 恤救規則…3 出産手当金…3	受理会議…3 手話通訳士…3 準備期…3 ジョイニング…3 障害…3 障害児保育…3 少子化…3 「小地域開発」モデル, 小地域開発モデル…3 少年院…3 少年刑務所…3 少年審判…3 少年非行…3 傷病手当金…3 情報提供…3 職業訓練…3 食事サービス…3 食事療法…3 職能団体…3 シルバー人材センター…3 事例調査法…3 ジレンマ…3 人権…3 人権尊重…3 人工透析…3 新・社会福祉協議会基本要項…3 心身障害児(者)施設地域療育事業…3 心身障害児(者)巡回療育相談等事業…3 心身障害児総合通園センター…3 身体障害者更正施設, 身体障害者更生施設…3 身体障害者更正相談所, 身体障害者更生相談所, 身体障害者更正相談所…3 身体障害者自立支援事業…3 身体障害者相談支援事業…3 身体障害者福祉…3 身体障害者福祉センター…3 診断主義アプローチ…3 心的外傷…3 「心理社会療法」, 心理社会療法…3 心理的欲求…3 心理テスト…3 心理判定員…3 スクール・ソーシャルワーカー, スクールソーシャルワーカー…3 ストレングス視点…3 スーパービジョンの機能…3 スペシフィック…3 スラム…3 生育暦, 生育歴, 生育暦…3 生活…3 生活構造…3 生活習慣病…3 生活保護基準…3 制限の原則…3 制限扶助主義…3 精神科デイ・ケア, 精神科デイケア…3 精神鑑定…3 成人社会化アプローチ…3 精神障害者社会適応訓練事業…3 精神障害者社会復帰促進センター…3 精神障害者生活訓練施設…3 精神障害者保健福祉手帳…3 精神遅滞…3 精神年齢…3	精神病…3 精神保健指定医…3 精神保健福祉センター…3 「精神保健法」, 精神保健法…3 生態学的視座…3 生態学的観点, 生態学的視点…3 性暴力…3 世界人権宣言…3 セクシュアル・ハラスメント, セクシュアルハラメント…3 世帯単位の原則…3 世帯分離…3 接近困難なクライアント…3 説明責任…3 セルフケア…3 船員保険…3 全面発達…3 専門職業…3 専門職業的自己覚知…3 専門職団体…3 専門職ワーカー…3 専門ソーシャルワーク…3 専門知識…3 相関係数…3 相互援助システム…3 相談援助…3 ソシオグラム…3 ソーシャル・インクルージョン, ソーシャルインクルージョン, ソーシャルウェルフェア…3 ソーシャル・ウェルフェア, ソーシャルウェルフェア, ソーシャルウェルフェア…3 ソーシャルネットワークマップ…3 ソーシャルワーカーの倫理綱領…3 ソーシャルワーク・アドミニストレーション, ソーシャルワーク・アドミニストレーション<社会福祉運営>, ソーシャルワークアドミニストレーション…3 ソーシャルワーク教育協議会…3 ソーシャル・ワークの機能, ソーシャルワークの機能…3 ソーシャルワークの視点…3 ソーシャルワークの統合化…3 ソーシャル・ワークの目標, ソーシャルワークの目標…3 ソーシャルワークの理論, ソーシャルワークの倫理…3 第一次分野…3 対処…3 第二種社会福祉事業…3 代弁者…3 代弁的機能…3 ダウン症候群…3 ターナー症候群…3 他方優先, 他法優先…3 団体委任事務…3 地域医療…3 地域ケアシステム…3 地域社会, 地域社会資源…3 知的障害者更生相談所…3 知的障害者相談員…3 知的障害者相談支援事業…3	知的障害者通所援護事業…3 中央慈善協会…3 仲介…3 聴覚・言語障害者更生施設…3 「直接療法」, 直接療法…3 直面化…3 治療, 治療(セラピー)…3 治療グループ…3 通所介護…3 「抵抗」, 抵抗…3 てんかん…3 同一化…3 投影…3 統計調査法…3 統合…3 閉じられた質問…3 都道府県社会福祉協議会…3 ドミナント・ストーリー…3 トラウマ…3 内部障害者更生施設…3 ナラティブ・セラピー, ナラティブセラピー…3 難聴幼児通園施設…3 難病…3 「二重の関心」, 二重の関心…3 ニーズ・アセスメント, ニーズアセスメント…3 日常生活動作…3 ニッチ…3 ニード…3 日本国憲法13条, 日本国憲法第13条…3 日本精神保健福祉士協会…3 日本ソーシャルワーカー協会倫理綱領…3 入浴サービス…3 ニューディール政策…3 人間…3 人間観…3 人間・環境: 時間: 空間…3 人間尊重…3 人間の尊厳…3 脳血管性痴呆…3 脳性麻痺, 脳性マヒ…3 能力の総体…3 「ノーマライゼーションの思想」, ノーマライゼーションの思想…3 廃用症候群…3 バーキンソン病…3 バークレイレポート…3 パーソナリティ理論, パーソナリティ理論…3 発達検査…3 ハーバード方式…3 林訴訟…3 般化…3 パンクチュレーション…3 「反省的話し合い」, 反省的話し合い…3 判断…3 ハンディキャップ…3 反動形成…3 非審判的態度の原則…3 被侵害者…3 ヒューマニズム…3 病院…3 標準偏差…3 平等…3 貧困…3 不安障害…3 フェミニスト・アプローチ…3
--	--	---	---	--	---

フェミニスト・ソーシャルワーク、フェミニストソーシャルワーク…3 福祉機器…3 福祉サービス利用援助事業…3 福祉住環境コーディネーター…3 福祉年金…3 福祉マンパワー…3 福祉用具…3 父子家庭…3 不登校…3 プライバシーの権利…3 ふりかえり、振り返り…3 ふれあい・いきいきサロン…3 ふれあいいきいきサロン…3 プロフェッション…3 分化、文化…3 分離…3 閉鎖システム…3 「ヘルパーセラピー原則」、ヘルパー・セラピー原則、ヘルパーセラピー原則…3 偏見…3 弁護活動…3 変数…3 包括医療…3 訪問介護、訪問看護、訪問介護…3 訪問看護ステーション…3 「訪問面接」、訪問面接…3 保険者…3 保護受託者制度…3 保護の補足性、保護の補足制…3 母子健康手帳…3 母子福祉施設…3 母子福祉センター…3 母子保護法…3 補助人…3 ボランティアズム…3 マイノリティ、マイノリティ…3 マネジド・ケア、マネジドケア…3 慢性疾患…3 マンパワー…3 民間営利セクター…3 メゾ…3 メタファー…3 面接者…3 盲人ホーム…3 妄想…3 盲導犬訓練施設…3 目標達成スケール…3 モチベーション…3 物語理論、物語理論（ナラティブ・セラピー）…3 モノグラフ…3 問題解決過程…3 薬物依存…3 「遊戯療法」、遊戯療法…3 「ゆらぎ」、ゆらぎ…3 要介護高齢者…3 要保護児童…3 要約…3 4つの総体、4つの総体、4つの総体…3 「予定調和的原則」、予定調和的原則、予定調和的原則…3 予防…3 来談者中心療法…3 ライフ・コース、ライフコース…3 ライフストーリー…3 ライフヒストリー…3	力量…3 リフレミング…3 リフレーミング…3 療育の給付…3 療養の給付…3 療養補償給付…3 臨床診断…3 臨床的診断…3 隣友運動…3 レクリエーション…3 レクリエーション運動…3 レクリエーション療法…3 レクリエーション・ワーク、レクリエーション・ワーカー、レクリエーションワーカー…3 レクリエーションワーク…3 労災保険…3 老人医療費…3 老人休養ホーム…3 老人性痴呆疾患治療病棟…3 老人性痴呆疾患療養病棟…3 老人福祉指導主事…3 老人保健事業…3 労働者福祉…3 労働福祉事業…3 老齢年金…3 YMCA運動…3 ワーカーの自己覚知…3 ワークハウス・テスト法、ワークハウステスト法…3 12ステップ・グループ…2 IADL…2 IFSW…2 愛他主義…2 Acceptance…2 アジア・太平洋障害者の10年、アジア太平洋障害者の10年…2 圧迫…2 アディクション・アプローチ…2 アドボカシー（代弁・権利擁護）、権利擁護…2 アドボケイト…2 アドラー心理学…2 アームズ・ハウス…2 飴と鞭、アメとムチ…2 アメリカ・グループワーカー協会…2 アメリカ・グループワーク研究協会、アメリカグループワーク研究協会…2 アメリカ精神医学会診断統計マニュアル…2 アメリカ訪問教師協会…2 アルコホーリクス・アノニマス、アルコホリクス・アノニマス…2 アルコール依存…2 アルツハイマー型痴呆…2 いしかえ…2 医学的疾患モデル…2 生きがい…2 異議申立て、異議申立て…2 育児休業給付…2 意識化の原則…2 いじめ…2 委嘱ボランティア制度…2 「意思療法」、意志療法…2 移送費…2 遺族基礎年金…2 遺族補償給付…2 依存症…2 依存的状態…2	一時的保育…2 一時保護所…2 5つの巨人、5つの巨人…2 一般ソーシャルワーク…2 一般扶助主義…2 移動サービス…2 意図的介入の原則…2 意図的な感情の表出…2 イネープリング…2 いのちの電話…2 いのちの電話相談…2 医療給付・費…2 医療施設…2 医療社会事業従事者…2 医療受給者証…2 医療審議会…2 医療ソーシャルワーカー業務基準…2 医療ソーシャルワーカーの役割…2 医療ソーシャルワーカー倫理綱領…2 医療費…2 医療法…2 医療法人…2 インシデント・プロセス法…2 因子分析…2 陰性感情…2 インターセックス…2 インターベンション（介入）…2 Individualization…2 インテーク（受理面接）、インテーク（受理面接）…2 インテークの機能…2 インテークの目的…2 インナーシティ問題…2 インフォーマル・システム…2 インフォーマル・セクター、インフォーマルセクター…2 インフォーマルな支援システム、フォーマルな支援システム…2 インフォーマルなシステム…2 インプット…2 インプリンティング…2 インボランタリー・クライアント…2 ウェル・エイジング…2 ウェルニッケ失語症…2 ウェルビーイング…2 宇都宮病院事件…2 うつ病…2 うなぎ…2 運営管理…2 運営適正化委員会…2 A. A. の12ステップ…2 A. A. の12の伝統…2 ACSW…2 AIDS 孤児、エイズ孤児…2 HIV…2 エクソ・システム、エクソシステム…2 エコ・システム視座、エコシステム視座…2 エコ・システムの視座、エコシステムの視座…2 エコシステムモデル…2 エコシステム論…2 エコロジカル・モデル、エコロジカルモデル…2 「SHGモデル」…2 SDS…2 エスニシティ…2	エーデル改革…2 NPO（法）、NPO法…2 APDL…2 MRSA…2 エンカウンター運動…2 嚙下障害…2 援助活動の見直し…2 援助観…2 援助計画実施…2 援助媒体…2 援助者の役割…2 援助の焦点…2 援助の場所…2 援助団体…2 援助目標…2 延長保育…2 老い…2 応急入院…2 オーガニゼーション…2 岡山孤児院…2 OFF-JT、OFF-JT…2 親の会…2 オンブズマン制度…2 回帰分析…2 下位グループ…2 介護休業給付…2 介護給付…2 介護サービス計画…2 介護職員…2 「介護難民」、介護難民…2 介護の社会化…2 介護福祉、介護福祉士…2 介護保険給付…2 介護保険広域連合…2 介護保険サービス…2 介護保険不服申立…2 介護補償給付…2 開差は正…2 カイ2乗検定…2 階層…2 介入・援助サービス…2 開発的機能…2 開放性の原則…2 「快楽原則」、快楽原則…2 核家族化…2 格差縮小方式…2 学習…2 学習権…2 学生セツルメント運動…2 家政サービス…2 仮説…2 家族ケース・ワーカー、家族ケースワーカー…2 家族図…2 家族制度…2 家族ソーシャルワーカー…2 家族手当…2 家族力学…2 「課題達成尺度」、課題達成尺度…2 カーチス委員会報告…2 学校ソーシャルワーカー…2 学校福祉…2 葛藤解決…2 活動段階…2 家庭裁判所調査官…2 家庭裁判所調停委員会…2 家庭児童福祉主事…2 家庭内暴力…2 家庭養護促進協会…2 家父長制…2 寡婦福祉資金…2 カリタス…2 過労死110番…2 感化院…2 感化事業…2 感化法…2 環境介入…2	環境モデル…2 関係性…2 監護、看護…2 看護士、看護師…2 感受性…2 感情の反映…2 感情の明確化…2 感情の目的々表現、感情の目的表現…2 間接的介入…2 間接的サービス…2 完全寛解…2 完全雇用…2 完全失業者…2 感染症（伝染病）…2 関与しながらの観察…2 記憶…2 機会の均等化…2 機関…2 企業福祉…2 義肢装具士法…2 基準及び工程の原則…2 羈束行為…2 「機能主義的ケースワーク」、機能主義的ケースワーク…2 機能主義モデル…2 機能派…2 機能派アプローチ…2 基本計画…2 基本構想…2 記録…2 ギャング・エイジ、ギャングエイジ…2 救護法実施促進運動…2 「救済協会」、救済協会…2 求職者給付…2 救助法…2 急迫保護…2 給付水準…2 教育機能…2 教育福祉…2 共助…2 共生、矯正…2 行政機関の保有する情報の公開に関する法律…2 行政システム…2 競争原理…2 共同作業所…2 協働面接、協同面接…2 強度行動障害…2 強迫反応…2 恐怖反応…2 虚弱高齢者…2 居宅介護支援…2 居宅介護の措置…2 居宅サービス…2 居宅サービス計画…2 居宅生活支援事業…2 キリスト教青年会…2 ギルバート法…2 筋萎縮性側索硬化症…2 筋ジストロフィー…2 禁治産者…2 近隣地区援助者法…2 草の根活動…2 苦情解決…2 苦情解決制度…2 「苦情処理」制度、苦情処理制度…2 Client self-determination…2 クライアント中心の視点…2 クライアントの個別性の尊重…2 クライアントの「自己実現」、クライアントの自己実現…2 クライアントの受容…2 クライアントの秘密保持…2	…2 クライアントの利益の優先…2 クライアントを一時的に非難しない態度…2 クライアントを受け止める…2 グラスルーツ運動…2 クリティカル・パス…2 グループ記録…2 グループ・アプローチ、グループアプローチ…2 グループ規範…2 グループ記録…2 グループの規範…2 グループの凝集性…2 グループワーク実践モデル…2 グループ・ワークの援助媒体、グループワークの援助媒体…2 グループワークの定義…2 クロス集計…2 訓練…2 ケアアセスメント…2 Care in the Community…2 ケアつき住宅、ケア付き住宅…2 Care by the Community…2 ケアプランニング…2 ケアマネジメントの概念…2 ケアマネジメントの構成要素…2 ケアマネジメントの定義…2 ケアマネジメントのプロセス…2 計画…2 計画化…2 経験…2 継続評価…2 傾聴面接…2 系統抽出法…2 契約段階…2 敬老の日…2 KJ法…2 ゲシュタルト理論…2 ケース…2 ケース会議…2 ケースマネージメントアプローチ…2 ケースマネージャー…2 ケースワーク課程、ケースワーク過程…2 ケースワーク実践モデル…2 ケースワーク処置…2 「ケースワーク」という言葉…2 ケースワークの援助過程…2 「ケースワークの母」、ケースワークの母…2 ケースワーク理論…2 結果評価…2 欠損治癒…2 血友病…2 ゲーム…2 現員給給制…2 限界集団、限界集団（マージナル・グループ）…2 幻覚…2 健康教育…2 現実吟味…2 「現実原則」、現実原則…2 現地調査…2 幻聴…2 原爆医療…2 憲法第25条、憲法第25
--	--	--	---	--	---

条…2	コミュニケーション技法…2	自我機能…2	社会改良運動…2	社会連帯…2	処遇機能…2
権利性…2	…2	資格…2	社会環境…2	「社会連帯の思想」、社会	処遇グループ…2
権利擁護システム…2	コミュニケーション派…2	「自覚しない逆転移」…2	社会関係地図…2	連帯の思想…2	職業的リハビリテーション…2
コイルの定義…2	コミュニティ・オーガナイザー、コミュニティオーガナイザー…2	視覚障害…2	社会権…2	自由回答法…2	職業評価…2
広域障害者職業センター…2	コミュニティ・オーガニゼーション理論…2	視覚障害者、視覚障害者更生施設…2	社会構築主義…2	終結期…2	職業倫理…2
広域連合…2	コミュニケーション改革…2	視覚障害者更生施設、視覚障害者更生施設…2	社会参加…2	自由権…2	褥瘡…2
高額介護サービス費…2	コミュニティケア法…2	自記式調査法…2	社会事業調査会…2	従属変数…2	食中毒…2
高額療養費給付制度…2	コミュニティケア法…2	事業型社会福祉協議会…2	社会システム論…2	集団圧力…2	食品衛生法…2
公共職業安定所（ハローワーク）…2	コミュニティ・プラン…2	市区町村社会福祉協議会…2	社会生活ニーズ…2	集団過程…2	叙述体記録…2
合計特殊出生率…2	コミュニティ・プランニング…2	…2	社会的アイデンティティ…2	集団面接…2	女性福祉…2
公私分離の原則…2	…2	慈恵…2	社会的学習モデル…2	集団力学…2	ショック療法…2
公衆衛生審議会…2	コミュニティ・リーダー…2	自己一致…2	社会的環境…2	重度心身障害者手当…2	所得の再分配…2
構成主義…2	…2	自己決定、自己決定能力…2	「社会的関心」、社会的関心…2	重度身体障害者更生支援施設…2	自立援助ホーム…2
抗精神病薬…2	コミュニティワークの過程…2	自己効力…2	社会的サービス…2	重度身体障害者授産施設…2	自立生活…2
厚生年金基金…2	…2	自己志向、自己指向…2	社会的支援ネットワーク…2	「10のP」、10のP…2	自立（律）性尊重の原則…2
厚生年金保険…2	ゴメディカルスタッフ…2	自己実現サービス論…2	…2	住民参加…2	資力調査…2
更生保護…2	ゴール…2	自己心理学…2	社会的時間…2	住民参加型福祉サービス…2	知る権利…2
厚生労働省…2	ゴールとターゲット…2	自己評価…2	社会的自立…2	…2	シルバーハウジング…2
構造化…2	根拠に基づく医療…2	視座、視座（パースペクティブ）…2	社会的自律性…2	住民参加、住民参加計画…2	「事例」…2
構造的アプローチ…2	コンサルティ、コンサルティ…2	自殺企図…2	社会的相互作用…2	住民自治…2	事例研究会、事例研究法、事例研究法（ケーススタディ）…2
「構造なき面接」…2	Controlled emotional involvement…2	自傷行為…2	社会的ネットワーク…2	手段的価値…2	…2
構築主義…2	コンピュータ・ネットワーク…2	「自助」原則、自助原則…2	社会的養護…2	出産給付…2	事例的方法…2
交通バリアフリー法…2	Confidentiality…2	自助（セルフ・ヘルプ）、自助（セルフヘルプ）…2	社会統合…2	出生率…2	心因性障害…2
公的資源システム…2	コンフリクト…2	支持療法…2	社会病理（学）、社会病理学…2	ジュネーブ宣言…2	「人格」、人格…2
公的福祉セクター…2	コンフリクト（社会学）…2	システム指向モデル…2	社会福祉运营管理（ソーシャル・アドミニストレーション）…2	受容、受容の原理…2	人格検査…2
行動科学…2	コンフリクト（心理学）…2	施設ケア…2	社会福祉运营管理（ソーシャル・アドミニストレーション）…2	手話通訳事業…2	シングルマザー…2
合同家族療法…2	…2	施設最低基準…2	社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）…2	障害児（者）短期入所事業…2	神経症性障害…2
行動観察…2	コンフリクト（心理学）…2	施設サービス…2	社会福祉援助の機能…2	障害児（者）地域療育等支援事業…2	人種差別…2
行動主義心理学…2	コンフリクト・マネージメント、コンフリクト・マネジメント…2	施設収容主義…2	社会福祉援助の専門性…2	障害児相談支援事業…2	心身医学…2
行動的家族療法…2	根本的価値…2	慈善・博愛事業、慈善博愛事業…2	社会福祉学…2	障害児・知的障害者ホームヘルプサービス事業…2	心身障害者福祉協会…2
行動分析…2	再機能化…2	肢体不自由…2	社会福祉管理…2	…2	心神喪失者、心身喪失者…2
行動変容…2	再審査請求…2	肢体不自由者更生施設…2	「社会福祉基礎構造改革について（中間まとめ）」、社会福祉基礎構造改革について（中間まとめ）…2	障害者インターナショナル…2	新生活保護法…2
合同面接、合同面接…2	済生顧問制度、再生顧問制度…2	市町村特別給付…2	社会福祉サービス提供の原則…2	障害者運動…2	深層心理…2
行動療法学派…2	济世顧問制度…2	市町村保健センター…2	社会福祉サービスの基本理念…2	障害者更生センター…2	親族…2
高度先進医療…2	在宅医療・療養…2	失業者保険…2	社会福祉士および介護福祉士法、社会福祉士及び介護福祉士法…2	障害者のサービスのサービス共通評価基準…2	身体言語…2
高福祉・高負担…2	在宅ケアサービス…2	失業率…2	社会福祉施設運営管理…2	障害者社会参加促進事業…2	身体障害者…2
公平性…2	在宅重度障害者通所支援事業…2	失見当識…2	「社会福祉施設緊急整備5ヵ年計画」、社会福祉施設緊急整備5ヵ年計画…2	…2	身体障害者短期入所事業…2
公民館…2	再評価…2	実証研究…2	社会福祉士主任任用資格…2	障害者に関する世界行動計画…2	身体障害者デイサービス事業…2
功利主義…2	最頻値…2	実践アプローチ…2	社会福祉の概念…2	「障害者の明るいくらし」促進事業、障害者の明るいくらし促進事業…2	身体障害者福祉審議会…2
高齢化社会…2	催眠、細民…2	実践職場…2	社会福祉の価値…2	障害者の雇用の促進等に関する法律…2	「身体障害者福祉モデル都市事業」、身体障害者福祉モデル都市事業…2
高齢化率…2	催眠術…2	実践理論…2	社会福祉の固有性…2	障害者が高齢者にやさしいまちづくり推進事業…2	身体的虐待…2
高齢者…2	作業期…2	実態調査…2	社会福祉の主体…2	障害手当金…2	診断主義学派…2
高齢社会対策基本法…2	作話…2	質的調査…2	社会福祉の専門性…2	障害認定日…2	「診断主義的ケースワーク」、診断主義的ケースワーク…2
高齢者事業団…2	サッチャーリズム、サッチャリズム…2	質問紙、質問紙法…2	社会福祉の方法・技術…2	…2	…2
高齢者世帯…2	里親委託、児童福祉施設入所措置…2	質問紙法（自計式）・面接調査法（他計式）…2	社会福祉のマンパワー…2	小規模通所授産施設…2	診断派…2
高齢者保健福祉推進十ヵ年戦略…2	サービス情報…2	指定病院…2	社会福祉方法論…2	小規模特別養護老人ホーム…2	心的決定論…2
国際アムネスティ…2	サービスの開発…2	指導監査…2	社会福祉方法論の統合化…2	条件付け、条件づけ…2	親密…2
国際社会福祉…2	サブゴール…2	児童虐待防止法…2	…2	少年、正念…2	信頼…2
国際社会福祉協議会…2	サブシステム…2	児童居宅生活支援事業…2	社会福祉六法…2	少年指導員…2	信頼性…2
『国際障害者年行動計画』、国際障害者年行動計画…2	サポートシステム…2	児童厚生員…2	社会不適応…2	少年の定義…2	心理検査…2
国際人権規約…2	参加的アクション・リサーチ、参加的アクションリサーチ…2	児童自立生活援助事業…2	社会変革機能…2	消費者物価指数…2	心理・社会アプローチ、心理・社会的アプローチ…2
国際赤十字…2	三科目主事…2	児童生活支援員…2	社会保険及び関連サービス…2	消費生活協同組合…2	…2
国際福祉…2	産業ソーシャルワーク…2	児童相談所…2	社会保険制度…2	傷病補償年金…2	心理社会的診断…2
国際婦人年…2	残存機能…2	児童福祉施設入所措置…2	社会保険制度…2	情報公開条例…2	心理社会的理論…2
国勢調査…2	参与観察…2	児童福祉審議会…2	社会福祉方法論…2	情報交換…2	診療報酬…2
国民皆保険…2	参与的観察法…2	児童福祉法改正…2	社会福祉方法論の統合化…2	情報の共有化…2	心理療法—精神療法…2
国民健康保険…2	CSS、CSS（福祉サービス士）…2	児童保護事業…2	…2	情報の収集…2	水準均衡方式…2
国民健康保険法…2	CSWE…2	児童遊園…2	社会福祉六法…2	常務理事・所長…2	推定…2
国民生活基礎調査…2	ジェネリック・ソーシャルワーク実践モデル…2	児童労働…2	社会不適応…2	初回面接…2	スキーマ…2
国民年金…2	ジェのグラム…2	シニア住宅…2	社会変革機能…2	…2	スクリーニング・テスト、スクリーニングテスト…2
国民年金法…2	支援科学…2	「自発性・自主性」、自発性・自主性…2	社会保険及び関連サービス…2	…2	スケープゴート…2
国民扶助法…2	支援計画記録…2	CP…2	社会保険制度…2	…2	スケール…2
国民保健サービス法…2	COS 運動…2	シームレス委員会報告…2	社会保険制度…2	…2	
個人開業…2	四箇院…2	シミュレーション…2	社会保障制度に関する勸告…2	…2	
個人記録…2		市民アドボカシー…2	社会保障法（アメリカ）…2	…2	
コース・アドボカシー…2		市民権…2	社会有機体説…2	…2	
コーディング…2		社会意識…2	「社会療法」、社会療法…2	…2	
古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）、古典的条件づけ（respondent条件付け）…2		社会改革…2	…2	…2	
個別援助技術の過程…2		「社会改革の時代」、社会改革の時代…2	…2	…2	
個別化原則…2		社会開発…2	…2	…2	
個別課題計画…2			…2	…2	
個別スーパービジョン…2			…2	…2	
個別性…2			…2	…2	
個別面接調査法…2			…2	…2	

スタディ…2	前期高齢人口…2	訴訟…2	(ショートステイ) …2	二重拘束理論…2	BBS…2
ステレオタイプ…2	全国社会福祉協議会…2	措置委託…2	知的障害者地域生活援助事業 (グループホーム) …2	ニーズ実感の技術…2	被扶養者…2
ストレス管理…2	全国水平社…2	措置・決定、措置決定…2	知的障害者デイサービス事業…2	ニーズ推計…2	ピープル・ファースト…2
スーパービジョンの内容…2	全国精神障害者家族会連合会…2	措置・措置制度…2	知的障害者の権利宣言…2	ニーズ把握…2	被面接者…2
スペシフィック・ケースワーク…2	潜在的ニーズ…2	措置入院制度…2	知的障害者の権利宣言…2	日本介護福祉士会…2	ヒューマニズムのモデル…2
スペシャリスト…2	染色体異常、染色体異常…2	ソフト福祉…2	知的障害者福祉…2	日本型社会福祉論…2	ヒューマン・ニーズの階層…2
性格…2	染色体異常、染色体異常…2	尊厳…2	知的障害程度区分…2	日本国憲法第 25 条…2	ヒューマン・ネットワーク…2
性格検査…2	戦闘神経症…2	退院計画…2	知能障害…2	日本社会福祉学会…2	病院社会事業…2
生活概念…2	ダイオキシシン…2	大家族…2	知能指数…2	日本精神医学ソーシャルワーカー協会…2	病院精神医療…2
生活課題…2	全日本手をつなぐ育成会…2	対決…2	地方自治体社会サービス法…2	入所施設…2	評価的機能…2
生活技術、生活技能…2	全日本ろうあ連盟…2	体験…2	地方精神保健福祉審議会…2	ニューヨーク博愛学校…2	費用・効果分析…2
生活困窮者緊急生活支援要綱…2	「全米家族福祉協会」、全米家族福祉協会…2	体験学習法…2	痴呆性老人…2	「人間疎外」、人間疎外…2	費用対効果…2
生活システム…2	全米社会事業会議…2	対象関係理論…2	痴呆対応型共同生活介護、地方対応型共同生活介護…2	人間の基本的欲求…2	病理モデル…2
生活指導…2	全米ソーシャルワーカー協会 (NASW)、全米ソーシャルワーカー協会 (NASW) …2	退職者医療制度…2	地方分権化…2	認知…2	貧困線…2
生活推移…2	専務理事…2	対人援助…2	チームケア…2	ネイバーフッド・ギルド…2	「貧困の再発見」、貧困の再発見…2
生活ストレス…2	専門技術…2	対人関係…2	チームスーパービジョン…2	ネグレクト…2	貧困の女性化…2
生活ニーズ…2	専門社会事業…2	対人サービス…2	治療…2	寝たきり…2	貧困の罫…2
生活の継続性…2	専門性…2	「第二次的動機」、第二次的動機…2	注意欠陥多動性障害…2	寝たきり老人…2	ファミリー・サポート・センター…2
生活の自己決定…2	専門ソーシャルワーカー…2	代弁機能…2	中央児童福祉審議会…2	ネットワーク・アブローチ…2	不安反応…2
生活全体性…2	専門的援助関係、専門的援助技術関係…2	滝乃川学園…2	中央社会事業協会…2	ネットワークアブローチ…2	フィールドワーク…2
生活福祉資金…2	層化抽出法…2	ターゲット…2	中央値…2	年金…2	夫婦家族…2
生活扶助義務…2	相互援助グループ…2	ターゲティング…2	仲介機能…2	年金制度…2	フェミニスト・ソーシャルワーク実践…2
生活保護制度…2	相互援助ネットワーク法…2	多変量解析…2	中間施設…2	脳死…2	フェミニズム理論…2
生活リハビリ…2	相互援助ネットワーク法…2	ターミナル・ステージ、ターミナルステージ…2	聴覚障害…2	能力…2	フォーカシング…2
政策…2	相互援助ネットワーク法…2	短期処遇…2	調査票…2	ノーマライゼーション思想…2	フォーマル・サポート・ネットワーク…2
政策提携者…2	相対的剥奪…2	断酒会…2	調整…2	ノーマライゼーションの原則、ノーマライゼーションの原理…2	フォーマル・システム…2
生産年齢人口…2	相談員…2	単純集計…2	調整的機能…2	nonjudgemental attitude…2	フォーマル組織…2
青少年指導員…2	相談機関…2	単純無作為抽出法…2	重複障害…2	「場」、場…2	フォーマルなシステム…2
精神医療審査会…2	送致…2	地域援助…2	直接的介入…2	徘徊…2	フォローアップ…2
精神障害者ケアマネジメント…2	送致的機能…2	地域援助技術の展開過程…2	直接的サービス…2	媒介者…2	賦課方式…2
精神障害者授産施設…2	屠別抽出法…2	地域活性化法…2	治療関係…2	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律…2	複合家族…2
精神障害者授産施設 (通所・入所) …2	側面的援助…2	地域ケア会議…2	治療機能…2	バイステックの 7 つの原則、バイステックの七つの原則…2	福祉オンブズマン…2
精神障害者生活訓練施設 (支援寮) …2	組織…2	地域計画…2	追跡調査…2	バイタル・サイン、バイタルサイン…2	福祉活動指導員…2
精神障害者福祉…2	組織機能…2	地域障害者職業センター…2	通所リハビリテーション…2	配慮調査法…2	福祉元年…2
精神障害者ホームヘルプサービス事業…2	ソーシャル・ウェルフェア・ブランニング、ソーシャルウェルフェア・ブランニング…2	地域生活再開プログラム…2	DSM-Ⅲ-R、DSM-Ⅲ-R…2	バウム・テスト…2	福祉 QC…2
精神薄弱…2	ソーシャルサポートシステム…2	地域政策…2	デイケア…2	発達保障…2	福祉推進運動…2
成人病…2	ソーシャル・サポート・ネットワーク・アプローチ、ソーシャルサポートネットワークアプローチ…2	地域精神医療…2	デイサービスセンター…2	発達モデル…2	福祉工場…2
精神病院法…2	ソーシャル・セトルメント運動…2	地域組織化説…2	転移・逆転移…2	パッチシステム…2	福祉国家の危機…2
精神障害者監護法…2	ソーシャル・セラピー…2	地域の福祉力…2	転換反応…2	ハード福祉…2	「福祉コミュニティ」づくり、福祉コミュニティづくり…2
精神分析療法…2	ソーシャルワーカー資格…2	地域福祉、地域福祉活動…2	伝統的ソーシャルワーク…2	PERT 法、パート法…2	福祉サービスの質…2
生存権保障…2	ソーシャル・ワーカーの専門性…2	地域福祉基金…2	電話調査法…2	パニック障害…2	福祉 3 法、福祉三法…2
生態学モデル…2	ソーシャルワークの役割…2	地域福祉教育…2	等間隔抽出法…2	Purposeful expression of feelings…2	福祉指標…2
生態学理論…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉システム…2	統御された情緒的関与、統制された情緒的関与…2	ハビタット…2	福祉人材確保法…2
生態システム論的視点…2	ソーシャルワーク教育委員会 (CSWE) …2	地域福祉施設…2	統計的方法…2	ハビリテーション…2	福祉組織化活動…2
生態地図…2	ソーシャルワーク記録…2	地域福祉政策…2	統合化…2	発達保障…2	福祉タクシ…2
性的虐待…2	ソーシャルワーク実践理論…2	地域福祉調査…2	統合ソーシャル・ワーク…2	発達モデル…2	福祉地区…2
性同一性障害…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	統合理論…2	パッチシステム…2	福祉でんわ…2
性役割…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	洞察技法…2	ハード福祉…2	福祉の混合経済…2
聖路加国際病院…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	当事者団体…2	PERT 法、パート法…2	福祉の情報化…2
世界児童憲章…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	投射…2	パニック障害…2	福祉バス…2
世界保健機関…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	統制された情緒的関与の原則、統制された情緒的関与の原則…2	Purposeful expression of feelings…2	福祉ボランティアのまちづくり事業…2
世界保健機関 (WHO) …2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	「道徳主義の時代」、道徳主義の時代…2	ハビタット…2	福祉マッピング…2
セクシャルハラスメント…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	特定非営利活動促進法…2	ハビリテーション…2	福祉見直し論…2
接触…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	独立変数…2	バラダイム…2	福祉モデル…2
接触段階…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	閉じこもり症候群…2	パラノイア…2	福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律…2
絶対的貧困…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	都市問題…2	パワーインバランス…2	福祉レクリエーション…2
説明体記録…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	トラッキング…2	バーンアウト・シンドローム…2	福利厚生センター…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	「内的資源」、内的資源…2	犯罪被害者給付制度…2	父子家庭居宅介護等事業…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	内的世界…2	反射…2	父子家庭等支援事業…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	内部障害…2	ハンセン氏病…2	双葉保育園、二葉保育園…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	七つの原則…2	反応…2	物理的環境…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	ナラティブ・モデル…2	非言語的なコミュニケーション…2	不適応…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	ナラティブ・モデル、ナラティブ・モデル…2	非参与観察法…2	ふとん乾燥サービス…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	難聴…2	「人と状況の全体関連性」、人と状況の全体関連性…2	不平等…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2	21 世紀福祉ビジョン、21 世紀福祉ビジョン…2	ひとり暮らし老人…2	不服審査機関…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2		ビネー式知能検査…2	普遍性…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2		ビネット…2	扶養家族…2
セルフヘルプ活動…2	ソーシャルワーク倫理…2	地域福祉施設…2			扶養義務…2

ブラグマティズム…2	堀木訴訟…2	要介護者…2	レイン報告書…2	IL0102 号（社会保障最低基準）条約	アセスメントの流れ
フリースクール…2	ホーロン, ホロン…2	要介護認定の基準…2	レーガノミクス, レーガノミックス…2	IL0103 号（母性保護）条約	アセスメントの目的
ブリテスト…2	埋葬料…2	養護…2	レジデンシャル・ソーシヤルワーク…2	IL0121 号（業務災害給付）条約	アセスメント票
ブレン・ストーミング, ブレン・ストーミング…2	マイノリティ・グループ…2	養護委託…2	レスパイトサービス…2	IL0128 号（廃疾・高齢・遺族給付）条約	アセスメント方式
プログラム開発, 資源開発…2	牧野訴訟…2	養護学校…2	連携機能…2	IL0130 号（医療・傷病給付）条約	アセスメント面接
プログラム評価…2	マクロ・システム, マクロシステム…2	要支援高齢者…2	連絡…2	IL0159 号（障害者の職業リハビリテーション及び雇用）条約	アセスメントレベルの決定
プログラム・メディア…2	マクロ実践…2	要支援認定, 要支援認定（介護保険）…2	連絡・調整活動, 連絡調整活動…2	ILO（国際労働機関）ILO フィラデルフィア会議	アセスメントワーカー
プロセス…2	マクロ・プラクティス…2	幼保一元化…2	ロイヤルフリー病院, ロイヤル・フリー・ホスピタル…2	アイコンタクト	アジアシオン
プロフェッショナルリズム…2	末期患者…2	要保護児童発見者の通告義務…2	労役場, 労役場（ワークハウス）…2	ICIDH	あそび場
プロベーション…2	慢性関節リウマチ…2	要保護者…2	老後不安…2	ICIDH-2	温かい心とさめた頭
分散…2	「慢性的依存」, 慢性的依存…2	要保護世帯…2	老後保障…2	ICSC（ソーシャルケア従事者コース）	暖かさの表現
併行関係…2	ミクロ・システム, ミクロシステム…2	要約体記録…2	労災補償給付…2	ICSW	アテンション群
併行面接, 並行面接…2	ミクロ実践…2	養老院…2	老人医療費の無料化…2	ICF	「アドヴォカシー」と呼ばれる活動
ベビーシッター…2	ミクロ・レベル…2	養老事業…2	老人介護支援センター…2	ICD	アートセラピー
ベビーホテル…2	3つのR, 三つのR…2	抑うつ気分…2	老人介護支援センター…2	ICD-10	アドバース
変革者（イノベーター）…2	見守り活動…2	抑うつ状態…2	老人虐待…2	愛情原則	アドボカシー・アブローチ
変化の可能性…2	身元引受人…2	抑うつ反応…2	老人虐待…2	愛他主義（社会的責任）	アドボカシー活動
弁証法…2	ミラノ派…2	欲求不満…2	老人日常生活支援事業…2	愛着行動	アドボカシー機能
保育所入所基準…2	ミルフォード会議報告書…2	欲求不満耐性…2	老人短期入所事業…2	愛着理論	アドボカシーの段階
保育所保育指針…2	民営化…2	予備調査…2	老人デイサービスセンター…2	ID 番号	アドボケイター
保育ニーズ…2	民間委託…2	予備的接触…2	老人日常生活用具等給付事業…2	ITPA 言語学習能力診断検査	アドボケイト・プランニング
ボイスカウト…2	民間活力…2	予防的社会福祉…2	老人福祉計画…2	アイバンク	アドボケーター
防衛…2	民間福祉セクター…2	ライシャワー事件…2	老人福祉施設の最低基準…2	IP	アドボケート
防衛機能…2	「民主社会の思想」, 民主社会の思想…2	ライフイベント, ライフイベント…2	老親扶養…2	I（アイ）メッセージ	アドミニストレーター
放課後児童健全育成事業…2	民主主義…2	ライフサポート・アドバイザー…2	老人ホーム…2	IUCW	アドミストラー
奉仕…2	ミンズ・テスト, ミンズ・テスト（資力調査）…2	ライフスタイル…2	老人ホームの設備・運営基準…2	アヴェロンの野生児	アダプティブ・アクション
放置主義, 法治主義…2	民生委員制度…2	ライブ・スーパービジョン, ライブスーパービジョン…2	労働者年金保険法…2	アウトカム	アフターコーディング
法的アドボカシー…2	無条件刺激…2	ライプ・スーパービジョン…2	老年学…2	アウトカム評価	アブラハム・マズローの欲求階梯説
方面委員…2	無条件の肯定的配慮…2	ライブ・スーパービジョン…2	老年人口…2	アウトプット	アプリケーション
方面委員令…2	無力化…2	ライプ・スーパービジョン…2	老老介護…2	アウトプット評価	アブレ手当
方面委員制度…2	メゾ・システム, メゾシステム…2	理解…2	ローリング方式…2	アウトリーチ評価	アブローチ群の共通性
訪問教育…2	メゾ・マクロ・メソッド…2	理学療法…2	ロールシャッハ・テスト, ロールシャッハテスト…2	アカデミック	アブローチ多様化の意義
訪問教師…2	面接室…2	理学療法士及び作業療法士法…2	「ロンドン慈善組織協会」, ロンドン慈善組織協会…2	アガベ	アブローチモデル
訪問指導…2	面接の方法…2	理学療法士（PT）…2	ワーカーの職責…2	アガベ	アポイント
訪問調査…2	面接法…2	力動診断, 力動的診断…2	ワーカーの役割…2	アガベ	アブローチ群の共通性
訪問リハビリテーション…2	メンタル・フレンド, メンタルフレンド…2	離婚…2	ワークシェアリング…2	アガベ	アブローチ多様化の意義
保険給付…2	メンバーの相互作用…2	リスク・アセスメント, リスクアセスメント…2	ワークショップ…2	アガベ	アブローチモデル
保健師助産師看護師法…2	盲導犬…2	リーチング・アウト…2	ワグナー報告, ワグナー報告…2	アガベ	アブローチモデル
保健指導…2	『もう1つのアメリカ』, もうひとつのアメリカ…2	リード…2	割当…2	アガベ	アブローチモデル
保健福祉…2	盲ろう者（児）…2	リハーサル…2	「われわれである」という感覚…2	アガベ	アブローチモデル
保健福祉事業…2	燃えつき…2	リハビリテーション医学…2	57 ショック	アガベ	アブローチモデル
保健婦・保健士, 保健婦／保健士…2	目標…2	リハビリテーション・ソーシャルワーク…2	10のP	アガベ	アブローチモデル
保険料…2	「目標達成尺度」, 目標達成尺度…2	リハビリテーション病院…2	123 号通知	アガベ	アブローチモデル
保護機能…2	モデル・コミュニティ…2	リハビリテーション法…2	12 ステップ・グループの中心的な活動	アガベ	アブローチモデル
保護雇用…2	モーター…2	リフォームヘルパー制度…2	十五歳以上の知的障害児童についての措置の特例	アガベ	アブローチモデル
保護者・親権者・監護者…2	「物語モデル」, 物語モデル…2	療育…2	1WAY2WAY（一方通行二方通行）	アガベ	アブローチモデル
保護的機能…2	モトリアム…2	利用契約…2	3K 労働	アガベ	アブローチモデル
保護の開始・廃止…2	問題解決能力…2	利用者指向モデル…2	3 歳児神話	アガベ	アブローチモデル
保護の要件…2	「問題解決の過程」, 問題解決の過程…2	「利用者志向モデル」のケースマネジメント…2	3 大死因	アガベ	アブローチモデル
保佐人…2	問題発見…2	利用者主体…2	3 大生活習慣病	アガベ	アブローチモデル
母子家庭…2	薬物療法…2	利用者中心主義…2	3 割自治	アガベ	アブローチモデル
母子家庭居宅介護等事業…2	役割期待…2	利用者負担…2	4 大公害訴訟	アガベ	アブローチモデル
母子健康センター…2	薬価基準…2	量的調査…2	4 つのP	アガベ	アブローチモデル
母子指導員…2	友愛組合…2	療養費…2	4 つのシステム	アガベ	アブローチモデル
母子福祉資金…2	有意抽出法…2	療養病床…2	4 つのシステムの相互交渉	アガベ	アブローチモデル
母子保健…2	優生保護法…2	リンケージ…2	5 分位階層（階級）	アガベ	アブローチモデル
母子保健計画…2	郵送調査法…2	臨床ケースワーク…2	6 つの価値	アガベ	アブローチモデル
母集団…2	unitary approach, ユニタリー・アプローチ…2	臨床心理学…2	愛育会	アガベ	アブローチモデル
補助…2	ユニットケア…2	臨床ソーシャルワークのアプローチ…2	IEP	アガベ	アブローチモデル
ポスト・モダニズム, ポスト・モダニズム…2	ゆりかごから墓場まで…2	臨床ソーシャルワークのアプローチ…2	IASSW	アガベ	アブローチモデル
補装具…2	養育医療…2	倫理上のジレンマ, 倫理上のディレンマ…2	ISSA	アガベ	アブローチモデル
補装具製作施設…2	養育家庭制度, 養育家庭制度（東京都）…2	倫理性…2	IADL（日常生活手段活用能力）	アガベ	アブローチモデル
母体保護法…2			IL 運動（自立生活運動）	アガベ	アブローチモデル
母体メカニクス…2				アガベ	アブローチモデル
ボランティア・アクション…2				アガベ	アブローチモデル
ボランティアアドバイザー…2				アガベ	アブローチモデル
ボランティア学習…2				アガベ	アブローチモデル
ボランティア連結法…2				アガベ	アブローチモデル
ボランティア事業…2				アガベ	アブローチモデル

アルコール・アノニマス	意思決定アプローチ	医道審議会	定義	本	運営・管理情報
アルコール依存・アルコール依存症	意志主張の困難性	移動用リフト	医療ソーシャルワークの必要性	インターベンションの戦略	運営管理推進技術
アルコール依存症者の自己像	意思疎通	糸賀一雄	医療ソーシャルワーク分野	インターベンションの目標	運営管理モデル
アルバイター	意思伝達能力	意図的な介入	医療提供の理念	インターベンションの目標設定	運営適正委員会
アルマ・アタ宣言	意思能力	意図的な感情表出	医療の営利化	インターベンションの枠組み	運動療法
アロー図	医師の裁量権	意図的なワーカー・グループ関係の原理	医療の効率化	インターベンションの枠組み	運動家としての役割
An Uncharted Journey	医師の卒後臨床研修	意図的な変転	医療の質	インターベンションの枠組み	運動主体
「安易なヒューマニズム」	医師法	イナクト（演ずる）	医療費の地域格差問題	インタラクティブ	運動体社協
アンケート収れん法	棄児養育米給与方	委任	医療費の非営利原則	インテーク	運動発達
アンケート法	異食	委任されたクライアント	医療費拠出金	インテーク（受付面接）	運命共同体
安全衛生基準	医制	委任されたクライアント	医療費控除	インテーク（事前評価）	A
「安全空間」	移送（制度）	イネイプラー	医療費適正化対策	インテーク（導入）	エアーマット
安全な場	移送に関するガイドライン	イネープリング役割	医療福祉学	インテークの概要	AA
安全の欲求	遺族厚生年金	イネーター	「医療福祉教育のありかた」報告	インテークの目的と機能	AA の特質
安定化	遺族年金	EPS	医療福祉サービス	インテークワーカーの機能	AA のメンバーにとつてのミーティング
安否確認システム	依存	EBM	医療・福祉・産業複合体	インドネシアの地域福祉	AA 断酒会
アンビバレンスの概念	依存状態	異分野提携アプローチ	医療福祉司	院内感染	AFDC
アンビバレント患者	依存的自立	いまーここ	医療福祉事業	院内救済	ALS
アンペイド・ワーク	依存的ニーズ	今、ここで（here and now）	医療・福祉システム	インナーシティ	ALMACA
電法	「依存と支配」の関係様式	意味記憶	医療福祉のアプローチ	インフォーマル	A 型軽費老人ホーム
あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律	イタイイタイ病	意味づけ	医療福祉の生活問題上のニーズ	インフォーマル・サービス	英国ソーシャルワーカー
安眠援助	委託一時保護	「意味の世界」に住む人間	医療扶助審議会	インフォーマルサポート	協会の倫理綱領
暗黙知	居宅介護支援	意味の喪失	医療扶助単給	インフォーマル・セクター（非公式部門）	英国病
暗黙のルール	委託過程	意味の反映	医療法改正	インフォーマルとフォーマルな社会資源の関係	ACSW（認定ソーシャルワーカー）
安楽	居宅サービス計画書	医薬品副作用被害救済制度	医療保険サービス	インフォーマルなサポート	ACOA
安楽死	様式及び記入要領	医薬分業	医療保険の一元化	インフォーマルなサポート	ACOD
ERS	一元的システム	いやり	医療保険福祉審議会	インフォーマルなサポート・ネットワーク	永住外国人
EE	一元的・全般的アプローチ	意欲	医療保護事業	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エイズ（後天性免疫不全症候群）
EEG	一次的自我機能	意欲喪失	医療保護入院の告知義務	インフォーマルなサポート・ネットワーク	AIDS ホスピス
家木人テスト	一次的情報	依頼	医療保護法	インフォーマルなサポート・ネットワーク	衛生監視員
イエズス会	一時避難	医療改革	医療保障制度	インフォーマルなサポート・ネットワーク	hiv／エイズ
イエス・テンデンス	一時保育（非定型・緊急保育）	医療過誤	医療や健康の問題に関連するセルフ・ヘルプ・グループ	インフォーマルなサポート・ネットワーク	HIV／STD プログラム研究員
家制度	一時保護に関する事項	医療観	医療利用組合	インフォーマルなサポート・ネットワーク	HIV 訴訟
イエーツ報告	1 次予防	医療関係審議会	院内救済	インフォーマルなサポート・ネットワーク	HIV 予防専門官
イエーツ・レポート	一時利得	医療関連ビジネス	院外作業療法	インフォーマルなサポート・ネットワーク	HIV 予防専門官ケースマネージャー
EAP（従業員援助プログラム）カウンセラー	位置調節（ポジショニング）	医療機関	院外作業療法	インフォーマルなサポート・ネットワーク	HMO
EAP（従業員援助プログラム）ケースマネージャー	123 号通知	医療機関選択の自由	隠居	インフォーマルなサポート・ネットワーク	H. パールマンの定義
医学・医療モデル	一部事務組合	医療機関の再編成	インクプロット図版	インフォーマルなサポート・ネットワーク	ADHD
医学・疾病モデル	一部順位回答形式	医療機器（産業）	インクリメンタリズム	インフォーマルなサポート・ネットワーク	ADA 法
医学的診断所見	一部調査	医療供給体制	インクリメンタリズムのモデル	インフォーマルなサポート・ネットワーク	APDL
医学的病理モデル	1 変量分析法	医療協同組合（医療利用組合）	インクルージョン理念	インフォーマルなサポート・ネットワーク	B デザイン
医学的モデル	一過性器質精神状態	医療業務の民間委託・外注	インサイト・メディテーション	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エイプス報告
医学モデルによるソーシャルワーク	一過性の関係	医療金融公庫	インジケター設定の技術	インフォーマルなサポート・ネットワーク	栄養士
医学モデルの欠点の根拠「医学モデル」の立場	一緒に活動すること	医療ケースワーカー	インシデント	インフォーマルなサポート・ネットワーク	栄養失調
医学モデルの背景	一身専属性の権利	医療行為	インシデント（出来事）	インフォーマルなサポート・ネットワーク	営利サービス
生きがい対策	一対一の競争	医療・産業複合体	インシデント方式	インフォーマルなサポート・ネットワーク	AAGW
医業	逸脱行動論	医療社会化論	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	ASP
イギリス・ソーシャルワーカー協会	逸脱者	医療社会事業家	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	絵画欲求不満テスト
イギリスの苦情処理制度	逸脱的先入観念	医療社会事業士	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	疫学の研究
イギリスの児童貧困活動グループ	5 つの巨人（5 巨人悪）	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	疫学的志向
育児医療	5 つの巨人悪	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	駅型保育
育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律	一般監査	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	駅型保育所
育児困難	一般患者	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エクストラコンプレックス
育児ストレス	一般雇用	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エゴ
育児ノイローゼ	一般財源	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エゴグラム
育児は育自	一般システム・アプローチ	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エコシステム構想
育成	一般システム・モデル	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エコシステム接近方法
育成協	一般社会人	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エコシステム・ライフモデル
育成法	一般少年	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	デル
維持	一般生物体システム理論	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エコロジカル・システム・モデル
意識化の原則	一般的アプローチ	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エコロジカル・ソーシャルシステム
意識高揚	一般的監督と特別監督	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エコロジカルな視点
意識覚醒	一般病床	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	Ecological—Being
意識的気づき	一般扶助	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	AC
意識的側面	一般予防	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	ACSW
維持機能	一般理論	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	エス
意識—無意識の二重拘束	一方的関係	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	SIDS（乳幼児突然死症候群）
維持・強化の原則	一方的な交渉	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	S H G（岡による定義）
意志決定	「偽りの分析家」	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	S H G モデルの特性
	イデオロギー	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	SAS, S.S.T
	イテレーション	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	S S T（日常生活技能訓練）
	遺伝子組換え食品	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	SNS（ソーシャルサポート
	遺伝子治療	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	
	移転所得	医療社会事業の始まり	インシデント方式ケース研究	インフォーマルなサポート・ネットワーク	

ネットワークシステム)	エルパーフェルド制度	援助ー非援助関係	親がひとりの家庭	介護福祉専門職	外来患者クラブ
研修	演繹的リサーチ	援助付雇用	親子関係診断テスト	介護負担	解離性障害
SLE	エンカウンター	援助プラン	親子面談	介護負担軽減	解離反応
SOAP	遠隔地被保険者証	援助プロセス	親代理	介護保険改善運動	改良化
ST	遠隔地扶養	援助法	オルタナティブストーリー	介護保険財政	カイロプラクティック
エスニック・コミュニティ	encouragement	援助面接	ー	介護保険施設サービス	会話
ィ	円環的因果関係	エンスレーブメント	恩賜財団母子愛育会	介護保険と費用負担	ガーヴィン
エスノグラフィー	円環的因果律	延長保育（預かり保育）	恩給制度	介護保険の創設	カウンセリング、ストレス
エスノメソドロジー	円環的サイバネティクスの認識論	遠隔訴訟	恩賜財団済世会	介護保険制度の導入	スマネージメント
S・パワーズの定義	円環的質問	エンド・プロダクト	温情主義	介護保険の目的	カウンセリング教育
SPA 法	円環的質問	エントロピー	恩寵園事件	介護保険方式	カウンセリング・サービス
SPSS	遠距離介護	エンパワー	オンブズパーソン制度	介護保険法施行法	ス
hiv カウンセリング	園芸療法	エンパワーメント・グループ	オンブズマン・アドボケート制度	介護保険料	カウンセリング（心理援助技術）
ADHD（注意欠陥多動性障害）	エンゲージメント	エンパワーメント志向のソーシャルワークの過程	オンブズマンパーソン	介護保険料減免制度	カウンセリングの対応
ADL から QOL へ	嚥下障害・嚥下困難	エンパワメント実践	オンブツ制度	介護保険料滞納者・未納者（給付の制限）	カウンセリングの援助過程
ADL（日常生活動作）	エンゲル係数	エンパワメント実践	音楽療法	介護報酬	カウンセリングの過程
ADL の階層モデル	援護	エンパワメントの過程	外因性精神障害	介護マンパワー	カウンセリング・マインド
ADL の概念	援助的コミュニケーション	エンパワーメントの協働過程	外化	介護予防の取り組み	カウンセリング理論
ADD	援護法	エンパワーメント理論	「改革者」としてのケースワーカー	介護利用型軽費老人ホーム	抱える機能
エディティン	援護寮	エンパワリング	会議	介護療養施設サービス	科学性
エディバル期	円座	エンパワーリング技法	階級	介護力強化病院	科学的ケース・ワーク
エディブス期	エンサイクロペディア・ソーシャルワーク	エンプティ・ネスト	階級構成	介護力強化病棟	科学的慈善
エディブス的葛藤	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	遠慮	階級闘争	介護老人福祉施設	科学的慈善事業
エデプスコンプレックス	援助概念	OR	「開業」	介護労働	科学的知識
エデュケイター	援助活動技術	応益負担	開業医	介護労働者の雇用管理の改善に関する法律	科学的調査
エデュケーター	援助活動と方法の共通基盤	応益負担制	開業実践	「外在化」	科学的統制都実験法
エナクトメント	援助活動の第 1 の目的	応益負担の原則	『家計調査：小分類職業区分による被雇用者 1983-1991』	外在的阻害要因	科学的博愛
NASW	援助活動の第 3 の目的	応急小口貸付金制度	解決志向型アプローチ	開始	科学的博愛事業
NASW データバンク	援助活動の第 2 の目的	往診	解決志向療法（ミルウォーキー派）	開始期（個別援助技術）	科学的・理論的アプローチ
NH	援助活動の第 4 の目的	横断的調査	「解決すべき課題」	開始期（集団援助技術）	科学と技術によって代表される「専門性」
NHS およびコミュニティ・ケア法	援助活動の分野	ODA	「解決すべき課題」	解釈学	科学としての社会福祉実践
NGO（非政府組織）	援助過程の展開	応答	介護移民	下位集団	科学における統一性
NP	援助過程の枠組み	応答の型や、傾向が出てくる経緯についての反省的話し合い	会合	外傷性ストレス症候群（PTSD）	科学における同型性
NPO 法	援助関係における相互作用	応能負担	会合時以外における課題	回診参加	化学物質依存 IOP コーディネーター
NPO 法人格	援助関係の「枠」	応能負担・応益負担	会合時における課題	階層別研修	かわり方
NPO（民間非営利組織）	援助技法	応能負担制	介護家族	回想法	関わり技法
NVQ	援助計画の内容	応能負担制	介護機器	解体期	「過干渉」、「過保護」
エバリュエーションシート（事後評価用紙）	援助計画の立案	応能割・応益割	介護休業制度	改訂長谷川易知能評価スケール	書き換え療法
エバリュエーション	援助交際	欧米型福祉国家否定	介護給付費審査委員会	ケール	加給年金
ABAB デザイン	援助資源	応用博愛夏季学校	介護給付費部会	外的適応	隠されたメッセージ
ABCT→X 循環モデル	援助実践	応用博愛訓練学校	介護休業制度	外的妨害要因	拡散思考
ABC モデル	援助者が成長する過程	「大きなお世話」	介護給付費部会	ガイド機能	拡散的パターン
ABC モデル情動分析枠組み	援助者としての「無力さ」の認識	大原社会問題研究所	介護給付費部会	ガイドヘルパー事業	学習グループ
エピソード記憶	援助者との関係	公の支配	介護給付費部会	カイ 2 乗検定	「学習権宣言」
AB デザイン	援助者に対して拒否的な勘定	オーガナイズされている複雑性	介護給付費部会	カイ 2 乗値	学習された無力感
エビデンス	援助（者）の機能	岡山博愛会	介護給付費部会	介入（インターベンション）	学習指導要領
エビデンス・ベースド・プラクティス	援助者の基本的態度	オーステンによる心理療法の分類	介護給付費部会	概念	学習心理学
エビデンス・ベースト・メディスン	援助者の所見	オタワ憲章	介護給付費部会	概念化	学習のためのケース研究（スーパービジョン）
AB 反転デザイン	援助者の「ゆらぎ」	OT	介護給付費部会	概念学習	革新自治体
FADL	援助受給資格	ODA	介護給付費部会	概念的再方向づけ	革新主義
FC 検定	援助手法と手続き	OTC 薬	介護給付費部会	概念モデル	外罰
f.t プログラム	援助スキル	脅し	介護給付費部会	開発的総合計画	開発的総合計画
MRI のアプローチ	援助制度・対策	オートボイエーシス（自己組織システム）	介護給付費部会	開発途上国の社会福祉	開発の原則
MRSA 感染症	援助対象	オビニオンリーダー	介護給付費部会	開発の原則	回付
MSW	援助対象との関係性	オビニオン・リーダー	介護給付費部会	回復アプローチ	回復者クラブ
MSA 予算反対闘争	援助的機能	オブティマム	介護給付費部会	回復に伴いよみがえる身体感	回復に伴いよみがえる身体感
MSW（マスター・オブ・ソーシャルワーク）	援助的専門職業	オブティミカル・トリートメント・プロジェクト	介護給付費部会	開放	開放
MSW	援助という意図を持ってクライエントの感情表現を制限する	オープン・クエスチョン	介護給付費部会	開放型病院（オープン病院）	開放型病院（オープン病院）
MSW（修士ソーシャルワーカー）	援助内容	オープン・グループ	介護給付費部会	開放システム（オープン・システム）	開放システム（オープン・システム）
M 機能（集団維持機能）	援助における関わり	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
MCO 入院	援助の一貫性	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
MCO モデル	援助の技術	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
M 字型雇用	援助の限界	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
MDS-HC	援助の質	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
M. リッチモンドの定義	援助の終結	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
エモショナル・アノニマス	援助の初期	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
エリア・オフィス	援助の知識技術	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
LD	援助の展開過程	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
エルパーフェルト・システム	援助の流れ	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
	援助のベクトル（方向性）	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
	援助のマニュアル	オープン・システム	介護給付費部会	開放したグループ	開放したグループ
	援助の目的	おもちゃ図書館	介護福祉援助技術（ケアワーク）	皆保険・皆年金	皆保険・皆年金
			介護福祉施設サービス	外面生活	外面生活
				外面的ストレス	外面的ストレス

隔離	家族手当（フランス）	学校保健	仮入院	ン	管理医療
隔離主義	家族手当法	合致	解離反応	観察型測定法	管理・運営
確率抽出法	家族との協力関係	葛藤外自我領域	花柳病予防法	観察技法	管理・運営参加権
確率分布	家族とのワーク	葛藤外のエネルギー	カルシスタ	観察言語	管理機能
学歴・学校暦社会	家族に焦点を置く	葛藤外の自我領域	ガールスカウト	観察効果	管理者
家計	家族による福祉	葛藤回避パターン	カルチュラル・アウェア	観察事項	管理社会
家計調査	家族ネットワークアプ	活動記録	ネス・トレーニング	観察室	管理者（マネージャー）
家計の「個人別化」	ローチ	活動計画	カルチュラルグラム	観察者間合意テスト（イ	管理的スーパービジョン
家計の「社会化」	家族ネットワーク介入ア	活動（国際障害分類）	カルチュラル・ジェノグ	ンターオブザーバーアグ	官僚制組織
掛金	プローチ	活動主体の組織化	ラム	リーメント）	関連援助技術の概要
掛金率	家族の機能	活動推進者	カルテの開示	観察者の自己	関連システムとの連携・
囲い込み運動	家族の生活周期（ライフ	活動のアシスタント	ガルベキアン報告	観察の技法	調整の原則
囲い込み運動（エンクロ	サイクル）	活動能力	過労死	観察役	緩和ケア
ーヤー）	家族（病理）の犠牲者	葛藤の多い人	過労自殺	監視的監督	緩和ケア病棟
家事審判	家族福祉機能	活動の実施	川村事件	患者	完全参加と平等
家事審判法	家族への全体的接近	活動への動機づけ	簡易宿泊所	患者運動	キィ・パーソン
家事審判を求めるケース	家族崩壊	活動への動機づけの技術	簡易宿泊所（ドヤ）	家族療法	機会均等の思想
家事調停	家族暴力	ガーディアン	感覚	患者権利擁護制度	機能的要因論
「過指導」	家族問題援助	家庭維持サービス	感覚器官	患者調査	機会哲学
過剰人口	家族問題解決手順	家庭看護寮	感覚系機能障害	「患者とみなされたも	機会の平等
過剰診療	家族療法の技法	過程監視評価	感覚的気づき	の」	機械論的傾向
可処分所得	家族療法モデル	家庭教育	感覚的経験	患者の権利章典	機械論哲学
家事労働	家族療養費	過程記録（プロセスレコ	感覚的属性	患者の権利宣言	企画指導員
課税最低限	家族力動	ード）	鯨寡（かんか）孤独	慣習的儀礼	幾何平均
仮説検証	家族歴	家庭裁判所から送致され	環境アセスメント指標	間主観的交流	気軽に利用できる児童相
過疎	家族ワーカー	るケース	環境アセスメント制度	感情	談所
「画像記録（VTR）」	家族を焦点にした独特な	家庭裁判所との連携	環境改善サービス	感情転移・逆転移	機関委任事務整理合理化
下層社会	アプローチ	家庭サービス事業の副管	環境基準	感情移入的理解	一括法
過疎・過密問題	家族を中心とした非専門	理者	環境基本法	感覚運動期	機関外アドボケイト
家族アドボカシー	的援助職	家庭裁判所	環境権	感情的気づき	基幹型在宅介護支援セン
家族アプローチ	過疎地域自立促進特別措	家庭裁判所調査官	環境システム	感情的虐待	ター
家族イデオロギー	置法	家庭支援体制緊急整備促	環境修正	感情の効果的な伝達	機関・施設側の問題
家族援助法	過疎問題	進事業	環境障害	感情の吐露	機関・施設連絡調整説
家族エンパワメント	課題解決	過程志向の評価	環境的因子	感情表現促進の技法	機関内アドボケイト
家族エンパワメント尺	課題解決型アプローチ	過程嗜癖（プロセス・ア	環境的危機介入	感情表出	機関の財政的問題
度	課題解決志向のアプロー	ディクション）	環境的処置	感情表現を促す技法	危機介入インターベンシ
家族画	チ	過程叙述体	環境的道具	感情を自覚して吟味する	ョン・アプローチ
家族会	課題解決的	家庭的養護	環境の改善	感じるニーズ	危機介入のアドボケイト
家族介護者	課題規定説	家庭内外の役割	環境の処置	関心の視点	危機介入の基本概念
家族解体	課題計画	家庭内での虐待を引き起	環境の相互作用の文脈図	間接援助活動	危機介入の方法
家族会・保護者会	課題実行手順	こす諸要因	環境の中の人間	間接援助技術の概要	危機介入理論
家族カウンセリング	課題遂行の分析技術	家庭内離婚	環境のなかの人間（PIE）	間接介入	危機支援
家族葛藤	課題中心アプローチ、課	家庭における児童の育成	システム	関節可動域訓練	危機志向の短期処遇アプ
家族間ケアの困難	題中心ケースワーク	に関する相談	環境ホルモン	間接合同面接	ローチ
家族関係	課題中心活動	家庭福祉協会	環境問題	間接サービス	危機状況にある人びと
家族関係状況	課題中心グループワーク	家庭復帰施設	環境や日課の構造化	間接実践	危機聴取
家族関係の調整	課題中心ケースワーク実	家庭保育福祉員	環境療法	間接実践（マクロ・レベ	危機的な事故によるスト
家族機能	践プロセス	家庭奉仕員制度（ホーム	環境療法（間接療法）	ル実践）	レス
家族給付	課題中心システム介入方	ヘルパー制度）	環境を修正するための試	間接税	危機の反応
家族計画	法	家庭奉仕事業	み	間接的インターベンショ	危機の分類
家族形態	課題中心理論	家庭奉仕事業講習会	環境的性質	ン	起業者
家族構成	課題の普遍化技術	家庭訪問員	「関係」	間接的援助	企業中心社会
家族構造療法	課題の普遍化の技法	家庭養育支援サービス	関係嗜癖（リレイション・	間接的活動	企業内上積み補償
家族サービス機関	課題分析	家庭養育推進事業	ディクション）	間接的業務	企業年金
家族サービス協会	課題分析標準項目	家庭養育促進事業	関係性のモデル	間接的処遇	企業の社会貢献
家族サポート原則	片麻痺	家庭療育育成支援（ショ	関係づけ	間接的な関わり	「聴く」
家族サポートの尺度	語り	ートステイ）事業	関係的役割	間接的方法	危険因子
家族支援事業	カタレブシー	カテゴリー化	関係反応	間接話法	期限付きアセスメント
家族支援プログラム	価値葛藤	加藤健保訴訟	関係を活用する	完全型ケースマネジメン	記載責任者
家族資源尺度	価値構造	加藤裁判	関係を終結する	ト（ケアマネジメント）	疑似家族的親分子分関係
家族システム療法	価値特性	加藤訴訟	関係をつくる会話	完全自動物価スライド	儀式
家族システム論	価値法則	カード階級	還元義務	完全順位回答形式	儀式過程
家族社会学	価値・役割志向	過渡的雇用	還元主義	完全順位	疑似市場
家族集団	価値や判断の基準	家内労働	がん検診	感染症	疑似実験計画法
家族診断論	価値要素	加入者按分（老人医療費）	還元融資	感染症の予防及び感染症	疑似実験計画法
家族神話	学校5日制	カニユレ	監獄改良運動	の患者に対する医療に関	気質性脳症候群
家族ストレス	学校外教育	カネミ油症事件	韓国社会福祉館	する法律	器質性精神病
家族ストレス論	学校カウンセラー	可能性	韓国の社会福祉協議会	完全治癒	凝集性
家族セラピー	学校基盤ソーシャルワー	可能にする人	韓国の地域福祉	完全癖	技術・技法
家族相互影響アプロー	カー	寡婦年金運動	看護計画	がん対策	技術性
チ：MRI	学校給食法	貨幣的および非貨幣的方	看護師不足	完全参加と平等	技術の実践
家族相談	学校教育法	法	監護者	監督局	記述的態度
家族相談士	学校ケースワーカー	貨幣的ニード	看護師養成所	監督指導者（スーパーバ	記述的調査
家族ダイナミックス	学校災害	カバレントコントロール	看護の基準	イザー）	記述的調査
家族中心計画	学校制度	釜ヶ崎（あいりん地区）	看護必要度	監督分析	技術的な原則
家族中心ソーシャルワー	学校相談室	紙おむつ	看護婦（士）	ガントチャート	記述統計
ク	学校ソーシャルワーク職	過密	看護補助者（介護職員）	観念	記述統計学
家族中心ソーシャルワー	員	過密問題	看護労働	間引き	技術の信頼性
ク実践	“学校ソーシャルワーク	仮面うつ病	神坂訴訟	願望	技術の妥当性
家族中心的接近	専門員”資格証明制度	カラ期間	監査指針	漢方医療	記述の様式
家族調整	学校との連携	「殻」の硬い人	観察学習	かん黙症	技術論
家族賃金論	学校法人	仮契約	観察型コンサルテーショ	関与する観察者	技術論的立場
				管理	基準看護

基準該当サービスの事業者	基本的ニーズ	QC（品質管理）	強制相	居住地保護	苦汁産業
基準財政収入額	基本的要求	救貧制度	矯正ソーシャルワーク	居住の権利	苦情解決機関
基準財政需要額	基本理念	教育的リハビリテーション	行政争訟	拋出制	苦情解決事業
基準生活費	基本理念（社会福祉事業法）	脅威（義務強制）一政治モデル	強制措置をする	拋出と給付	苦情解決システム
棄児養育米給与方	基本理念（老人福祉法）	教育	強制立退き	居宅介護サービス計画	苦情解決のための委員会
希少動物の保護	期末一時扶助	教育委員会	矯正の監督	居宅介護サービス計画費	苦情処理（苦情解決）制度
規制緩和	帰無仮説	教育運動	行政的スーパービジョン	居宅介護サービス費	苦情対応のシステム
寄生地主制	義務教育	教育改革	共生的な相互依存関係	居宅介護住宅改修費	具体的援助実践者
季節保育所	義務論的な理論	教育（学童給食）法	矯正的フィードバック	居宅介護福祉用具購入費	具体的サービスの提供
義倉	逆説的指示	教育（学童保健）法	強制適用事業所	居宅サービスの（介護保険）	具体的操作期
基礎控除	逆説的な意図	教育活動	強制適用被保険者	居宅処遇の原則	具体的地域援助技術
規則功利主義	客体的側面	教育期	行政手続法	居宅療養管理指導	具体的ニーズ
基礎構造改革	虐待防止法	教育基本法	行政との契約方式	寄与度・寄与率	虚犯少年、触法少年の通告
基礎自治体	虐待を受けて措置された児童への保護者の面会・通信の制限	教育行政・教育費	行政におけるソーシャルワーク	拒否的クライアント	区分（カテゴリー）
基礎資料の接近型社会調査	逆転	教育グループ	強制入院	許容的・受容的關係	区分支給限度額（居宅介護サービス費区分支給限度基準額）
基礎資料の接近型社会福祉調査	逆転移の防止	教育訓練給付	行政不服審査法	距離	組合管掌健康保険
基礎的社会集団	逆転現象	教育権	矯正保護事業	キリスト教社会事業	組合健康保険（組合健保）
基礎的な資源への家族のアクセス	逆転表現	教育原則	矯正モデル	キリスト教社会福祉事業	組み合わせ統合論
基礎的な諸欲求（ヒューマン・ニーズ）	脚本分析	教育者（エデュケーター、メンター）	強制労働	キリスト教女子青年会	クライエント・アドボカシー
基礎的ニーズ	客観性維持の技術	教育的	業績主義	く社会事業	シエ
基礎率	客観的価値	教育的スーパービジョン	競争モデル	儀礼	クライエント境界未分化型援助構造
既存調査	客観的効果測定の技術	教育福祉ケースワーク	協調会	儀礼的無関心	クライエント志向原理
「既存の記録」	客観的認識としてのアプローチ	教育福祉論	業績主義	棄老	クライエント中心アプローチ
期待	ギャップベッド	教育プログラム	競争モデル	記録（観察法）	クライエント中心カウンセリング
基地問題	C A P	教育分析	競争モデル	記録技法	クライエント中心ケースワーク
吃音	CAPs	教育養成／システム調整者	協働家族療法	記録シート	クライエント中心ソーシャルワーク
気づき	キャリア機能	教育リハビリテーション	協働活動の原則	記録する意義	クライエント中心のアプローチ
気道確保	ギャンブル依存症	教育を受ける権利	共同記録	記録の活用	クライエント中心のソーシャルワーク
機能アプローチ	教育所	教誨	共同計画の策定	記録の質	「クライエント」という言葉
機能化	吸引	境界線	協働作業	記録の種類	クライエントとケースワーカーのラポール
機能回復訓練指導員	QOL	境界線児	共同作業所（小規模作業所）	記録の内容	クライエントに関する調査と情報収集
機能訓練	救急医療	教会法	協同実践	記録の方法	クライエントに質問の意味を理解させること
機能・形態障害	救急医療対策	強化（エンパワー）	協働して共に育ち力をつける	記録のメディアの拡大	クライエントに対する責任
機能コミュニティ	救急告示病院	強化子	共同住宅	記録の役割	クライエントの倫理的責任
機能主義学派の考え	救急告示病院	教科指導・生活指導	「共働する」支援方法	記録の様式	クライエントに面接の意義を理解させること
機能主義学派（ペンシルバニア学派）	救護院	教科書・学習指導要領	協働性の原則	均一拋出・均一給付	クライエントに求められる原理
機能主義ソーシャルワーク	旧国民健康保険法	共感ー社会モデル	共同セラピスト	緊急一時保護所	クライエントの意思決定とその結果
機能主義的アプローチ（機能主義における）援助過程	救済	共感・尊重・理解	協働的關係	緊急事態援助サービスの管理者	クライエントの隠蔽された感情と反応
機能主義派ケースワーク	救済規制通達	共感的反応	協同的創造	緊急処置	クライエントの家族に関する調査と情報収集
機能性精神病	救済事業調査会・社会事業調査会	「共感」の要素	協同的調査	緊急措置入院	クライエントの感情を大切に
機能低下	『救済制度要義』	狭義のケース研究	協同の理念	緊急対応	クライエントの期待
機能集団	9歳の壁	狭義の社会福祉サービス供給の調整	共同募金会	緊急通報装置	クライエントの基本的なニーズ
帰納的リサーチ	救治会	供給の調整	共同募金協会	緊急通報体制整備事業	クライエントの客観的・主観的事実をよく把握すること
機能に働きかける行為	休日保育	教区	共同保育所	緊急度	クライエントの権限強化
機能の拡大	救恤	教区委員	京都盲啞院	緊急保育対策等5ヵ年事業	クライエントの現在の「状況」について
機能派のおもな特徴	救助	教護	強迫観念	禁止行為	クライエントの現実認識の歪曲
「機能派」のケースワーク	旧少年法	教護院との協働	強迫的暴食	近親者介護手当	クライエントの行為
機能派のソーシャルワークの定義	急進的教育法	恐慌	強迫的暴食	金銭給付	クライエントの参加
機能派のワーカー	求人と求職のミス・マッチ	共済	矯風事業	近代家族	クライエントの自己決定の原則
機能不全に陥ったソーシャルワーカー	急性疾患	共済組合	恐怖障害	近代化理論	
機能理論	急性ストレス反応	共済組合健康保険（共済健保）	教母	近代的ケースワーク	
希薄で脆弱な他人との関係	休息（レスパイト）ケア	きょうされん	興味	近代的慈善事業	
気ばらし	級地（基準生活費）	「教師・カウンセラー」	業務管理	近代的社会福祉	
規範性	救貧	共住	業務災害	均等待遇	
規範的統制	救貧委員会報告	矯正院	業務災害補償保健	金原明善	
規範的なニーズ	救貧院運動	行政改革	業務上外の認定	禁欲	
規範倫理の理論	窮乏化法則	強制加入	業務上の疾病	近隣	
寄付金控除	救貧制度	矯正加入制度	業務統計	近隣基盤ソーシャルワーク	
寄付行為	救貧法案	共生関係	業務日誌	近隣組織の歴史	
キブツ	救貧法（エリザベス救貧法）	行政監査	共鳴	近隣地区	
技法の総体	救貧法および困窮者救済に関する王命委員会	行政管理型ケースマネジメント（ケアマネジメント）	共有領域	近隣の物理的な記述	
基本チャート	救貧・防貧	矯正教育	協力機関	近隣ワーカー	
基本的ADL	給付基礎日額	行政計画	挙家離村	勤労青少年教育	
基本的ケースワーク	給付反対給付均等の原則	行政行為	局所的観点	勤労青少年福祉法	
基本的諸欲求	窮民救助法案	行政裁量	曲線の問題	勤労婦人福祉法	
基本的人権の尊重・擁護	救い事業	行政事件訴訟（法）	極端な宗派的傾向	クインシー・レポート	
基本的生活習慣	救療事業	行政指導	局面展開モデルの原型	空間	
基本的な専門技術	救護課	行政事務	巨視的社会福祉援助活動	空間づくり	
	qc活動	行政事務再配分	虚弱的社会福祉援助活動	偶発的観察	
		強制社会保険	虚弱児施設	偶発的暗示	
		矯正情動体験	居住・移転の自由	偶発的危機	
		行政処分	居住型施設	クォータ制	
		強制設立	居住環境の安全整備	草の根からの福祉	
			居住差別	草の根ボランティアグループ	
			居住水準		
			居住地主義		

クライエントの自己決定の権利	グループリビング	福祉援助調整法）の技術過程	治療の専門家	ケースワーカーの面接技術	決定通知書
クライエントの自己決定を促して尊重する	グループリビングケア		刑事補償		欠乏状態のなかで
クライエントの自由	グループ臨床	ケアマネジメント（社会福祉援助調整法）の機能	芸術療法	ケースワーク関係でのクライアントの関与の仕方	ケアプラン
クライエントの主訴、要求、ニーズをよく知ること	グループワーカーの機能	ケアマネジメントでのニーズ	芸娼妓開放令	ケースワーク機能とケアワーク機能の重なり	ゲーム分析
クライエントの状況	グループワーカーの役割	ケアマネジメントの意義	経静脈栄養	ワーク機能の重なり	ゲーム理論
クライエントの強さ	グループワーカーの役割と機能	ケアマネジメントの技法	頸髄損傷	ケースワーク原則	権威
クライエントの特性	グループワーク関係	ケアマネジメントの原理	形成的効果測定	ケースワーク（個別援助技術）	権威主義的性格
クライエントの特性	グループワーク実践教育	ケアマネジメントの対象	形成的効果測定の方法	「ケースワーク実習」	権威的交渉様式
クライエントの不適応感	グループワーク（集団援助技術）	ケアマネジメントの定義（白澤政和）	継続性理論	ケースワーク実習の基本原理	原因的観点
クライエントの保護	グループワークにおける個人	ケアマネジメントの定義（橋本泰子）	継続的監視（モニターリング）	ケースワーク実践理論	原因別擁護
クライエント満足度質問表	グループワークにおける個人	ケアマネジメントの定義（マクスリー）	継続的評価	ケースワーク診断	原因療法
クライエント・ユニット	グループワークにおけるプログラム概念	ケアマネジメントの目標	継続的目標	ケースワーク診断の内容	減額年金（繰上げ支給）
クライエントログ（記録書）	グループワークの意義	ケアマネジメントのモデル	継続療養	ケースワーク・スーパービジョン	幻覚妄想状態
クライエント・ワーカー関係	グループワークの援助過程	ケアマネジメントのプロセス	継続療養給付	ケースワークとカウンセリング	研究
クライエントを受け止める上で障害となる要素	グループワークの機能	ケアマネジャー機能	形態または場	ケースワークとケアワークの差異に関する考え方	研究のためのケース研究
クライエントを個人として捉える	グループワークの記録	ケアマンパワー	傾注（コミットメント）	ケースワークにおける環境調整	兼業農家
クライエントを個人として捉える方法	グループワークの原理	ケア役割	傾聴の技法的定義	ケースワークにおける危機	権限の委任
クライアントを取り巻く環境に関する調査と情報収集	グループワークのスーパービジョン	ケアワーカー資格（CSS）	敬田院	ケースワークにおける心理社会的調査の方法	健康
クライマント	グループワークの最も古い定義	ケアワークとケースワーク	敬田院	ケースワークにおける調査	健康学習
グラウンデッド・セオリー	グループワークのモデル	ケアワークに関わる専門職者とクライアントとの関係	系統的合理的再構成法	ケースワークにおける治療計画	健康権
クラス・アドボカシー（権利擁護運動）	グループワークの歴史	ケアワークの対象	系統的合理的再体制化法	ケースワークによる援助や治療	健康支援保育（病児保育、病後時保育）
クラス（システム）アドボカシー	グループワーク理論	経営資源	系統的脱感作法	ケースワークの7原則	健康自己責任論
クラスストップ式	「グループを活用したソーシャルワーク」	経営主体	系統的抽出法	ケースワークの学習やスーパービジョンのプロセス	健康寿命
グラスルーツ	クレチン病	計画（アドミニストレーション）	系統的追試	ケースワークの過程（リッチモンド）	健康状態（国際障害分類）
クラブ事業	クレペリン検査	計画化の支援	系統的なマイクロ訓練	ケースワークの援助目的	健康診査（老人保健）
グランデッドセオリー法	クレペリン検査	計画管理	契約するサービスの購入	ケースワークの学習やスーパービジョンのプロセス	健康診断
グランプリ調査法	クレーン現象	計画行政	契約制度	ケースワークの過程（リッチモンド）	現行生活保護法
繰り上げ支給	クロージングシート（最終結用紙）	計画全体	契約文化	ケースワークの環境調整	「健康－生活問題」
繰り返し	クローズ・グループ	計画の策定	契約方式	ケースワークの基本的枠組み	健康手帳
繰り下げ支給	クロス集計表	計画の実施	契約モデル	ケースワークの原則（バイスティックの7原則）	健康で文化的な最低生活保障の原理
繰り出し梯子理論	クローズド・クエスト	計画（パーティシペーション）	いれいん症候群	ケースワークの自己決定	「健康日本21」
クリニック	クローズド・システム	計画（パーティシペーション）	敬老祝い金	ケースワークの環境調整	健康日本21（21世紀における国民健康づくり運動）
クリニック運営管理者	クロス分析	計画（パーティシペーション）	敬老思想	ケースワークの援助目的	健康・福祉関連サービス
クリーニング作業	Grosser と Mondros の分類	計画（ハード）	原因論・病因論の診断	ケースワークの学習やスーパービジョンのプロセス	産業統計調査
グリーフ・カウンセリング	グローバル・オーガニゼーション	計画（ファイナンス）	ケインズ経済学	ケースワークの過程（リッチモンド）	健康・福祉関連サービス
グループ（グループの編成）	軍事援護事業	経過式記録	ケインズ主義	ケースワークの環境調整	需要実態調査
グループ圧力	軍事救護法・軍事扶助法	生活構造	激甚災害指定基準	ケースワークの基本的枠組み	健康保険ストライキ
グループ・アドボカシー	軍事的メタファー	経営栄養	激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律	ケースワークの原則（バイスティックの7原則）	言語記憶
グループ間競争	群集心理	経験主義	激励	ケースワークの自己決定	言語技術
グループ技法	軍人恩給	経験主義的基礎	化粧療法	ケースワークの初期の段階	言語障害（失語）
グループ経験	軍隊精神医学	経験の原則	ケース・カンファレンスの目的	ケースワークの処遇、技術面を中心としたスーパービジョン	言語心理学的技法
グループ構造	軍隊ソーシャルワーカー	傾向分析	ケース記録の記述様式	ケースワークの環境調整	言語的慣習
グループ・サイコセラピー	群別抽出法	経済安定9原則指令	ケース記録票	ケースワークの援助目的	言語的追跡
グループ住宅	ケア（ケース）マネジメント	経済援助	ケース（ケア）カンファレンス	ケースワークの学習やスーパービジョンのプロセス	言語という手段
グループと組織の調査	ケアコンサルタント・モデル	経済機会法	ケース検討	ケースワークの過程（リッチモンド）	言語療法士
グループ内協力的行動	ケア付き仮設住宅	経済計画	ケース検討会	ケースワークの環境調整	言語療法士（ST）
グループ内対人競争	ケアテーカー	経済政策研究所	ケース原簿の作成	ケースワークの援助目的	言語療法（治療）士
グループ内多面的競争	ケアとコントロール	経済成長率	ケースコンサルテーション	ケースワークの過程（リッチモンド）	言語論的転回
グループにおける行動療法	ケアニーズ	経済性（人々のニーズのための経済）	ケーススタディ法	ケースワークの環境調整	現在性不安尺度
グループの圧力	ケアネットワーク	経済秩序外的存在	ケースの発見	ケースワークの基本的枠組み	現在地主義
グループの意義	ケアの実行	経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約	ケースの明確化	ケースワークの原則（バイスティックの7原則）	顕在的ニーズ
グループのカルチャー	ケアのネットワーク	経済的自立	ケース（パーソナル）アドボカシー	ケースワークの環境調整	現在の人と状況との全体
グループの機能	ケアパッケージ	経済的能力	ケース発見	ケースワークの援助目的	関連性についての反省的考察
グループの社会環境の文脈	ケアプランの実行	経済的評価	ケースファイル	ケースワークの過程（リッチモンド）	現実概念
グループの治療教育的力	ケア方針	経済的貧困への対応	ケースマネジメント技法	ケースワークの環境調整	現実検討
グループの特性	ケアマネジメント（介護保険制度）	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	現実検討機能
グループの発達	ケアマネジメント支援情報システム	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	現実志向の関係
グループの発達段階	ケアマネジメント支援情報システム	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	「現実的意識的側面」、
グループの理解	ケアマネジメント支援情報システム	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	「対象関係」
グループの役割	ケアマネジメント支援情報システム	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	現実的非常公開性
グループ評価法	ケアマネジメント支援情報システム	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	現実逃避傾向
グループメンバ	ケアマネジメント支援情報システム	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	現実療法
グループリーダー	ケアマネジメント支援情報システム	経済的貧困への対応	ケースマネジメント・システム	ケースワークの環境調整	原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律
					原子爆弾被爆者に対する特別措置に関する法律
					原子爆弾被爆者の医療等に関する法律
					現象形態
					検診命令
					言説
					健全育成活動
					健全な人
					原則
					現在
					現代家族
					倦怠感

現代資本主義	効果説明	厚生科学審議会	行動主義	移動の円滑化の促進に関する法律	呼吸
現代ソーシャルワーク	効果測定尺度	厚生行政 6 原則	行動主義モデル	高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律	国際社会事業学校連盟
現代的貧困	効果測定調査	厚生行政業務報告	行動主義理論	高齢者運動	効果測定
現代病	効果測定・評価	更生訓練費	行動障害	高齢者介護	効果測定のプロセス
現地資料	効果測定法	厚生経済学	行動上の問題	高齢者対策大綱	国際居住年
現地踏査	口渇	公正（社会主義）	行動処方	高齢者共同組合	国際疾病分類
限定的目標	効果的援助関係の成立技法	構成主義アプローチ	行動診断所見	高齢者共同生活（グループリビング）支援事業	国際児童福祉連合
検討	効果的質問	厚生省	行動心理グループワーク	高齢者施設相談センター	国際社会保障協会
見当識	効果的な PR とマスコミ対策のスキル	厚生省社会局	行動的アプローチ	高齢者ケア	国際社会福祉協議会
見当識障害	効果評価	公正証書	行動的介入	高齢者雇用奨励制度	国際主義（国際的連帯、平和）
見当識障害／失見当	高カロリー輸液	向精神薬	行動的カウンセリング	高齢者在宅生活支援事業	国際障害者年日本推進協議会
見当識障害	効果的交換経済モデル	更生相談	行動的気づき	高齢者緊急相談センター	「国際障害分類（案）」（1980 年）
ケント・プロジェクト	講義	構成的エンカウンターグループ	行動的夫婦療法	高齢者共同住宅	国際障害分類に準じた精神障害の概念
現任研修	広義・狭義の二重構造論	厚生統計	行動になった転移	高齢者共同生活（グループリビング）支援事業	国際障害者年
現任者の研修	講義形式	厚生年金制度	行動の変容を中心としたグループ	高齢者雇用奨励制度	国際人道援助
現場実習体験	後期高齢者	厚生年金保険法	行動パターン	高齢者在宅生活支援事業	国際生活機能分類
現場体験	後期高齢人口	厚生白書	合同夫婦家族療法	高齢者施設多機能化	国際青年年
憲法第 13 条（個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉）	広義のカウンセリング	更生法	合同 2 組面接	高齢者住宅整備資金貸付制度	国際ソーシャルワーク
憲法第 14 条（法の下平等）	広義の家族福祉	更生保護事業	行動変容論	高齢者・障害者の居住環境	国際ソーシャルワーカー連盟
憲法第 22 条	広義のケース研究	構成面接法	合同面接法	高齢者等向け公団住宅	国際的な学習権論
憲法第 25 条（生存権、国の生存権保障義務）	広義の社会福祉	公設民営	行動療法アプローチ	高齢者と介護問題	国際貧困根絶年
憲法第 89 条（公の財産の支出または利用の制限）	広義の社会福祉サービス	「構造」	行動療法に基づくアプローチ	高齢者と学習	国際保健
憲法第 25 条分理論	公共企業体等職員共済組合法	構造化された面接	行動療法の技法	高齢者と事故	国際ボランティア活動
健保改悪反対連絡会議	公共経済学	構造化面接	行動療法の段階	高齢者と社会運動	国際民間援助団体
幻滅	公共財	構造化面接	行動療法派	高齢者と貧困	国際養子縁組
権利擁護・代弁	公共事業	構造化面接	行動療法理論	高齢者の生きがい対策	国際連合
権利	公共施設内での売店の設置	構造化面接	高度経済成長政策	高齢者の医療費自己負担	国際連合憲章
原理学習	公共の利益	構造化面接	高年齢継続被保険者	高齢者の能力開発情報センター	国際連合の「各国の公的扶助行政」に関する 1952 年報告
権利主張	口腔ケア	構造化面接	高年齢雇用継続給付	高齢者調整チーム	国際労働機関
原理的公開性	校区社会福祉協議会	構造化面接	高年齢者雇用率	高齢者等向け公団住宅	国籍
権利としての社会保障	校区福祉委員	構造化面接	高年齢者等の雇用の安定等に関する法律	高齢者と介護問題	国籍条項
権利の尊重	合計特殊出生率	構造化面接	広範囲なネットワーク	高齢者と学習	国選弁護人制度
権利の保護	攻撃	構造化面接	公費医療	高齢者と社会運動	国内総生産
権利の要求者	攻撃形	構造化面接	公費負担医療	高齢者の所得源	国分訴訟
権利保障	攻撃者との同一化	構造化面接	幸福追求権	高齢者の心理	国民保険法
権利擁護（アドボカシー）	攻撃衝動	構造化面接	神戸市立本山保育園事件	高齢者のスペシャリスト	国民医療研究所
権利擁護制度	攻撃的介入者	構造化面接	広報義務	高齢者の性	国民医療総合対策本部「中間報告」
権利擁護の原則	攻撃的ケースワーク	構造化面接	広報・広聴	高齢者の喪失感情	国民医療を守る共同行動
権力	攻撃方法	構造化面接	広報の手段	高齢者の保健事業	国民医療を守る中央連絡会議
権力と統制	高血圧	構造化面接	公民皆保険・皆年金体制	高齢者の保健福祉	国民栄養調査
計画立案役割（イノベーター、オーガナイザー）	後見	構造化面接	公務災害認定	高齢者のボランティア	国民皆年金
コア	後見監督人	構造化面接	公務災害補償	高齢者のモラル	国民皆保険皆年金
コアリション	交互（相互）作用モデル	構造化面接	「項目記録」	高齢者福祉ケースワーク	国民基礎年金
コインマッピング	国際協力事業団	構造化面接	項目式	高齢者福祉ニーズ	国民健康づくり対策
講	講座医療政策史	構造化面接	項目式記録	高齢者保健事業	国民健康保険安定化計画
広域行政	交叉交流	構造化面接	高揚機能	高齢者保健増給計画	国民健康保険運営協議会
合意形成	公私格差是正	構造化面接	合理主義モデル	高齢者保健福祉推進 10 年戦略	国民健康保険組合
行為功利主義	公式チーム	構造化面接	合理情動催眠療法	高齢者向け住宅政策	国民健康保険組合保健婦
行為障害	公私協働	構造化面接	合理情動的心理療法	高齢者向け優良賃貸住宅制度	国民健康保険（国保）
合意戦術の原則（ロスの組織化十三原則）	公私協働の原則	構造化面接	合理情動療法	高齢者無料職業紹介所	国民健康保険資格証明書
合意戦術の重視	公私協働論	構造化面接	効率性	高齢者任意単独被保険者	国民健康保険審査会
行為動機	公私社会福祉事業	構造化面接	効率的処遇	口話法	国民健康保険料・税減免制度
行為の技術	高次脳機能障害	構造化面接	効率の評価	互惠関係	国民健康保険料・税の算定主義・明定主義
公営住宅	公公分担の原則	構造化面接	効率評価	声なき声	国民健康保険短期保険証
公営住宅単身入居制度	公衆衛生 4 原則	構造化面接	合理的行動療法	声の調子	国民健康保険料・税
公営住宅法の改正	公衆衛生（アメリカ）	構造化面接	合理的認知	誤嚥	国民（産業災害）保険法
公営競技の益金	公衆衛生（イギリス）	構造化面接	合理的プロセス	Co-カウンセリング	国民所得
公益事業	公衆衛生関係法	構造化面接	「小売的方法」		国民所得倍増計画
公益質屋	公衆衛生サービス	構造化面接	交流教育		国民生活指標
公益法人	公衆衛生全国交流集会（全国保健所問題研究交流集会）	構造化面接	交流パターン分析		国民生活センター
講演	公衆衛生法	構造化面接	交流分析理論		国民生活白書
公園デビュー	公衆衛生モデル	構造化面接	旅行病人及旅行死亡人取扱法		国民総生産
構音障害	公衆距離	構造化面接	高齢化社会危機論		国民年金基金
公害健康被害補償制度	公衆の利益	構造化面接	高齢化率（人口高齢化率）		国民年金制度
公害対策基本法	拘縮	構造化面接	高齢期と家族		国民年金保険料
公害認定患者	工場監督制度	構造化面接	高齢期の疾病		国民年金保険料減免制度
公害防止条例	「恒常性維持」	構造化面接	高齢期の住宅		「国民の家」
口蓋裂・口唇裂	恒常性維持機能	構造化面接	高齢期の職業		
工学モデル	交渉の技法	構造化面接	高齢期の住み分け		
高額療養費	工場法	構造化面接	高齢期の同居・隣居		
高額療養費貸付制度	工場法（イギリス）	構造化面接	高齢期の労働		
高額療養費支給制度	工場法（日本）	構造化面接	高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律		
高額療養費受領委任払い	工場労働者最低年齢法	構造化面接	高齢者、身体障害者等が公共交通機関を利用した		
効率主義	構成員間の平等性の原則	構造化面接			
効果性	厚生科学研究費	構造化面接			

国民の社会福祉に関する活動への参加の促進を図るための措置に関する基本的な指針	子育てサークル	個別援助技術の定義	義	助過程	クの枠組み
国民付加年金法	子育て支援サービス	個別援助技術の展開過程	コミュニティ・オーガニゼーションに関する従来からの考え方	コミュニティワークの記録と評価	コンバイン方式
国民負担率	子育て支援センター	個別援助技術（パートレット）	コミュニティ・オーガニゼーションの五段階説（アメリカ）	コミュニティワークの原則	コンピテンシ志向ソーシヤル・ワーク
国民保健福祉サービスおよびコミュニティケア法	子育て不安	個別援助技術（ハミルトン）	コミュニティ・オーガニゼーションの過程	コミュニティワークのスーパーバージョン	コンピテンシ中心アプローチによる実践
国民保険法（イギリス、1911）	小平市保育料訴訟	個別援助技術（パウルマン）	コミュニティ・オーガニゼーションの5段階説	コミュニティワークの第1の流れ	コンピテンシに基づくアプローチ
国民保険法（スウェーデン）	誇張した表現	個別援助技術（パワーズ）	コミュニティ・オーガニゼーションの専門機関	コミュニティワークの第2の流れ	コンピテンシの構成要素
国民保険法（イギリス、1946）	国家行政組織法	個別援助技術（ホリス）	コミュニティ・オーガニゼーションの歴史	コミュニティワークの評価	コンピネーション方式
国民皆保険皆年金	国家公務員共済組合	個別援助技術（リッチモンド）	コミュニティ・オーガニゼーション理論（アメリカ）	コミュニティワークのブルセス	コンピュータ
国有財産特別措置法	国家公務員共済組合法	個別援助の諸活動	コミュニティ・オーガニゼーション理論（日本）	コミュニティワークの方法	コンピュータの高度利用
国立医療機関の統廃合	国家賠償	個別援助における原則	コミュニティ・ケア計画	コミュニティワークのモデル	コンピュータ理論
国立社会保障・人口問題研究所	国家社会レベルのマクロ・システム	個別援助の構造	コミュニティ・サービス	コミュニティワークの歴史	コンフリクト（対話と葛藤）
国立視力障害センター	国家責任	個別援助の展開過程	コミュニティ・サポート・システム	コミュニティワークの再アクセスメントへのフィードバック	差異化
国立身体障害者リハビリテーションセンター	国家責任による最低生活保障の原理	個別ケア	コミュニティシステム	米騒動	災害救助法
国立精神・神経センター	国家賠償	個別ケアマネジメント	コミュニティ診断	コ・メディカル	在外困窮自国民
精神保健研究所	国家扶助（公的扶助）	個別サービス計画	コミュニティ政策	コ・メディカルズコメント	災害時対応（ディブリーフィング）
国立精神・神経センター国立扶養学園	国家補償	個別支援計画	コミュニティ・センター	子守り学校	災害対策基本法
国立長寿園存続運動	国家有機体説（思想）	個別指導的コンサルテーション	コミュニティ相互作用チェックリスト	雇用安定事業	災害弔金の支給等に関する法律
国立東京視力障害センター	国境なき医師団	個別処遇	コミュニティソーシャルワーカーの資質（4H5C）	雇用継続給付	災害と障害のある人
国立特殊教育総合研究所	国庫負担金	個別化の原理	コミュニティソーシャルワーカーの役割、コミュニティ・ソーシャルワーク	雇用対策法	再概念化
国立病院・療養所	骨粗鬆症	個別性の尊重	コミュニティソーシャルワーク機能	雇用調整助成金	災害復興グループハウス
国立開発計画	骨粗鬆症（骨折をとともなう骨粗鬆症）	個別別的アセスメント	コミュニティソーシャルワークの技法・技術	雇用労働法	災害補償
国連子どもの権利委員会勧告	固定観念	個別別的援助	コミュニティネットワーク	雇用保険三事業	サイキアトリック・グループワーク
国連児童基金	コーディネイト	個別目標	コミュニティソーシャルワークの機能	雇用保険法	サイキアトリック・ソーシャルワーカー協会
国連・障害者の10年、国連障害者の10年	コーディネイト機能	個別ニーズ	コミュニティソーシャルワークの技法・技術	語用論	再教育
国連人間居住センター	コーディネイト機能	個別評定スケール	コミュニティチエスト（共同募金）	娯楽・余暇観	再掲
互恵関係	古典的実験計画法	個別福祉サービス	コミュニティづくり	コラボレーション	再計画（ローリング）
後光効果	古典的集団実験デザイン	個別面接と同席面接	コミュニティデベロップメント	ゴールト事件判決	再決定療法
子殺し	古典的貧困	個別目的観察	コミュニティニーズアセスメント	ゴールと戦略	再検討
子殺し・間引き	古典的物理学	五榜の揭示	Community Network Dimension	ゴールドプラン21	再建療法
心に葛藤のない人	個と環境の相互作用	後保護	コミュニティの参加	ゴールドプラン（高齢者保健福祉推進十か年戦略）	再構成（リフレイミング）
心の構造	孤独死	コーホート	コミュニティの自主性尊重の原則	保健福祉推進十か年戦略	サイコセラピー
孤児院・養育院	孤独な群衆	コーホート調査	コミュニティの能力をマップにする	ゴールドプラン21	財産安定化基金（介護保険）
個室訴訟（老人ホーム）	寿町	コーホート理論	コミュニティチエスト（共同募金）	コレクティブ・アドボカシー	財産管理サービス
個人	子ども	五保の制	コミュニティづくり	コレクティブハウジング	再社会化
個人カウンセリング	子ども家庭福祉	コーポラティズム	コミュニティデベロップメント	孤老期	再就職手当
個人差	子ども虐待対応の手引	コーポラティブハウス	コミュニティニーズアセスメント	コロッキー	最終ソーシャルワーク学位
個人史	子どもと家庭110番	コマンド	Community Network Dimension	コンヴォイ理論	罪障感
個人主義的視点	子どもの遊び	ゴミ戦争	コミュニティの参加	婚活子	最小限の励まし
個人情報保護	子どもの意見表明権	コミュニケーション・アプローチ	コミュニティの自主性尊重の原則	困窮状態	在職老齢年金
個人心理学	子どもの虐待防止センター	コミュニケーション・エイド	コミュニティの能力をマップにする	「根源的不安」	再ストーリー
個人精神療法（心理療法）	子どもの虐待防止センター（東京）	コミュニケーションサンプル	コミュニティの能力をマップにする	混合式	財政安定化基準事業
個人的アドボカシー	子どもの虐待ホットライン	コミュニケーション手段（面接時）	コミュニティの能力をマップにする	「混合診療」	済世会
個人的因子	こどもの権利運動	コミュニケーション障害	コミュニティの能力をマップにする	今後の課題	財政改革
個人的エンパワーメント	こどもの権利に関する条約	コミュニケーションスキル	コミュニティの能力をマップにする	「今後の社会福祉のあり方」	済生会病院
個人的時間	こどもの自律の権利	コミュニケーション能力	コミュニティの能力をマップにする	「今後の社会福祉のあり方について」	済生会看護
個人的な開示	こどもの城	コミュニケーションの技術	コミュニティの能力をマップにする	コンサルテーション方式	財政投融資
個人的ニーズ	子供の発達と生活綴方	コミュニケーションの発達	コミュニティの能力をマップにする	コンサルテーション・サービス	再生不良性貧血
個人的欲求	子どもの文化	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンサルテーション（助言提供法）	再接近
個人と環境	こどもの保護を受ける権利	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンサルテーションの技法	最善の利益
個人との作業技法（ミクロ・スキル）	子供の未来21プラン研究会報告書	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンシューマー（消費者）	最大多数の最大幸福
個人とのワーク	『子ども白書』	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	婚前期	在宅介護相談協力員
「個人」に対する尊厳	子ども広場	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンソシアム	在宅介護者の集い
個人ネットワークアクセスメント用具	子ども未来財団	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンタクト・パーソン	在宅看護支援センター
個人ネットワーク法	コーネルメディカルインデックス	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンテキスト理解	在宅介護支援センター運営協議会
個人年金	コノブカ、G.	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンテキスト	在宅患者訪問看護・指導料
個人の自助努力	コノブカの定義	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	コンテンツ	在宅患者訪問診療料
個人の生活の質	コノブカの定義の特徴	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	近藤訴訟	在宅患者訪問薬剤管理指導料
個人の尊厳	個別援助技術（NASW）	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする	今日の新しいケースワー	在宅サービス推進型
個人のパーソナリティ	個別援助技術（ジャーマイン）	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする		在宅酸素療法
個人病理	個別援助技術の意義	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする		在宅医学管理料
個人プレイセラピー	個別援助技術の機能	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする		
個人別処遇計画	個別援助技術の原則	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする		
個人面接	個別援助技術の構造	コミュニケーションの特性	コミュニティの能力をマップにする		
個人歴変更					
コスト・パフォーマンス					
個性					
子育て教室					

在宅重症心身障害者（児）訪問指導	協働 里親委託	3科目社会福祉主事 産業化	支援者チーム 支援者の対人関係技法	資源開発の原則 試験観察	術 事後分析・評価
在宅重度身体障害者訪問診査	里親委託解除とアフターケア	産業カウンセラー	支援者の認知的技法	実験計画法	自己への転帰
在宅重度身体障害者訪問審査事業	里親委託措置	産業革命	支援制度	資源システム結合	自己防衛機制
在宅重度知的障害者訪問審査事業	里親委託中の親へのアプローチ	産業組合	ジェンダー・DV 問題調査	資源整備計画	自己理解促進の技法
在宅就労（在宅雇用）	里親委託の実施	産業構造	研究会議	試験調査・予備調査	自己理想
在宅障害児指導事業（巡回バス）	里親委託の準備	産業ソーシャルワーカー	ジェンダー・アプローチ（あるいはジェンダー・パースペクティブ）	資源提供者	自己理論
在宅障害者ディサービス施設	里親委託の選定	産業の空洞化	ジェンダー・イシュー	資源の活用	示唆
在宅人工呼吸指導管理料	里親家庭養育運営要綱	産業福祉	ジェンダー統計	自己開示の技法	施策開発
在宅寝たきり患者処置指導管理料	里親との協働	産業福祉ケースワーク	ジェンダー・レンズ	自己開発	施策によるアドボカシー
在宅福祉サービス供給システム	里親訪問	産業保健（労働衛生）	支援ツール	自己回復力	施策分析
在宅福祉サービス供給組織の多元化	里親養護	産業民主正制論	支援ネットワーク	自己開放段階	示唆する
在宅福祉サービスの供給組織論	里親養護連絡調整者	産業・労働福祉	支援ネットワーク・アプローチ	自己開放段階	自殺念慮
在宅福祉サービスの費用負担	サービス	散在	支援費支給方式	自己拡大	資産活用
在宅福祉サービス論	サービス・オリエンティド（サービス志向型）	散在アプローチ	支援費制度	自己拡大の理論	資産調査
在宅福祉3本柱	サービス監査	3歳児神話	支援役割	自己覚知の意義	資産調査（ミーンズテスト）
在宅扶助	サービス監査制度	三子出産の貧困者へ養育料給与方	COS（事前組織協会）	自己覚知の過程	CCM（コミュニティケア・ミーティング）
在宅訪問リハビリテーション指導管理料	サービス規定説	三重の相互関連性	C0の3つのモデル	自己価値	事実の一貫性追求の技術
在宅保健福祉サービス再陳述	サービス購入者－供給者分離	算術平均	C0モデル	自己関係理論	支持的援助
最低限度の生活	サービスコーディネーター	3種類のコンピテンス	自我異和的	自己監視法	「支持的」ケースワーク
最低限度の生活保障	サービス実施計画	斬新変化	歯科衛生士	自己監視法	支持的スーパービジョン
最低生活費の保障	サービス選択権	三世大家族	歯科工士	自己貫徹の権利	支持的手続き
最低生活費の算定方式	サービス担当者会議	三倉	自覚して吟味する	自己貫徹のための権利	指示的な覚知の実験
最低生活保障の原理	サービス提供	三相計画	資格取得要件	自己管理（セルフ・マネジメント）	支持的役割
最低生活保障の原理（最低生活の原理）	サービス・ネットワーク	三大援助技術	資格制度	自己教示	支持的療法
最低賃金制	サービスの実施主体	三・七闘争	資格制度化	自己教示訓練	支持の技法
最低賃金法	サービスの質的改善	散布度	自我支持的アプローチ	自己記録	ソーシャルワーカーの専門性
再動機づけ	サービスの質的管理	サンプリング	自我指示療法	自己決定グループモデル	自主的参加
サリドマイド訴訟	サービスの質の評価	サンプリング台帳	自我修正的アプローチ	自己決定支援の原則	思春期
在日朝鮮人（在日韓国・朝鮮人）	サービスの終結	サンブル	自我修正的技法	自己決定の原理	思春期危機
在日米国大使ライシャワー事件	サービスの精神	山谷	自我熟達	自己決定の支援	思春期・青年期の介護課題
再認	サービスの選択	参与機関	自我障害	自己決定の制限	自助、共助、公助
サイバネティクス	サービスの評価	C	自我心理理論	自己決定の尊重	市場経済
サイバネティックス	サービスの地区化	C I L（自立生活センター）	自我親和的	自己決定の保障	市場主義的競争
サイバネティックス論	サービスの提供	仕上げ	自活	自己決定権	市場の失敗
再編成化（サイボーリンによる）	サービスの統合	CRM	自我同一性の確立	自己現実ニード／リスク	自助・互助
価値	サービスの評価者	地域診断	自我による対応的退行	自己高揚	自助集団
歳末たすけあい募金	サービスハウス	CBE	自我のしっかりした人	自己システム	システムアプローチ
細民調査	サービス評価制度	JHC 板橋	自我の働きによる適応的退行	自己実現・幸福追求のためのケア	システム・アプローチ・モデル
催眠療法	サービス評価の基準	Jターン現象	自我の防衛規制	自己実現・自立への援助	「システム・エージェンツ」
財務管理	サービス評価の構造	GHQ	自我防衛	自己実現ニード	システム改善
再枠付け（リフレミング）	サービスラーニング	自営の開業	自我理想	自己実現の権利	システム開発アプローチ
“the ACSW Validation Study”	サービス利用援助事業	ジェネラリスト実践	時間管理	自己実現の欲求	システム思考および生態学的思考の時代
“the ACBSW Validation Study”	サービス利用の手順	ジェネラリストの基本的態度原理	時間（軸）概念	自己実現欲求	システム思考論への批判
“the Occupational Social Work Study”	サブフォーマルセクター	ジェネラリスト・モデル	時間志向型質問	自己指南	システムズ・アプローチ
差額ベッド	サブライサイド経済学	ジェネラル・ソーシャルワークの実践構成要素	時間をかける権利	自己主張訓練	システムの援助モデル
作業仮説	サーベイ	ワークの実践構成要素	自記式調査	自己責任論	システムとしての家族
作業期（集団援助技術）	差別意識	ワークの実践構成要素	識字教育	自己選択	システムの階層的秩序
作業検査	差別的取り扱いの禁止	ワークの実践構成要素	識別	自己選択権	システムの開発
作業検査法	サポート	ワークの実践構成要素	識別学習	自己像	システムの境界
作業場	サポート・コミュニティ	ワークの実践構成要素	CQSW	自己喪失	システム分析
作業段階	サポート・ネットワーク	ワークの実践構成要素	支給限度額	自己創造	システム論的アプローチ
作業療法士（OT）	サポートネットワークシステム	ワークの実践構成要素	支給条件	「自己疎外感」	システム論的家族療法
搾取	さまざまな社会関係の障害のケース	ワークの実践構成要素	CQSW	自己測定スケール	死生観
錯乱	「サリア人同盟」	ワークの実践構成要素	事業開発者	自己存在	私生児
サークル型コミュニケーション	サルコイドーシス	ワークの実践構成要素	事業管理者	自己尊重	施設介護サービス費
作話法	サルッシュオーバーデン協定	ワークの実践構成要素	事業計画副部長	自己探求	施設サービス（介護保険）
ささえあい医療人権センターCOML（コムル）	参加型コンサルテーション	ワークの実践構成要素	事業所内保育所	自己調整の技術	施設サービス計画
査察指導	参加型政策評価	ワークの実践構成要素	事業費補助方式	自己洞察	施設処遇
里親、児童福祉施設との	参加・関与情報	ワークの実践構成要素	資金運用部	自己洞察力	施設選択権
	参加機能	ワークの実践構成要素	資金づくり活動	自己認知	施設－地域コンフリクト
	参加機会（モニターニュ派）	ワークの実践構成要素	市区町村社会福祉協議会の経営	自己能力	施設長
	憲法	ワークの実践構成要素	市区町村社協活動強化要項	自己の概念	施設入所および在宅福祉の方法
	参加（国際障害分類）	ワークの実践構成要素	慈恵救済基金	自己破壊傾向	施設入所主義
	参加すること	ワークの実践構成要素	慈恵的な援助	自己発見的問題解決	施設入所中のアプローチ
	参加的調査	ワークの実践構成要素	死刑廃止運動	自己反省	施設入所の準備
	参加の原理	ワークの実践構成要素	時系列（単一被験者）記録	事後評価（エバリュエーション）	施設入所の選択
	参加の初期	ワークの実践構成要素	刺激	自己評価式抑うつ性尺度	施設の住宅化
	参加の力量	ワークの実践構成要素	刺激隔壁	自己評価指標	施設の退所とアフターケア
		ワークの実践構成要素	刺激者としての役割	自己評価尺度（セルフ・アンカード）	施設病/ホスピタリズム
		ワークの実践構成要素	刺激障壁	自己表明性	施設福祉サービス
		ワークの実践構成要素	刺激情報	自己分析・自己覚知の技法	施設保母
		ワークの実践構成要素	刺激防壁		ジゼラ・コノブカの定義

慈善（欧米）	業	質的リサーチ	自動的な自我	慈悲思想	社会契約
慈善家	実演（ロールプレイ）	失認	児童の遊びを指導する者	自費診療	社会契約説
視線が合わない	悉皆調査	質の高いサービス	児童の育成活動	市部福祉事務所	社会契約のプロセス
自然科学的アプローチ	疾患	質の統制	指導の技術	自分が自分自身を援助すること、その方法	社外工
慈善学校	失業	実費診療所	児童の権利に関する宣言	自分でない他者を援助することと、その方法	社会貢献活動
慈善活動	失業給付	疾病構造の変化	児童の最善の利益	自分に関する専門家	社会構成主義
慈善・感化会議	失業対策	疾病志向セラピー	児童の里親委託	自分を知る	社会構成的アプローチ
自然環境	失業対策事業	疾病・障害認定審査会	児童のためのグループホーム	自分を知ること	社会構造主義
慈善機関	失業の認定	失明白知	児童の定義	自閉症児	社会サービス法
慈善救済組織化及び乞食	失業法	質問技法	児童の不適応化	自閉症児童施設	社会参加活動
抑制のための協会	失業法（イギリス）	質問形式	児童のもつ問題	自閉相	社会参加の促進
自然さ	失業保険制度	質問紙法の特質	児童買春	嗜癪	社会参入最低所得制度
慈善・慈善	失禁	質問用紙	児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律	死別	社会的支援ネットワーク
事前試験	失業法	實用主義	児童買春、児童ポルノ禁止法	支弁・負担・補助	図
慈善・慈善事業	シックハウス（室内空気汚染）	指定育成医療機関	児童福祉ケースワーク	死亡一時金	社会事業家
慈善社会事業	シックハウス症候群	指定医療機関	児童福祉施設における施設在り期間の延長	司法警察	社会事業学校
事前説明	実験計画法	指定介護療養型医療施設	児童福祉施設に入所中の児童の教育	司法ケースワーク	社会事業技術
慈善組織運動	実験的、研究的スーパービジョンの場の必要性	指定統計	児童福祉施設に於ける児童の教育	司法・更生福祉	社会事業教育協議会
慈善組織化	実験的観察	指定都市	児童福祉施設に於ける児童の教育	死亡診断書	社会事業史学会
慈善組織化運動	自験例	指定病院（精神保健福祉法）	児童福祉施設に於ける児童の教育	司法ソーシャルワーク	社会事業主事
慈善組織化協会（COS）	失行	GT法	児童福祉施設に於ける児童の教育	司法福祉分野	社会事業体系に関する件
慈善組織協会	実行段階	指定療育機関	児童福祉施設に於ける児童の教育	司法保護事業	社会事業婦
慈善団体	「執行方式」	私的医療機関	児童福祉施設に於ける児童の教育	死亡率	社会事業法
事前調査	執行猶予者保護観察	私的慈善事業	児童福祉施設に於ける児童の教育	シームレス委員会	社会事業法（昭和13年）
慈善的活動	失語症	「私的な開業」	児童福祉の事業	シームレス改革	社会資源開拓・開発の技法
自然的観察	実査	私的扶養	児童福祉の直接の対象	資本主義産業国家	社会資源活用の原則
自然的資源	実際のソーシャル・ワーク実践	児童育成クラブ	児童福祉の方法	資本主義的生産関係	社会資源システム
慈善（日本）	実施	児童育成計画	児童福祉の白亜館会議	市民オンブズマン	社会資源そのものに関する問題
慈善博愛連盟	実質賃金	指導援助	児童福祉法以外の広義の児童福祉に於ける児童の教育	市民教育	社会資源という言葉
自然発生関係	実習教育	児童買春	児童福祉法に於ける児童の教育	市民・行政協働型ソーシャルアクション	社会資源の概念
慈善病院	実習生指導	児童家庭支援センター	児童福祉法施行令・施行規則	「市民協同」	社会資源の開発
慈善法（慈善的信託に関する法）	実証科学	児童虐待に関する立入調査、警察官の援助	児童福祉法第24条改正	市民権運動	社会資源の活用
自然法思想	実証教育	児童虐待の早期発見義務	児童福祉法第25条	市民公益団体	社会資源の活用・動員
視線を合わせること	実証主義的科学論	児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）	児童福祉法第28条	市民相談所	社会市場
児童生活支援員	実証主義的メタ理論	児童虐待の防止等に関する法律	児童福祉法第29条による立入調査	民族至上主義的な前提	社会システム理論
児童福祉司	実証主義的理論	児童虐待防止協会	児童福祉法第27条	市民のアドボカシー	社会指標
持続可能な開発	実証主義哲学	児童虐待防止協会（大阪）	児童福祉法における機関	市民の権利擁護	社会資本
持続性睡眠療法	実証的あるいは科学的志向	児童虐待防止事業所長	児童福祉法要綱案	市民評価	社会資本論
持続的支援手続き	実証的臨床実践	児童虐待防止法（昭和8年）	児童福祉法6法	事務局	社会集団
自尊感情	実績主義	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法第27条	SYMLOG	社会主義
自尊心	実践概念の基本	児童虐待防止法（昭和8年）	児童福祉法における機関	使命	社会主義的
死体解剖保存法	実践活動システム	児童虐待防止法（昭和8年）	児童福祉法の禁止行為	使命追求型アプローチ	社会状況
身体虚弱児	実践過程原理	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	諮問機関	社会進化論
死体検案	実践機関レベルでの活動過程システム	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	シャウプ勧告	社会診断（アセスメント）
死体取扱規則	実践記録	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会	社会診断の原則
肢体不自由児	実践現場	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会医学	社会診断の目的
肢体不自由児施設（入所・通所）	実践原理	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会階層	社会診断論
肢体不自由児通園施設	実践原理のモデル	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会改良の統合	社会進歩
私宅監置	実践主体	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会科学	社会心理学
自治会・町内会	実践・政策調整過程	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会科学的立場	社会心理学的視点
自治公民館法	実践的	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	「社会科学のための統計パッケージ」	社会ステーション
自治事務	実践的有意	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会学習	社会性
シチズン・アドボカシー	実践としての社会福祉	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会学とソーシャル・ワーク	社会生活技術訓練
自治会	実践の従属化	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会活動志向グループ	社会生活技能訓練法
自治体社会福祉センター	実践のためのケース研究（事例検討）	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会から付託された使命	社会生活上の基本的要求
自治体内分権化	実践の非効果性	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会環境条件	社会生活能力
自治体に働く保健師のつどい（全国保健師活動研究会）	実践場面における倫理的責任	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会関係の視点	社会政策学会
七分金積み金制度	実践パラダイム	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会関係の客体的側面	社会政策・社会的サービス
市町村社会福祉協議会	実践部門	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会関係の欠損	社会政策立案
市町村障害者計画	実践方法の役割特徴	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会関係の主體的側面	社会政治的統制の尺度
市町村障害者社会参加促進事業	実践領域	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会関係の不調和	社会成熟度検査
市町村障害者生活支援事業	実存主義個別援助技術	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会関係の要因	社会制度としての社会福祉
市町村職員共済組合法	実存主義的アプローチ	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会関連性	社会性
市町村相互財政安定化事業	実存主義的ケースワーク	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会規範	社会生活技能
市町村相互財政安定化事業（介護保険）	実存的危機	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会救済（公的扶助）に関する覚書（通称SCAPIN775）	社会生活技能訓練法
市町村地域福祉計画	実存的思索	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	「社会救済」（GHQ覚書）	社会生活上の基本的要求
「市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉計画策定指針のあり方について（一人ひとりの地域住民への訴え）」	実存分析	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会救済に関する覚書	社会生活能力
市町村地域福祉計画	実体概念	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会教育	社会政策学会
策定指針のあり方について（一人ひとりの地域住民への訴え）」	実体的権利	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会教育委員	社会政策・社会的サービス
市町村老人保健福祉計画	失対労働者	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会教育活動	社会政策立案
市町村障害者生活支援事業	実地調査	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会教育主事	社会政治的統制の尺度
	質的調査法	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会教育法	社会成熟度検査
	質的データ	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会教育法改正	社会制度としての社会福祉
	質的変数	児童居宅介護等事業（ホームヘルプサービス事業）	児童福祉法の禁止行為	社会局	社会性
		児童手当（スウェーデン）	自費患者	社会距離	社会生活技能

社会適応訓練	社会的理想主義	社会福祉協議会組織の基本要綱及び構想	社会福祉政策論	社会扶助	除
社会適応の障害	社会的連帯感	社会福祉協議会の運営管理	社会福祉専門職業従事者	社会復帰	就学権
社会的介護	社会統計	社会福祉協議会の運営管理	社会福祉専門職制度	社会復帰施設・制度	就業構造
社会的介入	社会統計	社会福祉協議会の運営管理	社会福祉専門職の機能	社会復帰（精神障害者）	就業構造基本調査
社会的学習法	社会統制	社会福祉行政	社会福祉専門職の二律背反性	社会文化的感受性	就学困難な児童及び生徒に係る就学援助について
社会的学習理論	社会の開発的業務	社会福祉行政機関	社会福祉相談指導専門員	社会文化的供給	の国の援助に関する法律
社会的価値観	社会の責務	社会福祉行政における措置	社会福祉（地域福祉）計画の技術	社会変革	修学資金
社会的慣行	社会の発見	社会福祉行政の組織運営	社会福祉（地域福祉）計画の技術	社会変革運動	就学支度資金
社会的技能	社会場面	社会福祉計画の経緯	社会福祉調査研究の対象	社会変革活動	就学指導委員会
社会的機能の強化	社会病理	社会福祉計画（技術）	社会福祉調査の基本的性格	社会法	就業人口
社会的機能不全	社会不安	社会福祉計画法（技術）	社会福祉調査（ソーシャルワーク・リサーチ）	社会防衛	自由記述
社会的共同	社会福祉 6 法体制	社会福祉計画法（ソーシャルワークフェア・プランニング）	社会福祉調査の技法	社会奉仕	終期評価
社会的共同消費手段	社会福祉運営	社会福祉計画法（ソーシャルワークフェア・プランニング）	社会福祉調査の技法	社会保険関連施策	週休制
社会的ケア・ネットワーク	社会福祉運営管理技術（ソーシャル・アドミニストレーション）	社会福祉計画法（ソーシャルワークフェア・プランニング）の技術過程	社会福祉調査の技法	社会保険行政不服審査制度	宗教
社会的権威	社会福祉運営（経営）管理	社会福祉固有の対象領域	社会福祉調査法（ソーシャルワーク・リサーチ）	社会保険主義	従業員援助プログラム
社会的権利	社会福祉運営法	社会福祉サービス供給組織の多元化	社会福祉調査法（ソーシャルワーク・リサーチ）	社会保険診療報酬支払基金	宗教的志向
社会的交換	社会福祉運営法（ソーシャルワークフェア・アドミニストレーション）	社会福祉サービスに関する評価	社会福祉調査法（ソーシャルワーク・リサーチ）の技術過程	社会保障法	終局段階
社会的孤立	社会福祉援助活動過程	社会福祉支援システム維持・強化の原則	社会福祉における主体	社会保障関係法	終局目標
社会的コンテクスト	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）	社会福祉支援システム介入の原理	社会福祉の援助	社会保障関係法	住居費負担
社会的支援	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本原則	社会福祉支援システム開発の原理	社会福祉の価値・理念	社会保障関連施策	住居法
社会的支援研究	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉支援システムと関連システムの連携・調整の原則	社会福祉の機能	社会保障給付費	就学支援安婦問題
社会的支援システム・アプローチ	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の場	社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉の基本認識	社会保障権	終結期（個別援助技術）
社会的支援システム理論	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の体系	社会福祉士国家試験	社会福祉の行政	社会保障憲章	終結期（集団援助技術）
社会的支援ネットワーク・アプローチ	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の経営・運営と計画の技術	社会保障原則	終結段階
社会的資源	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等	社会保障綱領	終結と移行
社会的事故	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障裁判	終結の理由
社会的事象	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障改革	集合体
社会的システム	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障審議会	重厚長大・軽薄短小
社会的システム・セラピー	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 50 年勧告	集会的表象
社会的疾患	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 62 年勧告	自由最大化状況
社会的弱者	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	自由裁量時間
社会的承認	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	周産期死亡率
社会的処遇の方法やパターン	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	周産期障害
社会的諸サービス	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	州慈善局
社会的診断	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	自由（自発性）
社会的正義	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	自由主義
社会的・政治的アプローチ	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	重症筋無力症
社会的生命	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	重症心身障害児（者）通園事業
社会的責任	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住所地特例
社会的責任論	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	終身雇用
社会的側面	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	終身年金・有期年金
社会的損失論	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	自由診療
社会的立場	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	従属人口指数
社会的地位	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	従属人口／従属人口指数
社会的治療	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	従属変数の操作化
社会的適応	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	収束モデル
社会的動物	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅安全基準
社会的な解放（人的資源の開発）	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅改修
社会的な場	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅改良・改善制度
社会的に機能する能力	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅協会
社会的認知	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅組合法
社会的ネットワーク・アプローチ	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅憲章
社会的ネットワーク・インターベンション	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅政策
社会的ネットワーク資源	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅調査
社会的ネットワーク・セラピー	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅と個別ケア
社会的能力	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅問題
社会的能力の獲得と発揮	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	住宅問題援助
社会的排除	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助活動
社会的ハンディキャップ	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の意義
社会的比較	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の基礎
社会的平等	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の構造
社会的扶養	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の定義
社会的不利／ハンディキャップ	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の定義（コノブカ）
社会的・文化的障害	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の定義（ニューステッター）
社会的文化的態度	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の展開過程
社会的ミニマム	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術の発展
社会的問題	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の基本的枠組み	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助技術のモデル
「社会的役割」	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の専門分類	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助者
「社会的役割」の概念	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の分野	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助の原則
社会的欲求	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の領域	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団援助の展開過程
社会的力動	社会福祉援助活動（ソーシャルワーク）の概念	社会福祉士試験・登録	社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律	社会保障制度審議会 95 年勧告	集団開業
	社会福祉（機能）の拡大	社会福祉政策策定	社会福祉政策策定	社会福祉政策策定	集団解体期
					集団間比較実験計画法
					集団形成期
					集団効力：ソーシャルサポート
					集団システム
					集団実験方式

集団就職	主観的効果測定 of 技術	純粋性	障害者対策に関する新長期計画	小規模保育所	小範囲アプローチ
集団処遇	主観的認識としてのアプローチ	純粋性の保持	「障害者対策に関する新長期行動計画」	上級政策提携者	消費者
集団処遇の基本原理		準専門的援助者	障害者対策に関する新長期計画	上級ソーシャルワーカー	消費者運動
集団処遇の展開過程	恤救規則	準備	障害者に対する公共料金の割引	上級調査研究員	消費者教育
集団心理学	受給資格審査ワーカー	準備段階	障害者に対する非課税措置	状況介入	消費者契約法
集団心理療法	受給者の保護	ジョイン	障害者による自立生活運動	状況の把握	消費者主義
集団成熟期	儒教と地域福祉（韓国）	ジョイント・ワーク	障害者の認定制度	状況分析	消費者保護
集団相互関係	熟達一有能性	ジョイント・ワーク	障害者の年金	消極的自由論	消費者保護基本法
集団疎開	熟練過程	傷痍軍人強制雇用法	障害者の介護課題	消極的な利用者	消費者保護行政
集団的安定過程	熟練した児童ケースワーカーの養成	「消費者側の権利」	障害者の機会均等化に関する基準規則	常勤（フルタイム）	消費税
縦断的調査	受験戦争	昇華	障害者の参政権保障	条件刺激	情報
集団的方法	集合的ニーズ	浄化	障害者の人権	条件反応	情報開示請求
集団的役割	授産	紹介	障害者の住みよいまちづくり推進事業	小産小死	情報化社会
集団討議	授産事業	障害概念	「障害者の生活圏拡大運動」	少子・高齢化	情報公開審査会
集団としての秘密保持	授産施設（社会就労センター）	障害関係 3 審議会意見具申	障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会（障全協）	少子高齢社会	情報公開の原則
集団との作業技法（メゾ・スキル）	授産施設相互利用制度	障害給付	障害者の生と性の研究会	小舎制	情報公開法
集団の過程	主治医	生涯ケア	障害者のための治具・治工具	使用者責任	情報交換制度
集団発展期	授産所	障害厚生年金	障害者の定義	小集団	情報・資源処理システム
集団比較実験計画法	瞬時のアセスメント	障害個性論	障害者の働く場の保障	小集団処遇	情報社会
集団比較実験計画法の手順	主唱者・開発者	障害児教育	障害者の日	小集団心理学	情報弱者
集団プレイセラピー	受診援助	障害児総合通園センター	障害者のレクリエーション	小集団討議	情報収集とアセスメント
集団力動	受診・受療援助	障害児通園事業	障害者のレクリエーション	小集団としてのワーク（メゾ・レベル実践）	情報収集の技術
集中的ケースワーク治療	主成分分析	障害児通園（デイサービス）事業	障害者の白書	常習的被援助者	情報提供機能
集中的パターン	主体形成	障害児通園（デイサービス）事業	障害者福祉ケースワーク	情緒障害	情報提供者
集中的瞑想法	主体性への援助	障害児に関する事務（権限）の市町村委譲	障害者福祉サービス	少数民族	情報提供・情報公開
柔道整復師	主体性の条件	『障害児のための動作法』	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族の貧困・教育問題	情報提供・情報収集
自由党の改良	主体的側面	障害者アートバンク	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報提供の技法
重度障害児・者日常生活用具給付等事業	主体的展開化	障害者アートバンク	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報デバインド
重度障害者医療費助成制度	主題統覚検査	紹介者（アプリケーション）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報に関する問題
重度障害者他人介護料	主体の形成（エンパワメント）	障害者援助サービス法（スウェーデン）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報ニーズ
重度障害者法（ドイツ）	受託義務	障害者基本計画	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報による支援
重度心身障害児	手段	障害者基本法（イタリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報認識
重度心身障害児・者日常生活用具給付等事業	集団援助技術	障害者基本法（フランス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報ネットワーク
重度身体障害者日常生活用具給付等事業	集団処遇	障害者ケアマネジメント	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報の階層化の技術
自由な面接	手段的 ADL	障害者更生資金	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報の加工の技術
12 ステップ・グループのメンバー	手段的日常生活動作	障害者・高齢者差別（虐待）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	「情報の公開」
収入額（ネット）	主張	障害者雇用支援センター	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報の固定性
収入調査	主張する	障害者（雇用）法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報の根拠確認の技術
収入認定控除	恤救法案・救済税法案	障害者雇用率	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報の政策化の技術
修復的司法	出向	障害者サービス法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報の整理
習癖クリニック	出獄者保護事業	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報のバリア
自由保育	出産育児一時金	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情報のモデリング
自由放任主義	出産祝い金	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情緒及び情動の発達
銃暴力防止管理者	「出産外傷学説」	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情緒障害児短期治療施設
住民運動	出産扶助金	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	との協働
住民関係把握の技術	出生前検査（診断）	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情緒的サポート
自由民権運動	出生前診断	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情緒的能力
住民互助グループ	出入国管理及び難民認定法	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情緒的欲求
住民サイドの福祉	主導権争い	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情緒による支援
住民参加型在宅サービス団体	主任児童委員	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情緒の安定
住民参加型団体	主民加型在宅福祉サービス団体	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	焦点をあてた質問
住民参加の援助	主民参加	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	焦点をあてられた問題
住民集会	腫瘍科ソーシャルワーカー・コーディネーター	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	常同行動
住民主体	受容体験	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情動失禁
住民組織	受容的交流療法	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	小頭症
住民組織化説	受容的態度	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	常同性
住民団体	受容的な知覚作用	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	衝動統制
住民団体の診断マニュアル	受容的モード	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情動反応
住民の福祉理解を高める技法	受理アセスメント	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	小児科医
住民福祉教育計画	受理面接（インテーク面接）	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	小児成人病
集約的効果測定	種類支給限度基準額（居宅介護サービス費種類支給限度基準額）	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	小児マヒから子どもを守る運動
集約的効果測定の方法	手話	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	小児慢性特定疾患
重要な他者	循環円フィードバック過程	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	小児慢性特定疾患治療研究事業
収容保護	循環過程	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	承認
自由連想	循環的因果論	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	承認の欲求
就労意欲	循環的關係	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	情熱
就労援助	準禁治産者	障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年院法
就労問題援助	準言語	障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年救護法
受益者負担		障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年警察
主観的価値		障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年警察活動要綱
主観的感覚経験		障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年検察
主観的経験		障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年司法国連準則
		障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年少女組織を育てる全国センター
		障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年審判所
		障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年保護観察
		障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年保護事業
		障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年補導
		障害者差別禁止法（オーストラリア）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	少年補導センターとの連携
		障害者差別禁止法（イギリス）	障害者福祉サービスの利用制度化	少数民族問題	携

職業能力開発促進法	システム理論	新自由主義	身体障害者用物品の非課税（消費税）	心理社会療法モデル	ストレスの交互作用モデル
職業病	シルバータウン	人種差別撤廃条約	身体障害者福祉司	心理主義	ストレスマネジメント
職業病の認定基準	シルバーピア	身上看護	身体障害者福祉法	心理的援助	ストレス免疫訓練
『職工事情』	シルバーマーク	臨床ソーシャルワークの機能	身体・精神状態	心理的供給	ストレンクス
食事介助	事例記録	寝食分離	身体像	心理的距離	ストレンクス・アプローチ
処愚指針	事例検討	心身障害者施設との協働	身体的言語	心理的孤立	チ
職親委託	事例検討会	心身障害児（者）団体用郵便物（低料第三種郵便物）	身体的自立	心理社会的問題	ストレンクスモデル
直接療法	事例集	心身障害者世帯向公営住宅	身体的能力	心理的・精神的自立	ストローク
触媒モデル	事例調査の手順	心身障害者対策基本法第25条	身体の欠損	心理的側面	素直さ
職場グループ	事例調査の特質	心身障害者福祉作業所・生活実習所	『身体心理学』	心理的抵抗	スーパーエゴ
職場研修	事例調査の特徴	心身障害者福祉施設	身体表現性障害	心理的適応	スーパーバイザーの課題
職場適応訓練	事例法	心身障害者福祉の専門機関	身体を使って表現すること	心理的ニーズ	スーパーバイザーの仕事
食品添加物	事例レベルの評価	心身障害者福祉の専門機関	診断・計画・活動内容の妥当性	心理的結びつき	スーパーバイザーの職責
助言者（スーパーバイザー）	事例レベルの評価	心身障害者福祉の専門機関	診断主義学派（ニューヨーク学派）	心理的問題	スーパーバイザーの役割
助言者（コンサルタント）	死を迎える患者	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	心理的リハビリテーション	スーパーバイザーの養成
助言する	寝衣交換	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	心理判定	スーパーバイザーへの依存
助産師	心因性精神障害	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	診療協力職（コ・メディカルズ）	スーパーバイザー連絡協議会
助産所	心因反応	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	診療所	議会の設立の必要性
諸資源をもつ多様な諸システム	身体障害者相談員	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	診療放射線技師	スーパーバイザー
女子差別撤廃条約	「人格決定論」	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	診療報酬の改定	スーパーバイザー
女子保護規定	人格検査（性格検査）	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	診療報酬の通減制	スーパーバイザー
諸宗派、諸党派の原則	人格性	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	心理リハビリテーション資格	スーパーバイザー
叙述記録	人格的影響力	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	心理療法志向のソーシャルワーク	Supervision in social Casework
助成団体	人格的接触	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	心理療法の期間	スーパーバイザー関係
女性の年金権	人格的相互作用	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	進路指導	スーパーバイザー訓練
ジョセフクシケースワーク	人格的欲求	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	神話	スーパーバイザー研修
所属意識	人格変化	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	遂行	スーパーバイザー構造
所属機関中心のソーシャルワーク	新規事業の計画立案役割	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	水上生活者	スーパーバイザーシステム
所属組織のアセスメント	心気症	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	推進組織の体制強化	スーパーバイザー（指導監督法）
所属と愛の欲求	信教の自由	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	推測統計	スーパーバイザー（指導監督法）の技術過程
処置	シングルサブジェクト・デザイン	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	推測統計学	スーパーバイザーと記録
所長補佐	シングル・システム調査法（単一事例実験計画法）	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スイッチ OTC 薬	スーパーバイザーの意義
食管法違反事件	デザイン	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	水頭症	スーパーバイザーの管理
「職権保護」	神経言語プログラミング理論（NLP）	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	水難救護法	要素
初等教育法	新経済社会7ヵ年計画	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	随伴性刺激	スーパーバイザーの技法
所得援助	神経症的な傾向のクライエント	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	水平派『人民協約』	スーパーバイザーの形態
所得再分配	神経症的な登校拒否症	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	髄膜炎	スーパーバイザーの構造
所得税	神経症（ノイローゼ）	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	睡眠障害	スーパーバイザーの視点
所得制限	神経性大食症	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スウェーデン・モデル	スーパーバイザーのセラピー要素
所得政策	神経性無食欲症	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	数値記入回答形式	スーパーバイザーの発展
所得倍増計画	神経意識	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	枢密院	スーパーバイザーのプロセス
所得補助	人権意識	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スクリーニングシステム	スーパーバイザーの方法
所得保障制度	親権者	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スクールカウンセリング	スーパーバイザーの問題・課題
所得補助制度（アメリカ）	人権侵害	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スクール・ソーシャルワーク	スーパーバイザーをしていく上での一般原則
ショートステイ事業／老人短期入所事業	人権宣言	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	図：ケアマネジメントの過程	スピリチュアルニード
「所内面接」	親権喪失宣告	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スケーリング・クエスション	スピーナムランド制度
ジョハリの窓	親権喪失宣告の請求	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スケルトン・マップ	図表化
除蔽的解釈	人権尊重の原理	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	図式化（エコマップ）	図表式
処方のニーズ	親権停止	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スタグフレーション	スプラシステム
初老期の痴呆	人件費補助方式	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スタッフの能力開発	スペシフィック・アプローチ
私立営利部門	人権擁護	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スタディ方式ケース研究	スペシャリスト・ワーカー
私立学校教職員共済組合	人権擁護委員会	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	図：WHO 国際障害分類	すべてのケースワーカー
私立学校教職員共済組合（長期）	人権擁護システム	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	改訂版（ICF）における「障害」の概念	棲み分け理論
自律機能	賑給	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スタン	アプテカーによるケースワークの解説
自立支援の原則	人口喉頭	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スタンダードモニタリング（標準的モニタリング）	スモン訴訟
自立・自助の精神	人工肛門	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スチューデント・スーパービジョン	性悪説
自立準備段階	人工呼吸器	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スティグマ（恥辱）	生育史
自律性	進行性筋萎縮症者療養等給付事業	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	スティグマ化	生化学的抑うつ症
自立生活が困難な人	進行性筋ジストロフィー	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	捨て子（棄児）	性格異常
自立生活支援	人口動態	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	すてっぷ	生態学的視座
自立生活の概念	人口動態統計	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	ステレオタイプ語	性格障害
自立生活プログラム	人口の高齢化	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	ストーリー	性格類型
自立生活保障サービス	人口膀胱	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	ストリート・チルドレン	生活支援型援助
自立性対羞恥心	人口問題	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	ストリート・レベル官僚	生活援助員常駐型
自律的機能	新国民生活指標	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	ストレスコーピング・パラダイム	生活援助型給食サービス
自立的ニーズ	新古典派経済学	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ	ストレス・ディブリーフィング（C. I. S. D）	生活型施設
自立の助長	『人口論』マルサス	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		生活環境施設
自立ホーム	新婚期	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
私立予備感化院	審査請求	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
自立（律）性	審査請求前置主義	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
施療院	診察・医学的検査	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
資料収集	新産業都市	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
資料収集技法	人事管理	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
資料収集	人事考課制度	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
資力調査（ミーンズ・テスト）	新社会サービス法	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		
	新・社会福祉協議会基本要綱	心身障害者福祉の専門機関	診断主義的アプローチ		

生活関係の質	決の目標	精神障害者ケアガイドライン	精神保健センター	政府の失敗	ゼネリック・アプローチ
生活関連動作	生活モデルの実践過程	イン	精神保健ソーシャルワーカー	性別役割分業	セーフティネット
生活技術の自立	生活様式	精神障害者社会復帰促進事業	精神保健ニーズ	生命・生活の質	セマウル運動（韓国）
生活機能訓練	生活欲求	精神障害者小規模作業所	精神保健福祉	生命の価値	施薬院
生活協同組合	生活療法	精神障害者職業訓練員	精神保健福祉士協会倫理綱領	生命表	セラピー（精神療法）
生活共同組合（生協）	生活臨床	精神障害者ジョブガイダンス事業	精神保健福祉対策	制約性	セラピスト相談助言役
生活協同組合のくらしの助け合い活動	請願	精神障害者対策	「精神保健福祉法」	生理的欲求	セラピストの3条件
生活空間の質	請願権	精神障害者担当職業相談員	精神保健福祉法、精神保健法	政令	セラピューティック・レクリエーション
生活訓練事業	正規分布	精神障害者地域生活援助事業	精神保健福祉ボランティア講座	世界アルツハイマーデー	セラピューティックレクリエーション・サービス・モデル
生活型施設	生協	精神障害者地域生活援助事業（グループホーム）	精神保健福祉ボランティア講座	『世界子供白書』	セラピューティックレクリエーション体系
生活圏	生計費指数	精神障害者通院医療費公費負担制度	精神保健福祉ボランティア講座	世界社会開発サミット	セルフアイデンティティ
生活圏域	制限診療	「精神障害者と精神薄弱者に対する白書」	精神保健福祉ボランティア講座	世界女性会議	セルフアクション型ソーシャルアクション
生活困窮	制限複数回答形式	精神障害者の自己決定を尊重した援助活動	精神保健福祉ボランティア講座	世界人権宣言第22条	セルフ・アドボカシー運動
生活困窮状態	聖公会ソーシャルワーク会議	精神障害者の「生活のしづらさ」	精神保健福祉ボランティア講座	世界保健機関憲章（WHO憲章）	セルフ・アンカード測定法
生活支援型食事サービス	精査	精神障害者の長期入院化	精神保健福祉ボランティア講座	世界保健機構（WHO）による障害者分類	セルフエフェカシー
生活支援システム	政策アジェンダ	精神障害者の定義	精神保健福祉ボランティア講座	世界保健機構（WHO）生活場面面接	「セルフ・ケア・モデル」
生活支援地域福祉活動事業	政策活動	精神障害者保健福祉センター	精神保健福祉ボランティア講座	セカンド・オピニオン	セルフコントロール行動療法
生活支援ワーカー	政策過程	精神障害者保健福祉手帳制度	精神保健福祉ボランティア講座	セカンドサイバネティックス理論	セルフコントロール法
生活時間	政策形成のレベル	精神障害者保健福祉手帳制度（精神保健福祉手帳）	精神保健福祉ボランティア講座	赤十字社	セルフヘルパー
生活時間の質	政策決定過程	精神障害者保護者制度	精神保健福祉ボランティア講座	世界人権宣言	「セルフヘルプ・オーガニゼーション」
生活資金	政策公準	精神障害の特性	精神保健福祉ボランティア講座	脊髄損傷	セルフヘルプ・クリアリングハウス、「セルフ・ヘルプ・グループ」、
生活システムにおける相互作用の変化	政策策定システム	精神身体医学	精神保健福祉ボランティア講座	責任	セルフ・ヘルプ・グループ、
生活実調査	政策主体	成人ディケアの責任者	精神保健福祉ボランティア講座	責任（応責）性	セルフ・ヘルプ・グループ
生活の質	政策的福祉サービス	精神的	精神保健福祉ボランティア講座	責任転嫁禁止原則	セルフ・ヘルプグループ
生活者としての全体性	政策論	精神的外傷	精神保健福祉ボランティア講座	関根訴訟	セルフヘルプ・グループ（イギリス）
生活周期	清拭	精神的機制	精神保健福祉ボランティア講座	責務（アカウントビリティ）	（セルフヘルプ・グループの初期の段階で必要とされる）リーダーシップの資質
生活障害児童	性指向	精神的虐待	精神保健福祉ボランティア講座	赤面恐怖症	セルフヘルプ・グループのソーシャルアクションの方法
生活障害	誠実	精神的態度	精神保健福祉ボランティア講座	施行	セルフヘルプ・グループのメンバー
生活上の問題	政治的活動	精神的に健康な人	精神保健福祉ボランティア講座	セクシュアリティ	セルフヘルプ・グループのリーダー
生活上の諸問題（ヒューマン・プロブレム）	政治的技術	精神的疲労	精神保健福祉ボランティア講座	セクシュアル・ライツ	セルフヘルプの原理と方法の具体化
生活場面接	脆弱性	精神統合	精神保健福祉ボランティア講座	セクシュナリズム	セルフリアクション型ソーシャルアクション
生活史（ライフ・ヒストリー）	成熟期	精神内界の要因	精神保健福祉ボランティア講座	セスルメントーケアプラン	世話人
生活水準	正常な共生	精神薄弱児施設	精神保健福祉ボランティア講座	世帯	善意銀行
生活水準の質	正常な自閉	精神薄弱児通園施設	精神保健福祉ボランティア講座	世代	前意識
生活ストレス	正常な人格	精神薄弱者更生施設	精神保健福祉ボランティア講座	世代関係図	船員保険法
生活ストレス図式	青少年団体	精神薄弱者通学施設	精神保健福祉ボランティア講座	世代間交流	全英ソーシャルワーカー協会
生活と健康を守る会	青少年団体運動	精神薄弱者相談員	精神保健福祉ボランティア講座	世代更正資金貸付制度	全額法
生活年齢	青少年保護育成条例	精神薄弱者通勤寮	精神保健福祉ボランティア講座	世帯所得補足	前期高齢者・後期高齢者
生活の個性	生殖家族	精神薄弱者福祉司	精神保健福祉ボランティア講座	積極的アプローチ	先行研究
生活の質（QOL）	精神	精神薄弱者福祉法（昭和35年）	精神保健福祉ボランティア講座	積極的傾聴	全国学童保育連絡協議会
生活の社会化	精神医学	精神薄弱者福祉ホーム	精神保健福祉ボランティア講座	積極的自由論	全国学校ソーシャルワーカー協会
生活の地域性	精神医学ソーシャルワーク（PSW）	精神発達遅滞	精神保健福祉ボランティア講座	積極的選別	全国公害患者の会連合会
生活場面面接アプローチ	精神医学的分野	精神病院	精神保健福祉ボランティア講座	積極的労働市場政策	全国公私病院連盟
生活福祉資金貸付制度	精神医学的観点	精神病院のソーシャルワーカー（PSW）	精神保健福祉ボランティア講座	接近権	全国厚生農業協同組合連合会（全国厚生連）
生活福祉相談	精神医学的ケースワーク	精神病患者	精神保健福祉ボランティア講座	接近困難家族	全国公的扶助研究会（公扶研）
生活扶助基準（1、2類）	精神医学的視点	精神病患者の保護及び精神保健ケアの改善のための原則	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	全国里親会
生活防衛	精神医学的・心理学的アプローチ	精神分析学	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	全国慈善強制会議
生活保護「適正化」	精神医学的療養	精神分析技法	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	全国自治体病院協議会
生活保護監査	精神医学における第三次革命	精神分析グループ療法	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	全国児童相談研究会（児相研）
生活保護ケースワーク	精神医療審査会の役割・機能	精神分析者	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	全国児童養護問題研究会（養問研）
生活保護裁判全国連絡会	精神衛生／集中的保護観察カウンセラー	精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	全国手話通訳問題研究会（全通研）
生活保護実施要領	精神衛生法改正	精神病床利用率	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	全国障害者問題研究会（全障研）
生活保護指定医療機関	精神衛生法の一部改正（1965年）	精神病院機能分化	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護制度の改善強化に関する勧告	精神科疾患	精神分析学派	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護専門分科会	成人期	精神分析技法	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護ソーシャルワーク	成人教育運動	精神分析グループ療法	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護の加算	「成人教育に関するハンブルグ宣言」	精神分析者	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護の原則	精神疾患の診断と分類マニュアル（DSM-IV）	精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護の原理	精神障害回復者等に対する職場適応訓練	精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護の種類	精神障害者社会適応訓練事業（通院患者リハビリテーション事業）	精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護費の算定方法	精神障害者居宅生活支援事業	精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護不正受給	精神障害者グループホーム	精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護法施行細則		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護法（昭和21年）		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護法（昭和25年）		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保護法の実施機関		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保持義務		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活保持義務・生活扶助義務		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活ホーム		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活モデルアプローチ		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活モデルによる実践		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活モデルによる七つの実践機能		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	
生活モデルによる問題解		精神分析者の役割	精神保健福祉ボランティア講座	摂食障害プログラム／行動医学プログラム研究員	

全国自立生活センター協議会	選択定年制 選択的知覚	専門職的自己活用 専門職としての自己	相互作用者 相互作用の技術	組織化活動 組織学習	ソーシャルブランニング (社会福祉計画法)
全国私立保育園連盟	選択的メカニズム	専門職としてのソーシャルワーカーの国際倫理綱領	相互作用媒介的アプローチ	組織活動 組織化の原則	ソーシャル・ロール・パ ロリゼーション
全国腎臓病協議会	選択の原理	専門職としての倫理	相互作用／媒介モデル	組織／環境的アプローチ	ソーシャルワーカー・アイ デンティティ
全国心臓病の子供を守る会	センター方式 センチメント	専門職としての倫理的責任	相互作用論	組織実践	ソーシャルワーカーが所 属する機関・施設
全国生活と健康を守る会連合会(全生連)	全訂田中ビネー式知能検査	専門職としての倫理的責任	相互支援グループ	組織者(オーガナイザー)	ソーシャル・ワーカー志 向原理
全国精神障害者家族会連合会(全家連)	宣伝	専門職の価値	相互受容	組織・団体の援助技術	ソーシャルワーカー自身 の自己覚知
全国精神障害者団体連合会(全精連)	先天代謝異常 先天性代謝異常等検査	専門職の女性化	相互性	組織的および環境的アプローチ	ソーシャルワーカー／接 近技法と教育
全国背髄損傷者連合会(全脊連)	全日自労(全日本自由労働組合)	専門職の保護	相互評価	組織内コラボレーション	ソーシャルワーカー中心 のアプローチ
全国総合開発計画	全日本視覚障害者協議会(全視協)	専門職の擁護	相互扶助(欧米)	組織の自己覚知	ソーシャルワーカーの開 業(プライベート・プラク ティス)
全国ソーシャルワーク会議	全日本私設社会事業連盟	専門職の倫理	相互扶助の共同事業	組織の連携化と人間の連 帯化	ソーシャルワーカーの価 値と倫理の展開
全国地域組織連盟	全日本施設社会事業連盟	専門職モデル	相互扶助(連帯的自立)	ソーシャル・サポート・ネ ットワーク	ソーシャルワーカーの基 本的知識
全国地域福祉問題研究会(地域研)	全日本年金者組合	専門性評価	相互扶助(連帯的自立)	ソーシャル・ニーズ	ソーシャルワーカーの資 格
全国難病団体連絡協議会(全難連)	全日本病院協会	専門相談	相互理解	ソーシャルアクション志向グループ	ソーシャルワーカーの使 命
全国ハンセン病療養所入所者協議会(全療協)	全日本民主医療機関連合会(全日本民医連)	専門チャート	操作化	ソーシャルアクション(社会活動法)	ソーシャルワーカーの重 要な役割の一つ
全国福祉保育労働組合	全米結婚・家族療法協会	専門調査員	総収入額(グロス)	ソーシャルアクションの展開過程	ソーシャルワーカーの職 務
全国保育士会	全米黒人ソーシャルワーカー協会	専門的アイデンティティ	争訟権	ソーシャルアドミニスト レーション(社会福祉運 営管理法)	ソーシャルワーカーの専門性 と資質
全国保育団体連絡会(全保連)	全米慈善・感化会議	専門的援助関係過程重視	相称性	ソーシャルウェルフェ ア・アドミニストレーシ ョンの技術過程	ソーシャルワーカーのデ ィレンマ
全国保育問題研究協議会	全米慈善・矯正会議	専門的援助者	相乗平均(幾何平均)	ソーシャルウェルフェ ア・プランニングの技術 過程	ソーシャルワーカーの問 題の設定における留意点
全国訪問教師協会	全米慈善組織協会	専門的職業従事者	創設時所長 想像	ソーシャル・エクスクル ージョン	ソーシャルワーカーの役 割と技能
全国保険医団体連合会(保団連)	全米社会福祉会議	専門的支援関係過程重視の原理	「創造的学習」 創造的思考	Social Exclusion Unit	ソーシャルワーカー(養 子縁組)
全国民間団体協議会(イギリス)	全米精神医学ソーシャルワーカー協会	専門的実践	相対格事由	ソーシャル・グループワ ークの方法	ソーシャルワーク・アク ション
全国有料老人ホーム協会	全米セツルメントおよび ソーシャル・アクション・ センター協会	専門的対人関係	相対主義	ソーシャル・ケース・ワー クとは何か	ソーシャルワーク・アセ スメント
全国老後保障地域団体連絡協議会(全国老地連)	全米セツルメント連盟	専門的な援助関係	相対性理論	ソーシャル・ケースワー クにおけるカウンセリング	ソーシャル・ワーク・イ ンターベーション
全国老人福祉施設協議会(老施協)	全米ソーシャルワーカー協会(NASW)	専門的な援助目的	相対的過剰人口	ソーシャル・サービシー ズ	ソーシャルワーク援助実 践
全国老人福祉問題研究会(老問研)	全米ソーシャルワーク会議	専門的な技術	相対的非決定性	ソーシャルサービス事業 開発者	ソーシャル・ワーク概念 の特徴
戦後社会教育	全米精神医学ソーシャルワーカー協会	専門的な知識	相対的貧困	ソーシャルサービス所長 『ソーシャル・サービス のマンパワーのための基 準』	ソーシャルワーク学習 ソーシャルワーク・カリ キュラム
戦後社会福祉改革(フランス)	全米セツルメント連盟	専門分化	相対度数	ソーシャルサポートシス テム開発アプローチ	ソーシャルワーク関係 ソーシャルワーク管理運 営
戦後社会福祉改革(フランス)	全米ソーシャルワーカー協会の倫理綱領	専門分化志向の時代	葬祭扶助	ソーシャルサポートネッ トワーキング、ソシヤ ル・サポート・ネットワ ーク	ソーシャルワーク実践 過程
戦後補償(裁判)	全米ソーシャルワーク会議	専門分化の二つの流れ	相談員(カウンセラー)	ソーシャルサポートネッ トワークづくり	ソーシャルワーク実践に 関する分類基準
ゼンコロ	全米退職者協会	専門分野	相談援助者機能の過程	ソーシャルサポートネッ トワークマップ	ソーシャルワーク実践に 関する分類基準
潜在期	全米病院ソーシャルワーカー協会	専門分野による専門化	相談技法	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャルワーク実践の 作業定義
戦災孤児	全米ブルトリコ系ソーシャル・サービス・ワーカー協会	専門職ワーカ 戦略	相談参加者	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦災孤児等保護対策要綱	全米臨床ソーシャルワーク団体連合会	「戦略的家族療法」 戦略的・組織的作用	相談的機能	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
潜在能力	全米ソーシャルワーカー協会(NASW)	戦略的療法	送致・紹介	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
センサス	全米退職者協会	創意型事業実施	壮年期の介護課題	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦時災害保護法	全米病院ソーシャルワーカー協会	増改築相談員制度	総評(日本労働組合総評 議会)	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦時社会政策	全米ブルトリコ系ソーシャル・サービス・ワーカー協会	臓器移植	層別抽出	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦傷病者戦没者遺族等援護法	全米臨床ソーシャルワーク団体連合会	早期教育	相補交流	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦傷病者戦没者遺族等に対する特別給付金等	選別格付インターテック ディネーター	早期発見・早期治療	相補性	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦傷病者特別援護法	選別主義サービス	臓器バンク	相馬事件	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
全職員参加型スーパービ ジョン	「選別・制限主義」	相互依存	SOUL	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
専心	選別的な制度	総合	早老症(ウェルナー症候 群)	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
全身性エリテマトーデス	全面的更生	総合化	疎外	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
漸進的プログラム経験の 原理	せん妄	総合学習(総合的な学習 の時間)	疎外理論	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
全数調査・一部調査	専門員	総合型	訴願前置主義	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
全制的施設	専門家	総合救済院	遊及適用	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦争孤児(日本)	専門家としての権威	総合支援型社会福祉協議 会	則關主義	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
前操作期	専門化による問題点	総合病院	促進過程	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦争サービス	専門関係	総合評価	促進者	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦争神経症	専門技術者としての役割	総合福祉センター	促進者(ファシリテータ ー)	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
戦争精神障害	専門的基準によるニーズ	総合福祉センター	促進的技術	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
全体的個人	専門職業化	総合理論	測定	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
全体的な更生	専門職業的援助関係	相互影響過程	測定基準	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
「全体としての人間」	専門職業的権威	相互援助	測定の信頼性	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
全体モデル	専門職業的性格	相互援助意識	測定の妥当性	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
選択意思	専門職業に対する倫理的 責任	相互援助モデル	側面からの援助(エネブ ラー)	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
選択回答法	専門職業の価値	相互関連状況	側面的援助の原則	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
選択技法	専門職業の成立要件	相互協力	側面的支援	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
選択性	専門職組織	相互決定主義	ソクラテス学習法	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
	専門職であるための七つ の条件	相互関係	素材	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
		相互関係	ソシオドラマ	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
		相互関係	ソシオノーム	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
		相互関係	ソシオメトリック	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
		相互関係	ソシオメトリック・テス ト	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
		相互関係	組織、地域との作業技法 (マクロ・スキル)	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践
		相互関係	組織化	ソーシャルサポートの調 査	ソーシャル・ワーク実践

の諸方法	クティス	退院問題	対等性・水平な関係性	蛇草保育所事件	団体活動
ソーシャルワーク実践の統合化	ソーシャルワーク・マンパワー	退役軍人サービス	対等な人間関係	多段抽出	団体活動（メンバーシップ・オーガニゼーション）
『ソーシャルワーク実践の分類のための基準』	ソーシャルワーク・メソッド	対外的職務	態度変容	多段抽出法	団体権
ソーシャルワーク実践の原則	ソーシャルワーク・リサーチ（社会福祉調査法）	大学医療センター社会事業部長	0	立入調査	団体交渉権
ソーシャルワーク実践のリアリティ	ソーシャルワーク論	大学院卒業者の資格	対内的職務	タッグマッチ法	団体交渉権
ソーシャルワーク実践モデル	ソーシャルワーク論の特質	大学基準協会「社会福祉学校教育基準」「社会福祉学校教育に関する実施方法について」	第 7 の P	脱工業化	単独開業
ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）	措置会議	学校教育に関する実施方法について」	第 2 号被保険者（介護保険）	脱三角形	単独型
ソーシャルワーク主任	措置権者支弁方式	大勤進養育院	第 2 号被保険者（年金保険）	脱施設化	単独事業
ソーシャルワーク・スパーバイザーⅢ	措置施設	大義	第 2 号被保険者（年金保険）	脱水	単独実践
ソーシャルワーク全国会議（NCSSW）	措置制度から利用制度への転換	待機状況	第二次	達成動機	単独面接
ソーシャルワーク全米会議	措置の解除・停止・変更	第 9 の P	第二次機能	脱退一時金	断片化
ソーシャルワークとハウジング	措置の制度	体系的理論	第二次実践	縦割り福祉行政	治安維持法
ソーシャルワーク・トリートメント	措置変更	対決技法	第二次実践職場	多動児	治安判事
ソーシャルワークにおけるアドボケイト機能	措置（入院）率	体験的知識	第二次実践領域	多頭性の原則	治安モデル
ソーシャルワークにおける海外での機会	措置の解除・停止・変更	体験としての障害	第二次収入	谷間の就労保障	地位
ソーシャル・ワークにおける人間理解	措置の制度	体験の原則	第二次就労部門	他人介護料	地域精神医学／予防精神医学
ソーシャルワークのアプローチ	措置変更	対抗意志	第 2 次のニード	ターニングポイント	地域アセスメント
ソーシャル・ワークの援助技術	ソフトサービス	「対抗逆説」	第二次貧困	他者への否定的感情と緊張	地域医療計画
ソーシャルワークの価値観	ソプラエティー	退行傾向	第二次プロセス	田沼訴訟	地域医療支援病院
ソーシャル・ワークの価値観の原理	ソリューションフォーカス	退行現象	第二次分野の機関	たばこ小売販売業の優先許可	地域医療システム
ソーシャルワークの価値と倫理への 6 つの著しい志向	ソリュージョン・フォーカスト・アプローチ	第 5 の P	第 2 種被保険者	多発性硬化症	地域援助活動
ソーシャルワークの過程	損害賠償との調整（労災保険）	第 3 号被保険者	第二次予防	タビストックアプローチ	地域援助技術の意義
ソーシャル・ワークの基本的構成要素	尊敬	第三者介入	第二次予防と問題の発見を主にしたグループ	WHO	地域援助技術の援助原則
ソーシャル・ワークの基本的視点	損傷	第三者機関	第二序列にあるネットワーク	WHO 憲章	地域援助技術の基礎
『ソーシャルワークの給与』	ソンディテスト	第三者機関（サード・パーティ）	第二次臨時行政調査会	WHO「障害分類修正案」	地域援助技術の機能
ソーシャルワークの共通基盤	村落共同体	第三者的存在	第 2 の P	WHO 国際障害者分類	地域援助技術の構造
ソーシャルワークの原則	多相性睡眠	第三者による監視機関	滞納処分	WHO 国際障害者分類（ICIDH）	地域援助技術の実践を支える価値
ソーシャルワークの原理	第 1 次社会化	第三者評価基準	タイの地域福祉	ダブル・バーレル	地域援助技術の対象
ソーシャルワークの源流	第 1 種社会福祉事業	第三者評価事業	第 8 の P	ダブル・バーレル質問	地域援助技術の定義
ソーシャルワークの固有性	第 1 次予防	第三者評価の目的	代表性	多文化共生保育	地域援助技術の発展
ソーシャルワークのコンピテンスの中核	第 2 次社会化	第 3 種被保険者	代表値	多文化的性質	地域援助技術の目標
ソーシャルワークの実践課程	第 2 種社会福祉事業	第三次予防	代弁的機能（アドボカシー）	多変量分析	地域援助体制
ソーシャル・ワークの実践理論	第 2 次予防	第三セクター	代弁的機能（アドボカシー）	玉野事件	地域改善対策特別措置法
ソーシャルワークの専門性	第三回ユネスコ国際成人教育会議	第三セクター方式	大砲かバスターか	ターミナル・ステージ	地域開発
ソーシャルワークの体系	第 3 号被保険者	第 3 の P	大宝律令	情民論	地域課題把握の技法
ソーシャルワークの対象領域	第 3 次予防	第 3 部ホーム	対面集団	多面的アドボカシー・モデル	地域型在宅介護支援センター
ソーシャルワークの治療機能	第 3 セクター	代謝異常	対面的関係	多面的アプローチ	地域活動計画
ソーシャルワークの哲学	第四回ユネスコ国際成人教育会議	大舎制	ダイアグラム	多面的アプローチ	地域ケアサポートシステム
ソーシャルワークの人間観	第五回ユネスコ国際成人教育会議	大舎制・中舎製・小舎制	第 4 種被保険者	多面的行動療法	地域ケアシステムづくり
ソーシャルワークの方法論	体位交換	大衆社会	第 4 の P	多面的支援ネットワーク	地域ケアと在宅ケア
ソーシャル・ワークの目的	第 1 号被保険者（介護保険）	第 10 の P	代理型ソーシャルアクション	多様なサービス	地域ケアの対象
ソーシャルワークの目的	第 1 号被保険者（年金保険）	対象化	代理申請者（アプリケーション）	ダルク	地域ケアの対象
ソーシャルワークの理念	第一次	対象者	第 6 の P	ダルク（DARC）	地域ケアの目標
ソーシャルワークの歴史	第一次アセスメント	対象喪失の同一化	対話の機能	単一回答形式	地域経済の不均等発展
ソーシャルワーク・プラ	第一次機能	大正デモクラシー	台湾住民である戦没者の遺族等に対する弔慰金等に関する法律	単一システム実験計画法	地域権利擁護事業
	第一次実践	対象認識上の原則	ダウン症	単一事例実験デザイン	地域子育て支援センター事業
	第一次実践職場	対象の把握と処遇の準備	たえざる個別化の原理	単一的アプローチ	地域サービス専門家
	第一次実践領域	対象の流動性	多角的な実践	単一被験者法	地域参加
	第一次集団	対象領域	高訴訟	単一被験者方式	地域支援
	第一次収入	対症療法	他記式調査	段階的ニーズ	地域支援システム・アプローチ
	第一次就労部門	退職給付会計	他記式調査法	段階モデル	地域支援生活
	第一次石油危機（オイルショック）	退職給付債務	宅老所	短期雇用特例被保険者	地域支援ネットワーク活動
	「第一次的（初歩的）動機」	退職給与引当金	宅老所（ミニデイサービス）	短期ゴール	地域資源コンサルタント
	第一次的動機	退職金制度	ターゲットになる問題の 7 つの類型	短期里親制度	地域資源のコンサルタント
	第 1 次的ニード	退職者組織	「多次元のアセスメント」	短期サービ	地域実践
	第一次貧困	退職積立金及退職手当法	「多次元のアセスメント」	短期処遇モデル	地域社会開発常任協議会
	第一次プロセス	対処すること	多次元のアセスメントモデル	（短期）職場適応訓練制度	地域福祉権利擁護事業
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）	対処反応	多肢選択法	短期入所サービス区分	地域社会の再開発問題
	第一次実践	対処方法	他者承認	短期入所生活介護	地域社会の自主性重視の原則
	第一次実践職場	対人援助技術	「他者性」	短期面接	地域社会の診断
	第一次実践領域	対人援助の過程	他者評価	炭鉱離職者臨時措置法	地域社会の診断方法
	第一次集団	対人関係過程	多職種によるサービスの統合化	男根期	地域社会の相互扶助
	第一次収入	対人関係接触障害	TASK IMPLEMENTATION	探索	地域社会への参加
	第一次就労部門	対人コミュニケーション	SEQUENCE（T I S）	探索的效果測定	地域社会モデル
	第一次石油危機（オイルショック）	対人サービス活動	タスクオーガニゼーション	探索的效果測定の方法	地域社会保協
	「第一次的（初歩的）動機」	対人スキル	タスク環境	短時間労働被保険者	地域集団の育成
	第一次的動機	対人的エンパワーメント	多世代の家族研究	短縮記録	地域集団の診断方法
	第 1 次的ニード	対人的認知の問題解決療法	多層ベースライン実験計画法	単純な受容	地域（住民）組織化
	第一次貧困	対人認知		男女共生保育	地域主義
	第一次プロセス	大腿骨頭部骨折		男女共同参画社会基本法	地域主体の原則
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）	代替的機能		単身家庭	地域状況把握の技法
	第一次実践	態度		単身世帯	地域情報システム
	第一次実践職場			男性同性愛者	地域自立生活支援
	第一次実践領域			団体	地域自立生活支援システム
	第一次集団			団体運営の職場	
	第一次収入			団体が運営する職場	
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助技術の展開における）				
	第一次実践				
	第一次実践職場				
	第一次実践領域				
	第一次集団				
	第一次収入				
	第一次就労部門				
	第一次石油危機（オイルショック）				
	「第一次的（初歩的）動機」				
	第一次的動機				
	第 1 次的ニード				
	第一次貧困				
	第一次プロセス				
	第一次分野・第二次分野（社会福祉援助				

ムのケアマネジメントシステム	知的障害者更生施設	注意	調査単位	治療的里親事業所長	適応能力
地域診断の過程	知的障害者更正相談所	注意欠陥障害	調査の面接	治療的退行	適合
地域性	知的障害者自活訓練事業	注意欠陥多動障害	調査の事項	治療的統制的機能	適合可能能力志向のソーシャルワーク実践
地域生活支援のソフト	知的障害者自活訓練事業（機能強化推進費）	注意欠陥／多動性障害（ADHD）	調査の手續き	治療的トランス	摘出し
地域生活資源	知的障害者自活訓練事業	注意集中能力	調査の方法	治療的な働きかけ	適任性
地域生活の尊重	知的障害者社会自立促進モデル事業	注意的応答パターン	調査票の重要性	治療的働きかけ	テキスト
地域精神医学	知的障害者生活支援センター	中央学院事件	超自我因子	「治療の時代」	テキスト・アナロジー
地域精神衛生	知的障害者生活支援センター	中央更生保護審査会	超自我不安	治療面接	テキスト・アナロジー
地域精神保健活動	知的障害者短期入所事業	中央社会福祉審議会	超自我不安に苦しんでいるクライアント	治療モデルのグループワーク	「テクノストレス」
地域精神保健サービス・スーパーバイザー	知的障害者地域生活援助事業	中央社会福祉審議会	長期処遇	賃金スライド	デジタル思考
地域精神保健福祉施策	知的障害者ディサービス	中央社会保障推進協議会	調整管理	陳情	テスト再テスト法
地域組織化・福祉組織化	知的障害者更生相談所	中央ソーシャルワーク教育研修協議会（CCETSW）	調整訓練技術	沈黙の扱い	テストシラバス
地域組織の診断方法	知的人格障害	中央ソーシャルワーク教育研修協議会（CCETSW）	調整・支援活動	追試	データ収集及びリサーチ
地域的調整活動	知識	中央ソーシャルワーク教育研修協議会（CCETSW）	調整者（コーディネーター）	追想	データの課題
地域ニーズの把握	知能の老化	中央範囲（ミッドレンジ）	調整者（コーディネーター）	追体験	データの関連づけの技術
地域に住んでいる退院患者グループ	知能偏差値	中央融和事業協会	超早期リハビリテーション	通院医療費公費負担制度	データの限界
地域ネットワーク・セラピー	チーフヘルパー	仲介者機能の展開過程	調停	通院公費負担医療	データ分析法
地域の規制力	地方改善事業	仲介者（メディエーター）	調停機能	通院保護	哲学
地域の組織化	地方改良事業	仲介的機能	調停機能	通所型在宅福祉サービス	手続き記憶
地域福祉活動計画の策定	地方公共団体の執行機関	仲介人（ブローカー）	調停者の機能の過程	通所施設	手続的権利
地域福祉活動計画の策定	が国の機関として行う事務の整理及び合理化に関する法律	仲介モデル	調停者（メディエーター）	通達	「テープ記録」
地域福祉活動コーディネーター	地方更生保護委員会	仲介役割	調停機能	「伝える」	デブリケーション
地域福祉活動の拠点	地方交付税	中核市	町内会	積立方式	テーマ
地域福祉活動の主体	地方公務員等共済組合	中核的価値	町内会・自治会協働型	ツール	出前医療
地域福祉計画活動としての支援	地方公務員等共済組合（長期）	障法	聴能訓練	TIE	転移・逆転移
地域福祉計画の技法	痴呆性高齢者	中間層	超理論（メタセオリー）	TRS	転移現象
地域福祉計画の策定過程	地方財政法	中間評価	調和	TRS プロセス論	転移という問題
地域福祉計画の策定過程における住民参加	地方自治	中高年専婦加算	直接援助活動	提案	転移の源
地域福祉計画の策定上の留意点	地方自治体及び関連パースナールソーシャルサービスに関する委員会報告	中高年のリストラ	直接援助技術の概要	D&D	展開過程
地域福祉計画の要件	地方自治体行政	中高年齢失業者等求職手帳	直接介入	TEACCH プログラム	展開期（個別援助技術）
地域福祉サービス	地方自治体社会サービス法（イギリス）	中国残留孤児	直接観察法	TEACCH	展開目標の設定の技術
地域福祉実践	地方自治体法（イギリス）	中国残留邦人等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律	直接サービス	TEACCH 法	展記
地域福祉推進	地方自治体や行政機関の活動	仲裁	直接サービス提供者	D.V.（ドメスティック・バイオレンス）	典型調査
地域福祉スーパーバイザー	地方自治体や行政機関の活動	駐在保健婦制度	直接実践（マイクロ・レベル実践）	TANF（貧困家庭一時扶助）	電撃療法
地域福祉調査の技術	地方自治の本旨	中山間地域	直接実践（マイクロ・レベル実践）	バイオレンス）	点検
地域福祉の主体性	地方自治法	抽象化	直接援助活動	DSM-Ⅶ	点字
地域福祉の人材育成	地方自治法	中心的価値	直接援助技術の概要	DSM-III	伝染病疾患
地域福祉の要件	地方児童育成計画	中心の問題	直接介入	DSM-IV	転送方式
地域ふれあい学習推進計画	地方社会福祉審議会	中性感情	直接観察法	DSW	伝達の技術
地域訪問型ヘルプ活動「地域保健福祉計画」	地方障害者施策推進協議会	中性的刺激絵	直接実践（マイクロ・レベル実践）	DSW（ソーシャルワーク博士）	伝統的アプローチ
地域保健福祉サービス利用システム	痴呆性老人の日常生活自立度判定基準	中毒	直接実践（マイクロ・レベル実践）	定期病状報告書	伝統的医学モデル
地域保健・老人保健事業報告	痴呆性高齢者	中範囲アプローチ	直接的活動	提供機関	伝統的ケースワーク理論
地域網羅組織	地方青少年問題協議会	中範囲の理論	直接的インタベンション	Tグループ	伝統的コミュニティ・オーガニゼーション
地域療育活動	地方税の非課税	中立性	直接的活動	ディケアセンター	伝統的面接
小さな政府	痴呆性老人グループホーム	チューニング・イン（波長あわせ）	直接的ケアマネジメントサービス	t 検定	電話相談
小さな政府と自助努力	「痴呆性老人を考える家族の会」	重回帰分析	直接的ケアマネジメントサービス	TCM（トータル・コミュニティケア・マネジメント）	電話調査
チェンジ・エイジェント・システム	痴呆の心理的経緯	町会所	直接的ケアマネジメントサービス	低出生体重児	問いかけ
チェンバレンの通達	痴呆の問題行動	聴覚・言語障害者更生施設	直接的ケアマネジメントサービス	定常状態	ドイツ連邦社会扶助法
知覚されたサポートネットワーク調査	地方分権	聴覚障害者情報提供施設	直接的ケアマネジメントサービス	低所得者	トイレット・トレーニング
知覚されたソーシャルサポートの多次元尺度	地方分権推進委員会	聴覚障害者情報文化センター	直接的ケアマネジメントサービス	低所得者福祉	グ
知覚野	地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律	超個人心理（トランスパーソナル）	直接的ケアマネジメントサービス	低所得者福祉制度	トインビー・ホール
近づきやすさ	地方薬事審議会	調査、診断、治療という三つの活動	直接的ケアマネジメントサービス	定数	トインビー, A.
力の場の分析	チームアセスメント	調査員	直接的ケアマネジメントサービス	ディスオーガニゼーション	同一視
地区診断	チーム・アプローチ方式	調査員の身分証明	直接的ケアマネジメントサービス	ン	投影性同一化
地区組織活動	チーム医療	調査研究	直接的ケアマネジメントサービス	定着	動機
地区福祉計画	チャイルド・ボパティ・アクション・グループ	調査研究専門家	直接的ケアマネジメントサービス	dip-SW	動機形成
知識・技術志向	チャイルド・ボパティ・アクション・グループ	調査研究提携者・研究報告書等作成者	直接的ケアマネジメントサービス	DipSW	東京 YMCA
知識創造	チャイルド・ボパティ・アクション・グループ	調査研究分析者	直接的ケアマネジメントサービス	Dip SW	統御された情緒関与
知識要素	着脱介助	調査実施責任者	直接的ケアマネジメントサービス	ディブリーフィング	道具コミュニケーション
父親（男性）の育児参加	チャリティ	調査実施のきっかけ	直接的ケアマネジメントサービス	ディプロマ・イン・ソーシャルワーク	道具的条件づけ（オペラント条件づけ）
知的障害	チャリティ援助財団	調査（スタディ）	直接的ケアマネジメントサービス	ディプロマ・マニエーション	道具的役割
知的障害者居宅介護等事業	チャリティ・コミッション	調査すべき事項	直接的ケアマネジメントサービス	バイター	統計検定
知的障害者居宅介護等事業（ホームヘルプサービス）	チャック		直接的ケアマネジメントサービス	ディプロマ・マニエーション	統計調査・社会調査

ション)	特別育成費	内的な語りかけ	チ」	人間学	ネットワーキング・アブ
統合されたソーシャル・	特別監査	内的不一致	日常生活動作 (ADL)	人間活動の目的性	ローチ
ワーク実践	特別支給金	内的妨害要因	日常生活動作能力	人間：環境間相互作用	ネットワーキング (社会
統合失調症	特別支給 (の厚生年金)	内的欲求	日常生活のための基本的	人間：環境；時間；空間	福祉援助網展開法)
統合説	特別児童扶養手当	内的枠組み	ケア	人間：環境の適応	ネットワーキング (社会
統合ソーシャル・ワーク	特別児童扶養手当等に関	ナイトケアサービス	日常生活用具	人間関係	福祉援助網展開法) の技
の目標	する法律	ナイトケア事業	日常生活用具給付等事業	人間関係過程	術過程
同行・代行	特別児童扶養手当等の支	内罰	日用品費基準	人間関係の技法	ネットワーク会議
統合的解釈	給に関する法律	内部牽制システム	日報・月報・年報の作成	人間関係の重要性	ネットワーク形成
統合的・複合的モデル	特別障害者控除 (同居特	内部指向性	2 変量分析法	人間関係の調整	ネットワーク結合チーム
統一統合機能	別障害者扶養控除)	内部的照合枠	二方向性	人間関係や「情」を活用	ネットワーク・コンサル
統合保育	特別障害者手当	内方的個人行動	日本における社会福祉サ	するアプローチ	タント
同行訪問	特別徴収 (介護保険)	内面化	ビスの供給 (提供シス	人間行動	ネットワーク・コンサル
統合モデル	特別法人	内面世界	テム)	人間行動に関する知識	テーション
統制された情緒的関与	特別養護老人ホームの費	内面的ストレス	日本医療社会事業協会の	人間行動理論	ネットワーク・システム・
洞察の発展を援助する方	用負担	内容に働きかける行為	設立	人間社会	コンサルタント
法	特別養子	内容評価 (モニタリング)	日本学術会議「社会福祉	人間主義的有機体論的心	ネットワーク・セッション
当事者および当事者運動	特別養子縁組制度	仲間意識	研究・教育体制等につい	理学	ン
当事者記録	特別養子制度	仲間関係	て」	人間諸科学	ネットワーク・セラピー
当事者参加	「匿名」グループ	「ながら」面接	日本国憲法	人間生活に普遍的にみら	ネットワークセラビィ
当事者参加の原則	匿名性	National Health Service	日本国憲法第 25 条	れるニーズ	ネットワーク相互間の連
当事者・市民協働型ソー	独立変数の操作化	and Community Care Act	日本国憲法第 2 5 条	人間の尊重	携者
シャルアクション	特例許可老人病院 (老人	ナショナルミニマム (最	日本社会事業学校連盟	人間的環境	ネットワーク内部間の連
当事者主義	病院)	低生活保障)	日本障害者協議会	人間的ニーズの原理	携者
当事者主体	特別居宅介護サービス計	ナショナルミニマム論	日本身体障害者団体連合	人間的配慮	ネットワークの構築と維
当事者主体型ソーシャル	画費	ナーシングホーム	会	人間の安全保障	持
アクション	特例居宅介護サービス費	名づけ	日本精神分析学会	人間の価値	ネットワークのシステム
当事者主体の原則	特例施設介護サービス費	7 つの実践原則	日本精神分析学会認定心	人間の暮らし	化
当事者主体の尊重	「閉ざされた時間」	ナラティブ・アプローチ	理療法士	人間の個人的な素質	ネットワーク分析プロフ
当事者組織型	閉ざされた質問	ナラティブ・セラピー	日本精神分析学会認定精	人間の社会生活上の 7 つ	ィール
当事者調査	閉じられたシステム	ナラティブ・プロセス・	神療法医	の基本的欲求	ネットワークマップ
当事者本位	度数	レコード	日本精神保健福祉士会	人間の社会生活上の問題	ネットワーク療法
同情	度数分析	ナラティブ・アプローチ	日本赤十字社	人間の社会文化的遺産	ネフローゼ
同職制	トータル人事管理システ	「ナレイティブモデル」	日本ソーシャルワーカー	人間の心理・社会的欲求	年金保健
同性愛者	ム	(あるいは物語モデル)	協会	人間の生活内容	年少人口
統制された情緒関与の原	特別障害者手当	ナレッジプロデューサー	日本ソーシャルワーカー	人間の生理学的素質	年齢構造
則	都道府県児童福祉審議会	縄張意識	協会の倫理綱領	人間の相互依存性	農協
統制された情緒的関与の	都道府県地域福祉支援計	難病患者運動	日本地域福祉学会	人間の疎外	農業協同組合
原理	画	難病患者等短期入所事業	日本知的障害者福祉協会	人間の尊厳の根拠	脳血管障害
同席面接	ドナー	難病患者等日常生活用具	日本のケースワーク	人間理解	脳血栓
闘争的なセラピスト	ドナーカード	給付事業	日本における近代医療社	妊産婦	脳塞栓
闘争モデル	隣組制度	難病患者等ホームヘルプ	会事業	妊産婦死亡率	脳卒中
到達目標 (ゴール)	ドミナンスストーリー	サービス事業	日本における児童相談所	認識者	脳卒中 (脳血管障害)
同調	ドミナント・カルチャー	難病対策	の性格	認識論	農村のソーシャルワーク
動的定型性	留置式	肉体的	日本の医療社会事業教育	認識論の立場	能動性
道徳的影響	ドメスティック・バイオ	2 項検定	日本版在宅ケアアセスメ	認知概念	能動的傾聴
道徳的救済	レンス (d.v)	「二次的加工」	ント票	認知・行動アプローチ	能動的有機体モデル
道徳的欠陥	ドメスティック・バイオ	二次的自我機能	日本ライトハウス	認知行動的催眠療法	能力低下
道徳的説得	レンス (DV)	2 次的障害	日本レクリエーション協	認知・行動変容アプロー	能力低下 (能力障害)
道徳的力	ドメティスティックバイ	二次的情報源	会	チ	農林漁業団体職員共済組
道徳理論	オレンス	「二次的に加工された態	入院治療	認知行動療法	合法
導入段階	「ともに生活している」	度」	乳児院との協働	認知再構成技法	Knowledge Management
糖尿病	人たちのグループ	二重拘束	乳児死亡率	認知作用	望ましい面接室の条件
特別優遇措置	共働き	二重の視点に立つエコ・	乳児保育	認知図式 (スキーマ)	ノーマライゼーションの
Do more	ドライドランク	マップ	入所施設の利用者に対す	認知スタイル	理念
同僚に対する倫理的責任	ドラマ	二重の不安	る援助過程	認知的アプローチ	ノーマライゼーション思想
トゥレット障害	トランスジェンダー	24 時間対応在宅ケアマネ	入所対象者調査票	認知的介入	ノーム (基準)
同和教育	トランスファー	ジメント	乳幼児期の介護課題	認知的活動	ノンバーバルなコミュニ
同和問題	トランスフォーメーショ	二時利得	乳幼児検診	認知的技法	ケーション
独自性	ン・プロセス	ニーズ・オリエンティド	乳幼児精神発達診断法	認知的行動変容	ノンボランティア患者
特殊化された実践モデル	トリガー (誘導項目)	(ニーズ志向型)	乳幼児突然死症候群	認知的行動療法	バイアス
特殊教育／特殊学校／特	取り消し	ニーズキャッチ	入浴介助	認知的能力	バイオエシックス
殊教育諸学校	トリートメント技法	ニーズギャッチの技法	ニューステッターの定義	認知的評価療法	バイオサイコソーシャル
特殊ケースワーク	童里夢	ニーズ資源調整理論	ニューステッターの定義	認知的不協和	モデル
特殊尿器	奴隷制度反対運動	ニーズ・社会資源調整論	の特徴	認知の再構築	媒介・過程モデル
特殊法人	トレッカーの定義	ニーズ情報	ニュートン理論	認知の発達	媒介機能
直接療法	トレッカーの定義の特徴	ニーズ即応の原則	ニューヨーク・ソーシャ	認知のメカニズム	媒介者・資料提供者
特定営利活動促進法	トワイライトステイ (夜	ニーズ中心	ルワーク学校	認知パターン	媒介者的役割
特定求職者雇用開発助成	間養護事業)	ニーズの概念	ニューヨーク防貧協会	認知／ヒューマニスティ	「媒介的機能」
金	内因性精神障害	ニーズの発見	ニューライト	ック・アプローチ	媒介的面接
特定施設入所者生活介護	内観	ニーズ発見システム	尿失禁	認知モード	媒介モデル
特定疾患	内在化	ニーズ判定、ニーズ・ア	尿路感染症	認知論的学習理論	配偶者出産育児一時金
特定疾患医療	内省	セスメント	任意加入	認定アセスメント項目得	配偶者暴力相談支援セン
特定疾病	内潜条件づけ	ニーズ評価	任意給付	点	ター
特定疾病 (介護保険)	内的経験	ニーズ分析	任意継続被保険者	認定カウンセラー	排出期
特定非営利活動促進法	内的資源 (自助)	二側面からなる実践活動	任意後見制度	認定講習主事	配食・会食活動
(NPO 法)	内的思考自己報告尺度	過程	任意設立	認定ソーシャルワーカー	バイスティックによる定
特定非営利活動促進法の	内的準拠枠	二側面の実践活動過程	任意包括被保険者	ネガティブストローク	義
あらし	内的阻害要因	2 段階抽出法	認可外保育所	ネガティブな転移	バイスティックによる 7
特定非営利活動の定義	内的妥当性	日常言語	人間援助サービス・プロ	寝たきり老人在宅総合診	原則
特定非営利活動法人	内的統一	日常生活援助	グラムコーディネーター	療料	バイスティックによる 7
特定目的の原理	内的統合感	「日常生活的アプロー	人間科学的アプローチ	寝たきり老人ゼロ作戦	つの原則

バイステックの7原則	話の促進	PIE	非行・犯罪	「非問題的接近法」	病理的アナロジー
バイステックの7原則	話を促す技法	「悲哀の仕事」	非参加型コンサルテーション	日雇健康保険	病理的行動
バイステックの7つの原則	バーナード・ホーム	ピア・カウンセラーの認定制	非参与的観察	日雇労働者給付金(アプレ手当)	「開かれた時間」
バイステック	バーネット, S.	ピア・グループ	非参与的観察法	日雇労働者	開かれたシステム
バイステック原則	パネル調査	ピア・グループ・コンサルテーション	PGSC (ソーシャルケア初級認定)	日雇労働者健康保険法	開かれた対人関係
排泄介助	パネルディスカッション	ピア・サポート活動	非指示的	日雇労働被保険者	比率
ハイ・ソーシャル・リスク患者	母親運動	P R	非指示的原理	ヒヤリ・ハット事例	水蛭子
媒体	母親の原初的ホールディング	P&G システム・アプローチ	非指示的面接法	ヒューマニスティック・アプローチ	ビルト・イン・スタビライザー
排他主義	母子愛情依存体系	チ	非指示療法	ヒューマニスティック哲学	広島県共同募金委員会事件
排尿感知器	母固着	PERT	微視的社会福祉援助活動		広場恐怖症
排尿障害	バーバリズム	BASW	ビジネス分野	ヒューマニティ	敏感期
配薬調査	バーバルなコミュニケーション	非医学的特質	非自発的クライアント (非12ステップ・グループの) ミーティング	ヒューマンサービス機関	貧窮予防協会
ハイレベルモニタリング (よりよいモニタリング)	ダブル・バーレル質問	B 型軽費老人ホーム	非常勤(パートタイム)	ヒューマンサービス事業分析者	貧困からの脱却
ハインリッヒの法則	パーマネンシープランニング	PEP	非人小屋	ヒューマン・サービス実践の価値	貧困患者
バウチャー (サービス利用券)	バムテスト	BBS	非審判的態度	ヒューマンサービスプロ	貧困者と極貧者
バウチャー方式	パラエティ	Ph. D.	非審判的	グラムのスーパーバイザー	貧困者の委託保護
博愛	パラサイト・シングル	非営利・協同	ヒストリカル方式ケース研究	ヒューマン・リレイションズ	貧困者の国家
博愛 (欧米)	パラノイド反応	非営利セクター	研究	ビュリタニズム	貧困者福祉
博愛学校	バラマキ福祉	非営利組織	ビスマルク社会政策	ビュリタニ革命	「貧困者訪問協会」
博愛・救貧・社会事業	バラ・メディカル	非常利部門	非政府組織	病院機能評価	貧困状態
博愛事業学校	バリアフリー化	BSW	非専門家	病院ソーシャルワーカー	「貧困線以上のケースワーク」
博愛社	バリアフリー住宅向け金融制度	BSW (学士ソーシャルワーカー)	非専門的職業構造	病院内における協働	貧困層
博愛 (日本)	バリアフリーデザイン	BSW (ソーシャルワーク学士)	悲田院	病院における協働	貧困の再生産
博愛の組織	バリ万国救済会議	BATNA	日田養育館	病院における協働	貧困の南北問題
白亜館会議	ハル・ハウス	PADL	非嫡出子	病院における協働	貧困問題
バークレー報告	パールマン, H.	PMS	非直線的因果性	病院におけるソーシャルワーカーの使命	貧困の年少化
派遣労働者	パールマンの4つのp	PM リーダーシップ論	筆者 (黒川) による定義	病院・保健所	頻尿
橋渡し	パールマンの定義	PM 理論	必置規定緩和	病院・保健所	貧乏監督官
バズ法	ハーレー・トレッカーの定義	ヒエラルキー	必置義務	病因論的診断	貧乏物語
長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)	パレンス・パトリエ=国親	BLS (労働統計局)	ビッツバグ慈善事業組織連合会	評価機能	貧民生活状態改善協会
パーソナリティ	ハローワーク	被援助者	必要情報の確認と計画・介入への方向づけ	評価記録	貧民の有利な雇用論
パーソナリティの構造	パワー	POSR	否定	評価事業	ファシリテーター
パーソナリティの変容	パワーズ, S.	POSDCORB	PT	評価・終結	ファシリテート
パーソナル・アシスタント	パワーズによる定義	被害者憲章 (イギリス)	PTSD, P. T. S. D	評価 (地域福祉計画)	ファミリーアイデンティティ
パーソナル・コンストラクト療法	パワーズの定義	被害者等通知制度	PTSD 反応	評価チームの部長	ファミリーグループホーム
Person-in-Society	パワーズの定義の特徴	被害者のない犯罪	PDCA サイクル	評価と終結	ファミリースカラプチェアー
Person-in-Relation	パワーズの分析	東山保育園 (日照権) 事件	否定的同一性の例	評価と処遇の継続・終結	ファミリー・セラピー
パーソンによる定義	パワーの分析	被害妄想	非嫡出子	評価による支援	ファミリー・セラピー
パターナリスティック志向	パワーバランス	被害妄想	悲田院	評価の5段階	ファミリーソーシャルワーク
パターナリステックな行為	パワーレス	比較ニーズ	人ー環境の実践	評価の意義	ファミリー彫刻
パタヤ	パワーを用いる対抗的アプローチ	比較文化的スーパービジョン	人空間	評価の原理	ファミリー・ツリー
働きバチ	バーンアウト (燃え尽き症候群)	非貨幣的サービス	人としての共通性・対等性	病気	Family Dimension
パターン力動的反省	汎化	非貨幣的ニード	人と状況の全体性の反省	表現システム	ファミリーポリシー
8020 (ハチマル・ニイマル) 運動	ハンガー・マーチ (飢餓行進)	非貨幣的領域	人と状況の全体的関連性	病弱・虚弱児	不安
バーチャート	反還元主義的アプローチ	引揚者給付金等支給法	人の尊厳と価値	表出化	不安管理訓練
バック・アップ	反官僚制	引きこもり等児童福祉対策事業	人びとの課題	表出コミュニケーション	標準化
パッケージ	反抗期	「引き出した記録」	ヒト免疫不全ウイルス	標準化	不安・緊張の緩和
発見・確認	半構造化	P 機能 (課題遂行機能)	否認	標準化尺度	不安定就業階層
発生的診断	半構造化面接	非機能的情動	被爆者援護法	標準誤差	不安定で空虚な自己
発達可能性	半固定空間	非機能的情動	被爆者健康手帳	標準世帯	不安の時代
発達権	半固定空間	被害待症候群	被爆問題	標準テスト	「不安の60年代」
発達心理学	バンコマイシン耐性陽球菌	被救済貧民化	批判的意識高揚	標準テスト法	VRE
発達段階	犯罪被害者援護	非言語	批判的協力関係	標準報酬	福祉活動専門員
発達段階モデル	半失業 (不完全失業)	非言語サイン	批判的協力関係	標準報酬月額	フィードバック過程
発達遅滞	反射的権利	非言語的コミュニケーション技法	法の分類	標準報酬 (月額)	フィラデルフィア慈善組織協会
発達の危機	「反射的利益」	非言語的コミュニケーション技法	ピープル・ファースト運動	表象	フィラデルフィア児童指導クリニック
発達の反省	阪神・淡路大震災	非言語的コミュニケーション技法	動	費用徴収・費用負担	フィリビンの地域福祉
発達保障の原則	反専門主義	非言語的コミュニケーション技法	被保険者 (医療保険)	「平等主義・機会均等の思想」	風景理論
パッチ	判断力	非言語的表現の理解	被保険者 (介護保険)	平等 (民主主義)	風俗営業等の規制及び業務の適正化に関する法律
発展期	判定	「非現実的無意識的側面」, 「転移」	被保護資格	病人相談所	瘋癲
発熱療法	判定会議	被験者	被保護者	病人に対する援助	夫婦間暴力
パートタイマー (アルバイト)	反転実験計画法	非行	秘密の原理	費用負担 (社会福祉)	夫婦相談
パートナーシップ協定	反応性うつ病	非行関係の相談	秘密の情報	標本	夫婦別姓
パートナーシップモデル	反復	非行原因	秘密の保持を要求するクライアントの権利	標本誤差	フェイスシート (基本事項用紙)
ハートビル法	反復脅迫	非行・情緒障害児	秘密保持義務	標本抽出	フェイディング
ハード福祉とソフト福祉	反復の利用	非行・情緒障害児	秘密保持に関する基準	標本抽出の手順	フェニールケトン尿症
パトラー教育法	ハンブルグ制度	非行少年に対するプロベーション	秘密保持	標本調査 (一部調査)	フェビアン協会
パートレット, H.	反抑圧的な実践	非行少年の精神医学的研究	秘密保持の原理	病名告知	フェビアン主義
パートレット, H. の共通基盤	P	非行的傾向	秘密を保持して信頼感を醸成する	表明されたニーズ	フェミニスト
	ピア・カウンセリング	備荒の制	日見やすらぎ荘事件	表明されないニーズ	フェミニスト家族療法
	ピア・スーパービジョン		被免除権	病理	フェミニスト・キャンペ
	「here and now」			病理/欠陥モデル	

ーン	福祉資金	物質的援助を与えるさい	「ひまわり号」を走らせ	分娩費	委員会
フェミニスト・グループ	福祉施設士	の基準	る全国連絡会	文脈主義	ベンダーシップ
ワーク	福祉施設指導専門員	物質的供給	フロイト主義	文脈分析	ペンドラム現象
フェミニスト・セラピー	福祉施設連携型	物的手段による支援	フロイドの人格形成の理	分離一個体化	ペントン視覚記憶力検査
フェミニスト・セラピー	福祉実践の固有性	物的施与	論	分離主義	弁別学習
フェミニスト調査	福祉事務所、家庭児童相	物理工学的システム論	フロイドの無意識や心的	分裂	弁明書
フェミニスト・ネットワ	談所との協働	物理的構造化	決定論	ペアリング	変容性内在化
ーク	福祉事務所の役割	物理的資源	フロイト派	ペアレンティング	保安処分
フェミニスト・モデル	福祉社会学	物理的欲求	フロイト派心理学	ペアレンティング・スキ	保育
フェルト・ニーズ	福祉従事者	不適応行動	フロイド理論	ル	保育園
フォーカス・グループ・イ	福祉生協	不適応行動問題	浮浪児	併給	保育園（保育所）
ンタビュー	福祉センター	不適応状態	浮浪者	併給（生活保護）	保育計画
フォーカス・チャートイ	福祉専門職	不登校児対策	浮浪貧民	平均額の範囲（ミーンレ	保育時間
ング	福祉専門職業従業者	不登校状態	ブローカー	ンジ）	保育士資格
フォーマル・ケアとイン	福祉増進サービス	フード・スタンプ制度	ブローカ失語症	平均在院日数	保育所運営費
フォーマル・ケア	福祉対象者	負の所得税	ブローカリング	平均寿命	保育所における情報提供
フォーマルケアとインフ	福祉的生活	不服申し立て	プロキシ変数	平均（代表値）	保育所入所待機児
ォーマルケアのネットワ	福祉ニーズの特性	不服申し立て前置主義	プログラム開発	平均値	保育所併設型民間児童館
ーク化	福祉ニード	部分浴	プログラム開発・資源開	平均的な専門職の条件	保育所保育
フォーマルサービス	援助の実施	普遍化	発	平均余命	保育に欠ける児童
フォーマルなサポート資	福祉の状態	普遍主義サービス	プログラム活動の過程	並行家族療法	保育料
源	福祉の組織化	普遍主義的サービス	プログラム管理者、リハ	併行過程	ボーイスカウト運動
フォーマルなサポート・	福祉の組織化の内容	普遍的な制度	ビリテーション援助サー	平行過程の原理	ボイタ法
ネットワーク	福祉のまちづくり事業	普遍的にみられるニーズ	ビス	平行棒理論	防衛志向
フォーマルな社会制度	福祉の民営化	扶養義務者	プログラム規定説	米国児童憲章	防衛的コミュニケーション
フォーマルな社会的支援	福祉八法改正	プレイセラピー	プログラム計画	（米国における）児童相	ンへの対処技法
システム（ネットワーク）	福祉補助金	プライバシーと秘密の保	プログラム・コーディネ	談所の目標	防衛の転移
フォーマルな組織	福祉祭り	持	ーター	閉鎖システム（クローズ	法外援護
フォーラム	福祉ミックス	プライバシーの保護	プログラム・コンサルテー	ド・システム）	放課後児童クラブ
フォローアップ	福祉目的税	プライベートプラクティ	ション	閉鎖したグループ	包括的なアプローチ
フォローアップの技術	福祉問題	ス	プログラム材料	閉鎖集団	包括払い制
フォロー訪問	福祉用具給付貸与	プライマリーケアを中心	プログラム設計の基本原	閉鎖集団処遇	傍系的資料
付加的ニーズ	福祉用具貸与	としたグループ	理に係わる4つの次元に	閉塞性動脈硬化症	膀胱留置カテーテル
付加年金	福祉用具の研究及び普及	プライマリ・ヘルスケア	における選択	閉鎖的グループ	報告書の作成
複合方法統合論	福祉用具（福祉機器）	プライマリー・ヘルスケ	プログラム展開	閉鎖病棟	方策構造
福祉	福祉用具（福祉機器）	アの4原則	プログラム評価・管理技	ベイシックモニタリング	法施策的QI史
福祉三プラン	福祉用電話機器の料金割	ブラインド・ウオーク	法	（基本的モニタリング）	報酬比例年金
福祉3法体制	引制度	部落問題	プログラム・プランニン	並列的ピア・ピア・コン	報酬比例部分
福祉5法	福祉理念	ブラシーボ群	グ	サルテーション	法人成年後見人
福祉委員	福祉レクリエーションワ	ブラスの評価の技術	プログラム・マネージャ	平和教育	法制度運用のレベル
福祉インフラ	ーカー	ブラックアウト	ー	平和擁護	法治国家
福祉家族	福祉レク・ワーカ	フラッピング	プログラムを計画すると	ペインコントロール	法定給付
福祉型借り上げ公共賃貸	福祉労働	プラン・ドウ・シー	きの原則	ペイン・マネージメント	法定後見人
住宅制度	福祉労働者	Plan-Do-See-Action(PDCA	プロジェクト提携者	ベヴァリッジ計画	法定受託事務
福祉価値観（倫理観）	複数回答形式	サイクル）	プロジェクトの責任者	へき地保育所・季節保育	法廷ソーシャルワーク
福祉活動	複数選択法	プランニング（援助計画	プロジェクト・マネー	所	法的権利説
福祉活動への関係づけの	福田会育児院	の策定）	ジャー	ベーシック・イド	法的根拠
技術	含み	プランニング機能	プロジェクト・副ディレ	ベーシックエンカウンタ	法的なアドボカシー
福祉観	福利厚生	プランニングシート	クター	ーグループ	法的な権利擁護
福祉環境整備基準	不作為	プランニングシート（支	プロジェクト論	ベーシックレトリック	法的リサーチ
福祉関係八法改正	父子家庭等児童夜間養護	援計画用紙）	プロシューマー	ベースライン期	報徳思想
福祉関係八法の改正	事業	ブリ・テスト	プロセス志向	ベースライン記録	報徳社
福祉関係法改正	父子家庭（父子世帯）	ブリオン病	プロセス志向の原則	ベースライン設定の技術	方法・技能モデル
福祉機器コーディネータ	藤木訴訟	振替加算	プロセスシート	ベースライン・データ	方法機能論
ー	藤木訴訟（第一次、第二	ブリコーディング	プロセスシート（支援過	Personal Dimension	方法による専門分化
福祉教育論	次）	ブリコード	程用紙）	パーチェット病	方法の総体
福祉行政機関	父子福祉会	ブリテスト・カウンセリ	プロセス評価のプロセス	ベックマン報告	方法モデル
福祉行政機関の意義	不就学をなくす運動	ング	プロセス・レコード	ベトナム戦争後遺症	方法論的アプローチ
福祉協力員型	扶助義務令、公的扶助の	ブリーフサイコセラピー	プロセミックス	ヘルシー・シティ・プロ	法務教育
福祉協力校	要件・種類・程度に関す	「ふりまわされる」とい	フローチャート	ジェクト	訪問
福祉経営	るライヒ基本原則	う感情	プロフェッショナル	ヘルスアセスメント	訪問員
福祉経済学	援助の機能による方法	不良住宅地区改良法	プロフェッショナル・ア	ヘルスプラン	訪問カウンセリング
（福祉）現業員	扶助の種類	不良住宅地区ノ不良住宅	ドボカシー	ヘルスプロモーション	訪問型
福祉・健康フェスティバ	扶助法	地区調査	プロフェッショナル・ニ	PERT法	訪問活動
ル	婦人保健施設	ふるい分け	ーズ	ヘルパー	訪問教師運動
福祉厚生センター	婦人・母子福祉	ブルドン抹消検査	プロブリウム	ヘルパーステーション	訪問ケースワーク
福祉広報活動の技術	ブース、C、	フルプロフェッション	プロベーション	「 helper therapy	訪問相談援助
福祉広報活動の機能	不正受給	ブルンストロームステー	文化システム	principle」	訪問通所サービス区分
福祉国家の見直し	付属機関	ジ	文化人類学	変化による安定	訪問入浴介護
福祉（サービス）供給シ	二つのP	ふれあい型給食サービス	文化性理解	変化の3段階理論	法律扶助
ステム	二業幼稚園	ふれあいサロン	文化的感受性	変化の可能性の尊重の原	捕獲者一捕虜関係
福祉サービス供給主体	負担	「ふれあいの街づくりモ	文化的時間	理	牧師モデル
福祉サービス苦情解決事	不調和	デル事業」	文化的な場の原理	変化の抑制	呆け老人を抱える家族の
業	普通徴収（介護保険）	ブレイ・アゲイン法	文献資料	変化を起こさせる人	会
福祉サービスにおける第	物価指数	ブレイクスルー思考法	分散分析	弁護	保険医
三者評価事業に関する報	復帰過程	プレイセラピーの原則	文章完成法テスト	弁護・アドボカシー型ソ	保健医療・福祉対策マン
告書	仏教社会事業	ブレイルーム	分析学	ーシャルアクション	パワー対策本部
福祉サービスの質の向上	仏教社会福祉事業	ブレ・インテーク・ワー	分析心理学	弁護者の役割	保険医療機関
福祉サービスの適切な利	物質関連障害	カー	分析的転移	「弁護的機能」	保険医療機関及び保険医
用	物質嗜癖(サブスタンス・	ブレ・グループ	分析とまとめ	代弁者（アドボケーター）	療養担当規則
福祉サービスの利用援助	アディクション）	フレーム・ワーク	分析・評価の技術	便失禁	保健・医療サービス法（ス
福祉産業	物質的援助	フレンドシップトレイン	分析力・洞察力	ペンシルバニア児童労働	ウェーデン）

保健・医療・福祉の統合化	母子福祉会	ボランティアセンター部門	松谷原爆訴訟	民主主義教育	面接の意義
保健・医療・福祉の連携	母子福祉法	ボランティア体験月間	マトリックス組織	民主主義の擁護	面接の基本となる構成要素
保健・医療・福祉の連携の構成要素	母子保健医療体制	ボランティア団体	マネジャー	民主的職員集団づくり	面接の構成要素
保健衛生行政	母子保健法（昭和39年）補償	ボランティアの活用	マネージャー、住宅オプション（選択）	決定の原理	面接の構造
保険外サービス（介護保険）	補助機関	ボランティア保険	麻痺	民生委員児童委員	面接の時間
保険外負担	補助金	ボランティア友愛訪問員	麻薬問題	民生委員法	面接の前提
保健活動	補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律	ポリシー・アドボカシー	真理子ちゃん訴訟	民生委員協議会	面接の場所
保健関連ソーシャルワーカー	補助犬	ホリス、F.	マルサス主義	民生児童委員	面接役
保険給付（雇用保険）	補助代替コミュニケーション	ホリスティック理論	マルサスの人口論	民生・児童委員との協働	面接をする者のもっとも重要な道具
保健サービス	補助・保佐・後見	ポリスの救済制度（ホリスによる）環境調整の技法	マルチディシプリナリー・チーム	民生費	メンター機能
保健師活動	母子寮	ホリスによる治療技法の類型化	マルチメソッド・アプローチ	民族誌的な尺度	メンタルヘルス
保険事故	戊申詔書	ホリスの技法	マルティプル・ベースライン・デザイン	無過失責任原則	Mentoring
保健施設	ポストテスト・カウンセリング	ホリスのケースワーク過程	マルトリートメント	無業	メンバー席図
保険者（介護保険）	ポスト・フォーディズム	（ホリスの）処遇技法・技法手続き	身売り	無許可施設	メンバーへの相互作用
保健所	ポストモダン主義の援助理論に関する議論	ホリスの分類項目	右田理論	無許可児童福祉施設に対する立入調査	メンバーの構成要素
保健所デイクア事業	ポストモダン思想	ボルチモア慈善組織協会	マイクロ型ソーシャルワーク	無拠出制	盲学校
保健所との協働	ポストモダン援助者の援助上の役割	ホロトロピック呼吸法	マイクロ（個人援助技術）	無拠出老齢年金法	盲人用郵便物
保健所法	ポスト・モダンの家族	ホワイトカラー犯罪	マイクロ水準	無契約給付	燃えつき症候群の原因
保険診療	ポストモダンのワーカー	本源的蓄積	マイクロ・ソーシャルワーク	無効票	燃えつき症候群への対応
保健センター	ポスト・モダン・フェミニズム	本質主義	マイクロの介入	無国籍児	模擬訓練
保険・手当・扶助・サービスによる方法	ボストン慈善連合会	本調査	マイクロ的「治療グループ」	無告の窮民	目的
保健福祉地区組織育成中央協議会（育成協）	ボストン・ソーシャルワーカー学校	本能	マイクロ・プラクティショナー	無作為抽出	目的概念
保健福祉地区組織育成モデル地区活動	ボストン貧窮予防協会	本能衝動	マイクロ・メッソーマクロ	無作為分配	目的概念
保健福祉動向調査	ホズビス	本能的欲求・感情・衝動の調整と制御	マイクロ領域	無差別平等	目的到達法
保健婦助産婦看護婦法	ホズビスの目的	本来的希求	未婚妊娠のケース	無差別平等の原則	目的論的原因論
保健モデル	母性信仰	マイクロ技法	未支給の給付	無条件の肯定的尊重	目標設定
保険薬剤師（健康保険）	母性喪失	マイクロ・レベルの実践	未熟児	無条件の肯定的な配慮	目標達成機能
保険薬局	母性の保護	マイナスの福祉	「未熟な終結」	無条件反射	目標達成度チェック表
保険料（介護保険）	母性保護	minor profession	未成年者飲酒禁止法	無制限複数回答形式	目標定位的同一化
保険料（年金）	母性保護論争	マインドフルネス・メディテーション	未成年者喫煙禁止法	無知のアプローチ	目標到達効果
保険料納付済み期間	保全処分	前意識	導かれたグループ相互作用の原理	無知の立場	目標の機能
保険料免除	補足給付	前向きな態度	密接距離	6つの環境	目標の達成度
保険料率	補足給付制度	「巻き込まれ」	3つのH	6つのP	目録格子法（レパートリー・グリッド）
保険料率・掛金率	捕捉率	マクロ型社会福祉実践	三つのD	無道徳志向	文字記入回答形式
保護因子	ホーソン実験	マクロ型ソーシャルワーク	三つの統合化論	無認可施設	モータリゼーション
歩行介助	母体保護法（優生保護法）	マクロ水準	ミットランの地方分権化	無認可児童福祉施設に対する立入調査	モチベーション理論
歩行訓練	ボーダーブレイク	マクロ（組織運営技術・地域援助技術・社会福祉計画）	水俣病	する立入調査	motivate
保護観察所	ボーダーライン層	マクロ・ソーシャルワーク	ミニコミ	無年金者	モデリング療法
保護観察ワーカー	墓地・埋葬に関する法律	マクロ・レベルの実践	ミニマム	無年金障害者	モニター適任者
保護基準	補聴器	マクロ・レベルの実践	Mini-Mental State Examination	無脳症	モニタリング機能
保護義務	没価値性	マクロ・レベルの実践	Minotaur 多面人格目録	無罰	モニタリングサイクル
保護決定調書	ボパース法	マクロ・レベルの実践	身分法運動	村中合力・町中合力	モニタリングシート（経過観察用紙）
保護者がいない	ボパリスム	マクロ・レベルの実践	見守りネットワーク活動	無料の学校給食	モニタリングシート（経過観察用紙）
保護者の児童虐待等の場合の措置	ボプラーの反乱	マクロ・レベルの実践	宮岸訴訟	無料または低額診療事業	モニタリング（点検・評価）
保護者の児童に対する態度	保母	マクロ・レベルの実践	ミュージックセラピー	無力の自覚	モニタリングとフォローアップ
保護者の貧困	ホームケア・サポートシステム	マクロ・レベルの実践	ミラノ派家族療法	群れること	モニタリングの位置づけ
保護主義	ホームケア促進事業	マクロ・レベルの実践	「観る」	名称独占・業務独占	モニタリングの機能
保護受託者	ホーム・サービス	マクロ・レベルの実践	民営職業紹介	瞑想	モニタリングの効果
保護申請書	ホームヘルパー事業	マクロ・レベルの実践	民間介護保険	名目的自営業	モニタリングのシステム
保護台帳	ホームレス家庭	マクロ・レベルの実践	民間活力・市場システムの重視	命令入所患者	化
保護単価・保育単価（児童福祉における）	ホームレス（広義）	マクロ・レベルの実践	民間サービスの参入	メインストリーム・モデル	モニタリングの方法
保護の欠格条項	ホームレスと社会福祉の関係	マクロ・レベルの実践	民間事業者	メンテナンス（維持訓練）	物語
保護の実施機関	ホームレス法	マクロ・レベルの実践	民間事業者による老後の保健及び福祉のための総合的施設の整備の促進に関する法律	major profession	模倣学習
保護の申請	ホームレス問題連絡会議	マクロ・レベルの実践	民間社会福祉6団体	メゾ実践	「模倣的学習」
保護の適正化	ホモオスタシスの原則	マクロ・レベルの実践	民間社会福祉施設	メゾ（集団援助技術）	モラル
保護の補足性の原則	「ホモ・ルーデンス（遊戯人）」	マクロ・レベルの実践	民間シルバースervice	メゾ（中範囲）水準	モラル・ハザード
保護の補足性の原理	ボランティア患者	マクロ・レベルの実践	民間シグナタ	メタ・アナリシス法	森田療法
保護率	ボランティアセクター	マクロ・レベルの実践	民間組織	メタコミュニケーション	森永ひ素ミルク中毒事件
保佐	ボランティア活動団体	マクロ・レベルの実践	民間非営利セクター	メタ視点	文言
保持	ボランティア活動の位置づけ	マクロ・レベルの実践	民間非営利組織（NPO）	メタ心理学的アプローチ	「問題アセスメント」
母子及び寡婦福祉法における施設	ボランティア活動保険	マクロ・レベルの実践	民間非営利団体	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌	問題解決型援助
母子家庭・寡婦・父子家庭介護人派遣事業	ボランティア拠点型	マクロ・レベルの実践	民間福祉協議会	メディア	問題解決技術
母子・寡婦福祉資金	ボランティア国際年、ボランティア・コーディネーター	マクロ・レベルの実践	『民衆娯楽論』	メディア（中央値）	問題解決訓練
母子休業ホーム	ボランティア・サービス	マクロ・レベルの実践	民衆訴訟	msw	問題解決ケースワーク
母子休養ホーム	ボランティア精神	マクロ・レベルの実践		メディカルモデル	問題解決志向型記録
母子相談		マクロ・レベルの実践		メルティング・ポット	問題解決スタイル
ポジティブな転移		マクロ・レベルの実践		免除者（年金）	問題解決対応技術
ポジティブフィードバック		マクロ・レベルの実践		免除保険料	問題解決的機能
		マクロ・レベルの実践		面接記録	問題解決的接近型社会調査
		マクロ・レベルの実践		面接訓練	問題解決的接近型社会福祉調査
		マクロ・レベルの実践		面接時間の長さ	問題解決能力の獲得
		マクロ・レベルの実践		面接調査法	問題解決法
		マクロ・レベルの実践		面接治療の枠組み	問題解決・目標達成ワーク
		マクロ・レベルの実践		面接内容	

クシート	唯物論的フレームワーク	要保護児童の通告	Work	心としたグループ	事裁判)
問題解決理論	友愛	要約技法	RAPs	リハビリプログラム	臨床管理者
問題解決を重視するコミュニティ・ワーク	友愛員	要約式記録	ラベリング論	リビドー理論	臨床経験
問題解決過程	友愛協会	要約筆記	ラベルづけ	リファー	臨床検査技師
問題家族	友愛的接触	要養護児童の福祉に関する相談	ラ物資	リファーマル	臨床工学技師
問題カテゴリー	ゆうあいピック	養老律令	ラック報告	リフォームヘルパー	臨床志向
問題規定説	友愛ヘルパー	養老の戸	濫救（給）	リブ・コンサルテーション	臨床志向型ソーシャルワーク機能
問題共有の技法	友愛訪問制度	養老の戸	ランク・アンド・ファイル運動	リフト付きバス	臨床実践
問題行動の機能分析	優位化	養老法案	ランクの功績	リフレクティング手法	臨床ソーシャルワーク実践
問題志向型記録	有意選択法	余暇アンケート	ランゲージスキル	リフレクティング・チーム	臨床ソーシャルワーク責任者
問題志向記録	UNDP	余暇教育	乱数表	リフレッシュメント	「臨床ソーシャルワークとは何か」
問題志向システム記録	「有閑マダム論争」	余暇生活開発士	リアセシメント	リプロダクティブ・ヘルス	臨床ソーシャルワークの援助法
問題（ニーズ）の社会	有機体論	「余暇生活診断テスト（スケールA～G）」	リアリティ・オリエンテーション	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	臨床ソーシャルワークの価値
化技法	有機体論革命	余暇退屈度スケール	リエゾン	留置カテーテル	臨床ソーシャルワークの領域
問題状況	有機体論（静態論・組織体）の傾向	予期	理解化過程	流動食	臨床ソーシャルワークの処遇原則
問題状況に関する調査と情報収集	有機体論的アプローチ	抑うつ	理解社会学	柳園訴訟	臨床ソーシャルワークの定義（NASW）
問題探求	有意選択法	抑うつ症	利害集団としてのコミュニティ	留置カテーテル	臨床ディレクター
問題中心アプローチ	有給専任職員	予後	力学的思索	流動食	臨床的態度
問題中心システム	有形・無形のサービス	予行演習	力学的で実存的な思索治療活動	領域	臨床的（治療的）面接
問題（ニーズ）の把握	有効求人倍率	与謝の海養護学校	力動的な要因	療育医療	臨床の責任者
問題認識のレベル	有効需要	与謝の海養護学校	力動的	療育型施設	臨床方式ケース研究
問題の共有化の技法	有効票	予算	力動的な相互作用	療育指導	隣保活動
「問題」の細分化の原則	優生学	予算編成	力動的統合理論	療育相談	隣保扶
問題の所在	有責任	吉川町幼児教室事件	力動的観点	了解	隣保委員会
問題の捉え方	有責任	予測評価	力動的観点	令義解	倫理綱領
問題把握	郵送調査	欲求固執	力動的相互作用	利用しうる資産	倫理実践
問題発見の技法	有訴者・有病率	欲求実現	力動的相互作用	利用施設	倫理綱領
問題発見のレベル	Uターン現象	欲求相補説	力動的相互作用	利用者側の問題	典型的診断
問題プロフィール	融通性の原理	「4つの基礎システム」	力動的相互作用	利用者（クライアント）	累進課税
問題変化の測定技術	融通性を持つ機能的組織の原理	4つの言葉	力動的相互作用	利用者自身の価値観	ルンペン
問題解決アプローチ	誘導型意思決定法	四つのシステム	力動的相互作用	利用者主体の援助	ルンペン・プロレタリアート
モンテッソーリ教育法	誘導的質問	四つの重要な基本概念	力量的な相互作用	利用者の強さ	レイオフ
モン・ド・ビエテ	ユーザー	四つの変化内容	力量アプローチ	利用者の福祉を具体化する基本となる原理	霊的
文部省「社会事業学校設置基準」	ユダヤ人保護局	4つのP	利己主義	利用者の満足度	レイノルズによるケースワークの定義
夜間中学	ユテリアン	米子事件	罹災救助基金法	利用者の評価	レイブ
夜間養護事業	ユナイテッド・ウエイ	呼び寄せ老人	リサーチ	利用者保護システム	レイン委員会報告
薬害問題	ユニセフ（国際連合児童基金）	予防（疾病・事故の）	リサーチャー・ブラクティショナー	利用者（ユーザー）	レインの定義
薬剤師	ユニタリー方式	予防精神医学	リスクマネジメント	量子理論	レインの定義の特徴
薬剤師法	ユニットケア方式	予防接種	リスト付きバス	両親教育	歴史的経緯
薬事法	ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）	予防接種健康被害救済制度	リスト/リストラクト	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
約束を結ぶ技術	夢の実演	予防的監督	ユアリング	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
薬物問題	夢分析	予防的サービス	リスボン宣言	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
薬物乱用	「ゆらぎ」の定義	読み聞かせ文庫	理想化	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
薬物乱用カウンセラー	「ゆらぎ」の3つの側面	読み易さの原理	リソース	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
薬物乱用コーディネーター	「ゆらぎ」ことができる力	嫁と姑	リソース・マトリックス	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
薬物乱用治療専門家	ユング心理学	予約面接	リーダー	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
役割不連続	ユング派	世論	リソース・マトリックス	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
役割相手	養育	四システム領域の流れ	リーダー	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
役割演技	養育期	4要素	リーダーシップ研究論	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
役割演技法	養育困難	来所相談	リーダーシップに含まれる性質	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
役割過多	養育困難	来所を決定する条件	リーダーシップ論	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
役割葛藤	要援護者	来談者（クライアント）	利他主義	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
役割間または立場間の葛藤	要援護者ノ強さ	来談者中心カウンセリング	利他性	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
役割距離	養護老人対策	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの特長	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
役割群	要援助者（クライアント）	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
役割限界把握	要介護者の介護	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
役割遂行	要介護状態	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
役割設定	要介護状態（介護保険）	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
役割特性	要介護状態区分	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
役割内または立場内の葛藤	要介護認定の手順	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
役割の曖昧さ	要看護ケース	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
役割の相補性	要救護性	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
役割・方法構造	要綱行政	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
「役割網の中の生成途上の人間」	養護教員	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
役割モデリング	養護施設との協働	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
夜警国家	養護児童	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
矢田部ギルフォード性格検査	養護老人ホームの費用負担	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
薬価参照価格制度	要支援者	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
やどかりの里	用心	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
柳園訴訟	羊水診断	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
山形会議	陽性感情	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
大和川病院事件	養生所	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
ヤングハズバンド報告	陽性症状・陰性症状	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
唯物論アプローチ	幼稚園	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
	幼稚園教育要領	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
	要否判定	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
	要扶養児童家庭援助（AFDC）	来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義の特徴
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	歴史的経緯
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	ワークの定義
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイブ
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レイン委員会報告
		来談者中心ケースワーク	リーチング・アウトの方法	両親教育・幼児発達プログラム	レインの定義

連携レベル	老人クラブ活動	老人ホームヘルプサービス事業	労働省	ロビーイング	ワーカー・クライアント
連結	老人ディサービスセンター	労働安全衛生法	労働政策審議会	ロビー活動	境界未分化型援助構造
連結ピン組織	ー	労働委員会	労働能力	ロー・ペイ・ユニット	ワーカー・クライアント
連合型	老人診療報酬点数表	労働衛生	労働能力(有能)貧民	ローマクラブ	の無意識の対話
連合船員サービス	老人大学	労働可能貧民	労働の機会の提供	「ローラーコースター型」	ワーカー・システム
連続性	老人短期入所施設	労働基準監督官	労働白書	ローリング	ワーカー受諾の原理
連続帯	老人ディサービス事業	労働基準監督署	労働不能貧民	ロールプレイ (役割演技)	「わかち合い」
連続的アセスメント	老人の心理	労働基準法	労働不能(無能) 貧民	ロールプレイを行う目的	ワーカーの介入率
連邦コミュニティ開発政策	老人の病気	労働組合	労働分配率	ロール・モデリング	ワーカーのクライアント
連絡・調整	老人白亜館会議	労働組合法	労働保険審査会	ロール・モデリング	に対する反応
連絡調整会議	老人病院	労働権	労働力人口	ローレンツ曲線	ワーカーの個性
連絡調整組織	老人病サービスのコーディネーター	労働災害	労働力調査	ロングターム・ケア (LTC)	ワーカーの自己覚知の原則
連絡・調整の技術	老人病のソーシャルワーカー	労働三法	労働力流動化政策	ロンドン調査	ワーカーの自己活用
聾学校	老人病の部分的入院プログラム	労働時間	老年化指数	論理療法	ワーカーの重要な技術
老化の特徴	老人病の責任者	労働者共済	老年期の介護課題	YMCA, YWCA	ワーカーホリック
漏救 (給)	老人福祉	労働者健康状況調査	老年社会学	歪度	わかりやすくすること
瘻口栄養法	老人福祉活動	労働者災害扶助法、労働者災害扶助責任保険法	老年人口指数	ワイマール憲法	枠組み替え (リフレーミング)
労災かくし	老人福祉施設倫理綱領	労働者災害補償保険	老年人口比率	Y 理論	枠組み論・サービス論
労災保険の適用対象	老人福祉の機関	労働者災害補償保険法	労務管理	ワーカーがとるべき役割	ワークシステム
労災保険法	老人福祉法第 13 条	労働者疾病保険 (ドイツ)	老齡基礎年金	ワーカー側の問題	ワークシステム
労災保険料	老人福祉法等の一部を改正する法律	労働者派遣事業	老齡厚生年金	ワーカー境界未分化型援助構造	ワグナーレポート
労災民事裁判	老人訪問看護制度	労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律	ローカル・ディベロップメント	わが国の児童相談所	ワークハウス・システム
労使の紛争	老人保健計画	労働者福祉事業団	ロジスティック回帰分析	ワーカークライアント関係	ワーデン
老人アパート (老人向け借り上げアパート)	老人保健制度	労働者法	ロジャース派	ワーカー・クライアント間における協働	我われ意識
老人医療制度	老人保健福祉圏域	労働者保険綱領	ロスの定義	ワーカー・クライアント境界分化型援助構造	輪をつくること
老人医療費一部負担	老人保健福祉事業		ロスの定義の特徴		ワンデル報告
老人医療無料化			ロスマンの 3 つのモデル		
老人介護士					

3. 第2次抽出項目

第2回の抽出作業では、次の作業を行った。

用語の重要度の決定

第1回目の抽出作業で抽出された、用語の重要度を1～3で分類した。

重要度1：ふつう

重要度2：重要

重要度3：とても重要

定義の抽出作業

項目抽出協力者に改めてご協力していただき、文献中より用語の定義と思われる記述を抽出した。ただし、用語の重要度2、あるいは1のものに関しては、可能な限り重要度3の類義用語にまとめるような形で集約した。なお、重要度3の用語も同じような定義が考えられる用語がある場合、まとめた。

抽出作業により重要度1～3に分類した用語を以下に示す。ただし、まとめられた後の用語を記述しているわけではなく、意味や読みが同じでも表現が異なる場合は全て掲載してある。

重要度3

アイデンティティ、アウトリーチ、アカウントビリティ、アカウントビリティ（行政の説明責任）、アクション・システム、アクション・リサーチ、アクセシビリティ、アグレッシブ・ケースワーク、アセスメント、アディクション・アプローチ、advocacy、アドボカシー、コース・アドボカシー、アドミニストレーション、アメニティ、アンビバレンス、いいかえ、医学モデル、一般システム論、意図的介入の原則、意図的な感情の表出、意図的な感情表現、イネープリング、医療社会事業、医療ソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー、インクルージョン、因子分析、インターグループ・ワーク、インター・グループワーク、説、インターフェイス、インターベンション、インターベンション（介入）、インテーク、インテークの目的と機能、インテーク面接、インテグレーション、インフォーマル・ケア、インフォーマル・システム、インフォームド・コンセント、インフォームド・コンセント、エコ・システムズ、エコシステム、エコ・マップ、エコマップ、家族図、エコロジカル・アプローチ、エコロジカル・ソーシャルワーク、エコロジカル・パースペクティブ、SST、エバリュエーション、エルバーフェルト制度、援助過程、援助関係、援助計画、援助計画実行、援助契約、援助者、「エンパワメント」、empowerment、エンパワメント、エンパワメント、エンパワメント・アプローチ、回帰分析、介護保険、介護保険制度、カイ2乗検定、介入、カウンセラー、カウンセリング、家庭、家族システム理論、家族診断、家族ソーシャルワーカー、家族ソーシャルワーク、家族療法、家族療法アプローチ、課題中心ソーシャルワーク、課題中心モデル、価値、葛藤、「過程」、過程、環境、環境モデル、観察法、感情移入、感情転移、感情の反映、感情の反射、感情の目的々表現、間接援助技術、間接的援助技術、「間接療法」、間接療法、完全参加と平等、「危機介入」、危機介入、危機介入アプローチ、機能主義、「機能主義学派」、機能主義学派、キーパーソン、基本的人権、「逆転移」、逆転移、教育機能、「共感」、共感、共感、クライエント、クライエント・システム、クライエントシステム、クライエント中心療法、クライエント中心理論、クライエントの自己決定、クリティカル・パス、クリニカル・ソーシャルワーク、グループ・カウンセリング、グループ・スーパービジョン、グループスーパービジョン、グループ・ダイナミクス、グループダイナミクス、グループ・ダイナミクス、グループワーカー、グループ・ワーク、グループワーク、グループワークの過程、グループ・ワークの原則（コノプカ）、グループワークの原則、グループワーク、グループ・ワークの過程、クロス集計、グローバリゼーション、ケアカンファレンス、ケアマネージメント、ケアマネジメント、ケアマネジメントシステム、ケアマネジメントの過程、ケア・ワーク、ケアワーク、芸術療法、傾聴、系統抽出法、系統的脱感作法、系統的抽出法、「契約」、契約、ケース・カンファレンス、ケースカンファレンス、ケース記録、ケース・スタディ、ケーススタディ、ケースワーカー、ケースワーク、ケースワークカンケイ、ケースワーク関係、ケースワークの過程、原因論的診断、言語化、言語的コミュニケーション、権利擁護、効果測定、交互作用、公衆衛生、肯定的意味づけ（ポジティブ・コノテーション）、行動変容アプローチ、行動療法、「行動理論」、行動理論、個人の尊重、コーディネート、コーディング、コーピング、個別援助技術、個別援助技術（ケースワーク）、「個別化」、個別化、個別面接調査法、「コミュニケーション」、コミュニケーション、コミュニティ、コミュニティ・ケア、コミュニティケア、コミュニティソーシャルワーク、コミュニティ・ディベロップメント、コミュニティ・プランニング、コミュニティ・リレーションズ、コミュニティワーカー、コミュニティワーク、コミュニティワーク、コンサルタント、コンサルテーション、コンシューマー、コンピテンス、コンビネーション・アプローチ、コンビネーション・アプローチ、サイコドラマ、サブ・グループ、サブゴール、サブシステム、サポートグループ、サポート・ネットワーク、参加的アクションリサーチ、参加の原則、参与観察、ジェネラリスト、ジェネラリスト・アプローチ、generalist approach、ジェネラリスト・アプローチ、ジェネラリストアプローチ、ジェネリック・アプローチ、generic approach、ジェネリック・ソーシャルワーク、ジェノグラム、自我、自我心理学、自記式調査法、自己開示、「自己覚知」、自己覚知、「自己決定」、自己決定、自己決定の原則、自己実現、支持的機能、支持的技法、自助グループ、「自助」原則、支持療法、「システム理論」、システム理論、施設の社会化、持続的指示、実習教育、実証研究、実践、実践アプローチ、実践モデル、質的変数、質問紙、質問紙法、指定居宅介護支援事業者、指定居宅サービス事業者、児童虐待の防止等に関する法律、児童相談所運営指針、児童手当、児童手当法、児童デイサービス事業、児童の権利に関する条約、児童扶養手当法、社会活動法、社会活動法（ソーシャルアクション）、社会計画モデル、社会構成主義、社会資源、社会システム、『社会診断』、社会診断、社会生活技術訓練、社会調査、社会的学習モデル、社会的機能、社会的処遇、社会的諸目標モデル、社会的ニーズ、社会福祉運営管理、社会福祉運営管理（ソーシャル・アドミニストレーション）、社会福祉援助活動、社会福祉援助技術、社会福祉計画、社会福祉計画（ソーシャル・プランニング）、社会福祉サービス、社会福祉士、社会福祉資源、社会福祉実践、社会福祉専門職、社会福祉調査、社会福祉調査

法, 自由回答法, 終結, 集合調査法, 集団援助技術, 集団援助技術 (グループワーク), 集団療法, 住民主体の原則, 自由面接法, 主訴, 守秘義務, 受容, 受容の原則, 状況のなかの人, 焦点化, 焦点面接法, 処遇, 自律支援, 自立支援, 事例研究, 事例調査, 人権尊重, 診断主義, 診断主義学派, 診断主義ケースワーク, 診断主義派, 心的外傷後ストレス障害, 心的外傷後ストレス症候群, 信頼関係, 信頼性, 心理劇, 心理・社会的アプローチ, 心理的・社会的アプローチ, 「心理社会的アプローチ」, 心理・社会的アプローチ, 心理社会的アプローチ, 「心理療法」, 心理療法, スクリーニング・テスト, ストレングス視点, スーパーバイザー, スーパーバイジー, スーパービジョンの機能, スペシフィック, スペシフィック・ソーシャルワーク, 生活, 生活場面面接, 「生活モデル」, 生活モデル, 生活歴, 精神医学ソーシャルワーカー, 精神衛生運動, 精神分析, 折衷主義, 説明責任, セルフ・アドボカシー, セルフアドボカシー, セルフ・ヘルプ, 「セルフ・ヘルプ」, セルフヘルプ, セルフ・ヘルプ・グループ, セルフヘルプ・グループ, 「セルフ・ヘルプ・グループ」, 「セルフヘルプ・グループ」, セルフ・ヘルプ・グループ, セルフヘルプ・グループ, セルフヘルプグループ, 選別主義, 専門知識, 相互援助ネットワーク法, 相互援助モデル, 相互作用, 持続的支持, 組織化説, ソーシャル・アクション, ソーシャルアクション, ソーシャル・アドミニストレーション, ソーシャルアドミニストレーション, ソーシャルインクルージョン, ソーシャル・ウェルフェア・アドミニストレーション, ソーシャルウェルフェア・アドミニストレーション, ソーシャル・グループ・ワーク, ソーシャル・グループワーク, ソーシャル・ケース・ワーク, ソーシャル・ケースワーク, ソーシャルサービス, ソーシャル・サービス, ソーシャルサポート・ネットワーク, ソーシャルネットワーク, ソーシャル・プランニング, ソーシャル・ポリシー, ソーシャルワーカー, ソーシャルワーカー, ソーシャル・ワーク, ソーシャルワーク, ソーシャルワーク過程, ソーシャル・ワーク実践, ソーシャルワーク実践, ソーシャルワークの価値, ソーシャル・ワークの機能, ソーシャルワークの視点, ソーシャルワークの統合化, ソーシャルワークの目標, ソーシャル・ワークの目標, ソーシャルワークの目標, ソーシャルワーク・リサーチ, 対処能力, 対人援助サービス, 対人福祉サービス, 代弁, ターゲット・システム, タスク・ゴール, タスクゴール, 「多問題家族」, 多問題家族, 地域援助技術, 地域援助技術 (コミュニティワーク), チームアプローチ, チームワーク, 仲介機能, チューニング・イン (波長あわせ), 調停機能, 直接援助技術, 治療機能, 治療モデル, ディブリーフィング, 転移, 動機づけ, 統合理論, 統制させた情緒関与, 統制された情緒関与, 統制的観察法, 外傷体験, トリートメント, 七つの原則, バイステックの七つの原則, ニーズ, ニーズ・資源調整説, 認知行動理論, ネットワーキング, ネットワーク, ネットワーク会議, ネットワーク療法, ノーマライゼーション, 箱庭療法, 波長合わせ, 「場面構成」, 場面構成, バリア・フリー, バリアフリー, バンクチュエーション, ピア・カウンセリング, ピア・カウンセリング, ピア・スーパービジョン, ピア・スーパービジョン, ピアスーパービジョン, 非言語コミュニケーション, 「非言語的コミュニケーション」, 非言語的コミュニケーション, 非審判的態度, 「非審判的態度」, 非審判的態度, 秘密保持, 秘密保持の原則, ヒューマニズム, 評価, 標本調査, ファミリーマップ, 「フィードバック」, フィードバック, フェイス・シート, フェイスシート, フェースシート, フェミニスト・カウンセリング, フォーマルケア, フォーマル・サポート・ネットワーク, 福祉公社, 福祉サービス, 福祉社会, 福祉組織化, プライバシーの権利, プランニング, プログラム活動, プロセス・ゴール, プロセスゴール, プロセス評価, 防衛機制, 方法論, マッピング技法, multi-method approach, マルチメソッド・アプローチ, 無条件の肯定的尊重, 明確化, メゾ・レベル, 面接, モデリング, モニタリング, 「問題解決アプローチ」, 問題解決アプローチ, 「問題解決モデル」, 問題解決モデル, 「要約記録」, 要約記録, 抑圧, 来談者中心ケースワーク, ライフストーリー, ライフモデル, ラポート, ラポート (ル), 力動的診断, リスクマネジメント, リーチアウト, リハビリテーション・ソーシャルワーク, 利用者, リレーションシップ・ゴール, リレーションシップゴール, 臨床ソーシャルワーク, レジデンシャル・ソーシャルワーク, レジデンシャル・ワーク, 連携 (コーディネーション), 連携機能, ロールプレイ, ワカビリティ

重要度 2

4 つの総体, 四つの総体, 「多次元的アセスメント」, アドラー心理学, 「意思療法」, 一般システム理論, イネーブラー, イネブラー, 医療ソーシャルワーク, インフォーマル・ネットワーク, ウェル・ビーイング, ウェルビーイング, エゴ, エス, 「SHGモデル」, F検定, エンカウンター・グループ, エンカウンターグループ, 学習理論, カタルシス, 学校ソーシャルワーク, 環境療法, 環境療法 (間接療法), 感受性訓練, 間接的介入, 危機介入モデル, 危機理論, 機能的アプローチ, 共感的理解, ケアプラン, 生活構造, 顕在的ニーズ, 交互作用モデル, 構造化面接, 構造的アプローチ, 構築主義, 行動科学, 合同家族面接, 合同家族療法, 行動的家族療法, 行動分析, 行動変容モデル, コーディネーター, 再評価, 最頻値, 再保証, 産業ソーシャルワーク, ジェノグラム, 自己評価, 実存主義アプローチ, 社会サービス, 社会システム論, 社会諸目標モデル, 社会生活ニーズ, 社会的目標モデル, 社会福祉援助, 社会福祉の倫理, 社会不適応, 社会変革機能, 「社会療法」, 集団力学, 住民参加, 主体性尊重の原理, 純粋性, ジョイニング, 条件づけ, 条件付け, 小集団活動, 小地域開発モデル, 助言, 叙述体記録, ショック療法, 自立 (律) 性尊重の原則, 事例調査法, 診断, 診断学派, スクリーニング, ストレス免疫訓練, 生活技能訓練, 精神科ソーシャルワーク, 成人社会化アプローチ, 生態学モデル, 世界人権宣言, 接近困難なクライアント, セラピューティック・レクリエーション・サービス, セラピューティック・レクリエーションサービス, セルフ・エスティーム, セルフエスティーム, 潜在的ニーズ, 全数調査, 専門ソーシャルワーク, ソシオグラム, ソーシャルワーク調査, ソーシャルワーク面接, 第一次分野, ターミナル・ケア, ターミナルケア, 「単一事例実験計画法」, 単一事例実験計画法, 地域福祉調査, チームスーパービジョン, 超自我, 直接処遇, 直接的指示, 治療的モデル, デルファイ法, 投影法, 統計調査, 統計調査法, 統合ソーシャル・ワーク, 閉じられた質問, ナラティブ・モデル, 「二重の関心」, ニード, ネットワーク・アプローチ, 「ノーマライゼーションの思想」, ノーマライゼーションの思想, パーソナリティ, 「反省的話し合い」, 反省的話し合い, 開かれた質問, ファシリテーター, フェミニスト・アプローチ, フェミニスト・ソーシャルワーク, ふりかえり, 振り返り, ブレインストーミング, プロフェッション, 閉鎖システム, ホメオスターシス, ホメオスタシス, ボランティアズム, ミクロ, メタファー, モチベーション, モノグラフ, 「問題」, 問題, 役割理論, 予防的サービス, レクリエーション, レクリエーションワーク, レクリエーション・ワーク

重要度 1

12 ステップ・グループ, A. A. の 12 ステップ, A. A. の 12 の伝統, 12 ステップ・グループ, 四つの P, 四つの p, 4 つの P, 4 つの P, 4 つの P, 非審判的態度の原則, バイステックの援助原則, クオリティ・オブ・ライフ, アセスメント

シート、アセスメントシート（事前評価用紙）、アセスメントの流れ、アセスメントの目的、アセスメント方式、アセスメント面接、社会診断（アセスメント）、社会診断の原則、社会診断の目的、社会診断論、ニーズ・アセスメント、アドボケイター、アドボケイト、アドボケーター、クラス・アドボカシー、代弁的機能（アドボカシー）、弁護・アドボカシー型ソーシャルアクション、「弁護的機能」、代弁者（アドボケーター）、意図的な感情表出、イネイブリング、イネイブラー、イネープリング役割、病院ソーシャルワーカー、インターグループワーク理論、インターグループワーク論、インターベンション期、インターベンション統合論、インターベンションによる統合化、インターベンションの基本、インターベンションの戦略、インターベンションの目標、インターベンションの目標設定、インターベンションの枠組み、介入（インターベンション）、インテーク（受付面接）、インテーク（導入）、インテークの概要、インテークの機能、インテークの目的、インテーク、インテークワーカーの機能、受理、受理面接、初回面接、インフォーマル・サービス、インフォーマルサポート、インフォーマルなサポート・ネットワーク、インフォーマルな支援、インフォーマルなシステム、インフォームド・チョイス、インフォームド・デシジョン、ウェルビーイング、エコシステムの視座、生態地図、エコシステム論、エコロジー、エコロジカル・システム・モデル、エコロジカル・ソーシャルシステム、エコロジカル・モデル、エコロジカルな視点、生態学（人間生態学）、生態学システムモデル、生態学的／システム・モデル、生態学的思考、生態学的思考による生活モデル、生態学の視点、事後評価、援助計画実施、援助計画の実行、計画化、ケースワークにおける治療計画、個別支援計画、処遇計画、エンパワーメント志向のソーシャルワークの過程、エンパワメントの過程、エンパワリング、強化（エンパワー）、主体の形成（エンパワメント）、オンブズパーソン制度、オンブズマンパーソン、オンブツ制度、個人カウンセリング、学習、家族ケースワーク、家族中心ケースワーク、家族中心の接近、ファミリースカラプチェアー、「構造的家族療法」、構造的家族療法、課題解決型アプローチ、課題解決志向のアプローチ、課題中心アプローチ、課題中心理論、「課題中心ケースワーク」、課題中心ケースワーク、コンフリクト、コンプレックス、ケースワークの援助過程、個別援助技術の過程、コミュニティワークの過程、終結期、集団過程、ケースワークにおける環境調整、ケースワークの環境調整、危機介入の基本概念、危機介入理論、「機能主義的ケースワーク」、機能主義モデル、機能派、機能学派、機能主義ケースワーク、（機能主義における）援助過程、機能主義学派（ペンシルバニア学派）、機能主義学派の考え、機能派のおもな特徴、「機能派」のケースワーク、機能派のワーカー、「自覚しない逆転移」、説明体記録、クライアント中心のアプローチ、グランデッドセオリー法、グループワーカーの役割と機能、グループワークの意義、グループワークの援助過程、グループワークの機能、グループワークの記録、集団援助、集団援助活動、集団援助技術の意義、集団援助技術の基礎、集団援助技術の構造、集団援助技術の定義、集団援助技術の定義（コノブカ）、集団援助技術の定義（ニューステッター）、集団援助技術の展開過程、集団援助技術の発展、集団援助技術のモデル、集団援助の原則、集団援助の展開過程、準備期（集団援助技術）、小集団、小集団心理学、小集団討議、ソーシャル・グループワークの方法、ケア・コーディネーション、ケアコーディネーション、ケアマネジメント（介護保険制度）、ケアマネジメント（社会福祉援助調整法）、ケアマネジメントの技術過程、ケアマネジメントの機能、ケアマネジメントでのニーズ、ケアマネジメントの概念、ケアマネジメントの技法、ケアマネジメントの原理、ケアマネジメントの構成要素、ケアマネジメントの対象、ケアマネジメントの定義、ケアマネジメントの定義（白澤政和）、ケアマネジメントの定義（橋本泰子）、ケアマネジメントの定義（マクスリー）、ケアマネジメントの目標、精神障害者ケアマネジメント、契約の方法、契約文化、契約方式、約束を結ぶ技術、ケース・アドボカシー、ケース（ケア）カンファレンス、事例検討、事例検討会、ケース記録の記述様式、事例記録、実践のためのケース研究（事例検討）、ケースヒストリー、ケースマネージャー機能、ケースマネジメント・システム、ケースマネジメント技法、ケースマネジメント役割、ケースワークの原則、ケースワークの原理、ケースワークの構成要素、ケースワークの定義（パールマン）、ケースワークの評価、ケースワークの母胎、ケースワークの面接、ケースワークの理論家、ケースワーク面接、個別援助、個別援助活動、個別援助技術（NASW）、個別援助技術（ジャーマイン）、個別援助技術（パートレット）、個別援助技術（パールマン）、個別援助技術（ハミルトン）、個別援助技術（パワーズ）、個別援助技術（ホリス）、個別援助技術（リッチモンド）、個別援助技術の意義、個別援助技術の構造、個別援助技術の定義、個別援助技術の展開過程、個別援助的諸活動、個別援助の原則、個別援助の構造、個別援助の展開過程、「ソーシャル・ケース・ワークとは何か」、ケースワークの過程（リッチモンド）、ケースワークの基本的枠組み、ケースワーク原則、個別援助技術の機能、ケースワークの自己原則、効果測定尺度、効果測定のプロセス、探索的效果測定、探索的效果測定の方法、肯定的配慮、合同夫婦家族療法、行動ケースワーク、行動主義モデル、行動主義理論、行動的カウンセリング、行動療法アプローチ、行動療法学派、行動療法の段階、Individualization、クライアントの個別性の尊重、個別化の原理、個別化原則、個別性の尊重、対人コミュニケーション、コミュニティ・オーガニゼーション、コミュニティ・オーガニゼーション理論、コミュニティ・グループ、コミュニティ・プラン、コミュニティワークの原則、地域援助活動、地域援助技術の意義、地域援助技術の援助原則、地域援助技術の基礎、地域援助技術の機能、地域援助技術の構造、地域援助技術の定義、地域援助技術の発展、ソーシャル・コンサルテーション、コンペテンシー、Competency、サービス・ニーズ、サービスの質、サービスマネジメント、サービスニーズ、サポートシステム、参与的観察法、ジェネリック、ジェネリック・ソーシャル・ケースワーク、一般ソーシャルワーク、ジェネラリスト・ソーシャルワーク、ジェネラル・ソーシャルワーク、ジェネリック・ソーシャルワーク実践モデル、ジェネリック・ソーシャルワークの特徴の一つ、家族関係図、自己覚知の意義、自己覚知の過程、自分を知る、自分を知ること、ワーカーの自己覚知の原則、Client self-determination、自己決定の支援、自己決定の尊重、自己実現ニード、自己実現の権利、自己同一性、事後評価（エヴァリュエーション）、「支持的」ケースワーク、支持的スーパービジョン、支持的療法、（セルフヘルプ・グループの初期の段階で必要とされる）リーダーシップの資質、セルフヘルプ・グループ（イギリス）、「セルフヘルプ・オーガニゼーション」、セルフヘルプ・グループのソーシャルアクションの方法、セルフヘルプ・グループのメンバー、セルフヘルプ・グループのリーダー、セルフヘルプの原理と方法の具体化、システム・アプローチ・モデル、システムズ・アプローチ、システム論的アプローチ、システム論的家族療法、一般システム・アプローチ、一般システム・モデル、悉皆調査、「ケースワーク実習」、実存主義的ケースワーク、質的リサーチ、質問紙法（自計式）・面接調査法（他計式）、「自発性のあるクライアント」、自発的クライアント、社会福祉計画の経緯、社会福祉計画法（技術）、社会福祉計画法（ソーシャルウェルフェア・プランニング）、社会福祉運動、社会運動、社会活動、ソーシャルスキルトレーニング、社会踏査、運営管理、社会福祉施設運営管理、ソーシャル・ウェルフェア・プランニング、社会福祉サービス提供の原則、社会福祉サービスの基本理念、社会目標モデル、終結の理由、グループワークの定義、コイルの定義、秘密保持義務、Acceptance、クライアントの受容、受容体験、受容的モード、受理面接（インテーク面接）、リファール、リファール、事例研究法、ケースワークの診断、社会的診断、診断主義学派（ニューヨーク学派）、「診断派」の過程、「診断派」のケースワーク、「診断主義的ケースワーク」、診断主義的ケースワーク、診断派、心的外傷、スクリーニングシステム、

ストレングス・アプローチ、ストレングスモデル、査察指導員、ケースワークの学習やスーパービジョンのプロセス、ケースワークの処遇、技術面を中心としたスーパービジョン、個別スーパービジョン、集団スーパービジョン、スーパーバイザーの課題、スーパーバイザーの仕事、スーパーバイザーの職責、スーパーバイザーの役割、スーパーバイザーの養成、スーパーバイザーへの依存、スーパーバイザー連絡協議会の設立の必要性、スーパーバイジィー、スーパーバイジー経験、スーパービジョン、スーパービジョン（指導監督法）、スーパービジョン関係、スーパービジョン訓練、スーパービジョン構造、スーパービジョンシステム、スーパービジョンと記録、スーパービジョンの意義、スーパービジョンの形態、スーパービジョンの構造、スーパービジョンの視点、スーパービジョンの内容、スーパービジョンの発展、スーパービジョンのプロセス、スーパービジョンの方法、スーパービジョン、生活モデルによる実践、生活モデルによる七つの実践機能、生活モデルによる問題解決の目標、ライフモデル（生活モデル）、ライフヒストリー、PSW、精神分析理論、精神療法、生態学的観点、生態学的視点、折衷主義派、セルフケア、自助、SHG（岡による定義）、SHGモデルの特性、自助（セルフ・ヘルプ）、セルフヘルプ活動、セルフヘルプ・グループ「運動」、戦略的・組織的作用、相互援助システム、相互作用／媒介モデル、相互作用モデル、ソーシャルウェルフェア・プランニング、『ソーシャル・ケースワークとは何か』、ソーシャル・サポート・ネットワーク、ソーシャル・サポート・ネットワーク、ソーシャルサポート、社会生活技能、社会生活技能訓練法、社会的スキル訓練、ソーシャルネットワークマップ、機能派のソーシャルワークの定義（スモーリー）、ソーシャルワーク理論、バイスティックによる定義、バイスティックの7原則、バイスティックの7原則、バイスティックの7つの原則、ソーシャルワークの理論、ソーシャルワークの倫理、対処、対人援助技術、代弁機能、代弁的機能、マルチプル・ベースライン・デザイン、単一事例実験デザイン、シングル・システム・デザイン、シングルサブジェクト・デザイン、小地域活動システム、仲介人（ブローカー）、仲介役割、スーパーエゴ、仲介者（メディエーター）、調停者（メディエーター）、直接援助技術の概要、直接介入、直線的因果律、治療、治療グループ、陰性転移、転移という問題、転移の源、統合化された実践モデル、統合化志向の時代、統合化ソーシャルワーク実践モデル、統合されたソーシャル・ワーク実践、統合ソーシャル・ワークの目標、当事者主体型ソーシャルアクション、統制された情緒的関与の原則、Controlled Emotional Involvement、統制された情緒関与の原則、統制された情緒的関与、閉鎖システム（クローズド・システム）、閉ざされた質問、トラウマ、援助、ケースワーク処置、ナラティブ・アプローチ、「ナレイティブモデル」（あるいは物語モデル）、ナラティブセラピー、個人的欲求、社会福祉ニーズ、ニーズ・オリエンティド（ニーズ志向型）、ニーズキャッチ、ニーズ資源調整理論、ニーズ即応の原則、ニーズの概念、ニーズ判定、ニーズ・アセスメント、ニーズ分析、認知行動的催眠療法、認知行動療法、認知的行動変容、認知療法、ネットワーク・セラピー、媒介・過程モデル、「媒介的機能」、nonjudgemental attitude、クライアントの秘密保持、Confidentiality、エバリュエーション、結果評価、サンプリング、サンプリング台帳、サンプル、公的資源システム、フォーマルなサポート・ネットワーク、フォーマルな社会制度、閉鎖的グループ、弁護活動、自己防衛機制、マネジド・ケア、無条件の肯定的な関心、無条件の肯定的な配慮、メゾ（中範囲）水準、個別面接、面接時間の長さ、面接の意義、面接の構成要素、面接の構造、面接の時間、面接の前提、面接の場所、面接をする者のもっとも重要な道具、面接調査法、モデリング療法、模倣学習、「模倣的学习」、モニタリング（点検・評価）、モニタリングシート（経過観察用紙）、モニタリングの位置づけ、モニタリングの効果、モニタリングの方法、問題解決訓練、問題解決対応技術、問題解決法、問題解決過程、問題（ニーズ）の把握、問題発見の技法、役割距離、役割限界把握、役割遂行、役割・方法構造、役割モデリング、プレイセラピー、「ゆらぎ」の定義、「ゆらぎ」の3つの側面、「ゆらぐ」ことができる力、来談者中心カウンセリング、生活史、信頼関係保持の技術、リーチング・アウトの特長、リーチング・アウトの方法、量的変数、量的リサーチ、ソーシャルワーカーの倫理綱領、日本ソーシャルワーカー協会倫理綱領、連携、連絡・調整活動、実演（ロールプレイ）、役割演技法、ロールプレイ（役割演技）、ロールプレイを行う目的、ロールプレイング、合理情動催眠療法、合理情動療法

わが国の社会福祉教育，特にソーシャルワークにおける
基本用語の統一・普及に関する研究報告書

2005（平成17）年3月

社団法人日本社会福祉士養成校協会

会 長 高 橋 重 宏

社団法人日本社会福祉士養成校協会専門用語委員会

委員長 山 縣 文 治